関内地区地域会館新築工事（建築主体）

図面番号	図面名称	縮尺
Ａ－０１	表紙、図面リスト	－
Ａ－０２	特記仕様書（１）	－
Ａ－０３	特記仕様書（２）	－
Ａ－０４	特記仕様書（３）	－
Ａ－０５	特記仕様書（４）	－
Ａ－０６	特記仕様書（５）	－
Ａ－０７	附近見取図、配置図	1:NS、1:600
Ａ－０８	求積図	1:200
Ａ－０９	仕上表	－
Ａ－１０	平面図	1:100
Ａ－１１	屋根伏図	1:100
Ａ－１２	立面図（１）	1:100
Ａ－１３	立面図（２）	1:100
Ａ－１４	断面図	1:100
Ａ－１５	矩計図	1:50
Ａ－１６	断面詳細図	1:50
Ａ－１７	平面詳細図（１）	1:50
Ａ－１８	平面詳細図（２）	1:50
Ａ－１９	平面詳細図（３）	1:50
Ａ－２０	平面詳細図（４）	1:50
Ａ－２１	展開図（１）	1:50
Ａ－２２	展開図（２）	1:50
Ａ－２３	展開図（３）	1:50
Ａ－２４	展開図（４）	1:50
Ａ－２５	展開図（５）	1:50
Ａ－２６	展開図（６）	1:50
Ａ－２７	展開図（７）	1:50
Ａ－２８	建具配置図	1:100
Ａ－２９	建具表（１）	1:50
Ａ－３０	建具表（２）	1:50
Ａ－３１	建具表（３）	1:50
Ａ－３２	天井伏図	1:100
Ａ－３３	部分詳細図（１）	1:30
Ａ－３４	部分詳細図（２）	1:50
Ａ－３５	家具配置図	1:100

図面番号	図面名称	縮尺
Ａ－３６	家具詳細図（１）	1:30
Ａ－３７	家具詳細図（２）	1:30
Ａ－３８	家具詳細図（３）	1:30
Ａ－３９	厨房機器配置図・機器表	1:50
Ａ－４０	アーチウェイ詳細図	1:70、1:10
Ａ－４１	浄化槽詳細図	1:60

図面番号	図面名称	縮尺
Ｓ－０１	構造特記仕様書	－
Ｓ－０２	木造軸組接合部標準図（１）	－
Ｓ－０３	木造軸組接合部標準図（２）	－
Ｓ－０４	木造軸組接合部標準図（３）	－
Ｓ－０５	木造軸組接合部標準図（４）	－
Ｓ－０６	木造軸組接合部標準図（５）	－
Ｓ－０７	木造軸組接合部標準図（６）	－
Ｓ－０８	構造配筋基準（１）	－
Ｓ－０９	構造配筋基準（２）	－
Ｓ－１０	構造配筋基準（３）	－
Ｓ－１１	基礎伏図	1:100
Ｓ－１２	基礎詳細図	1:30
Ｓ－１３	床伏図	1:100
Ｓ－１４	梁伏図	1:100
Ｓ－１５	小屋伏図	1:100
Ｓ－１６	壁量計算図	1:200

関内地区地域会館新築工事（建築主体）

株式会社 建築設計工房ロゴス
１級建築士事務所 登録 （渡）第 156号
１級建築士登録 第265505号 前田 健二

特記事項

訂正事項

検図		担当	作成

表紙、図面リスト

縮尺
１：
１：
１：

図面番号
Ａ－０１

関内地区地域会館新築工事（建築主体）　特記仕様書

Ⅰ　工　事　概　要

1　工事番号・名称：関内地区地域会館新築工事（建築主体）
2　工　事　場　所：二海郡八雲町熊石関内町地内
3　用途地域等
　都市計画区域（・　内　⊙　外）　用途地域（　　）
　防火地域等（・　防火　・　準防火　⊙　指定なし　・　２２条　）
　その他の地域・地区（
4　主　要　用　途：集会所
5　敷　地　面　積：7,347.22㎡
6　工 事 の 概 要：【会館】… 木造、平屋建、278.23㎡
　　【アーチウェイ】… 31.44㎡

7　別　途　工　事：電気設備工事一式、機械設備工事一式、外構工事一式

8　そ　の　他

9　特記仕様書の範囲
　特記仕様書は、本特記仕様書のほか以下の○印もので構成する。
　⊙　構造特記仕様書　　・　外構工事特記仕様書　　・　植栽工事特記仕様書
　・　解体工事特記仕様書　　・　電気設備工事特記仕様書　　・　機械設備工事特記仕様書
　・　　・

Ⅱ　建　築　工　事　仕　様

1．共通仕様
　図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(令和4年版)」（以下、「標準仕様書」という。）による。ただし、標準仕様書に記載されていない事項は、「公共建築改修工事標準仕様書（令和4年版）（以下「改修標準仕様書」という。）「公共建築木造工事標準仕様書（令和4年版）」（以下「木造標準仕様書」という。）及び「建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）」(以下「解体共通仕様書」という。）による。　なお、施工条件明示書は、特記仕様書に含める。
2．特記仕様
　1）項目は、番号に○印のついたものを適用する。
　2）特記事項は、⊙印のついたものを適用する。⊙印のつかない場合は※印のついたものを適用する。⊙印と※印のついた場合は、共に適用する。
　3）特記事項に記載の（　）、＜　＞及び［　］内の表示番号は、それぞれ「標準仕様書」、「改修標準仕様書」及び「解体共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項　目	特　記　事　項
	① 一般事項	⊙ 工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合は、監督職員に報告の上，指示に従うこと。 ⊙ 受注者は、監督職員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。 ⊙ 施工体系図を現場に掲示すること。 ・ 工事着手前及び完成時に，以下に示す調査範囲の近隣家屋等の内外の状況（地盤，擁壁，内外壁，床，建具等）を調査・記録し，報告書を監督職員に提出すること。 調査範囲　※　図示
	② 道産材等の優先使用	・ 本工事に使用する主要資材は、道産資材及び北海道認定リサイクル製品を使用するよう努めること。（木材及び木材製品は除く。）
	③ 地域材の優先使用	・ 本工事に使用する木材または木材を原料とする資材を使用する場合は、地域材を優先的に使用することとし、使用した材料の種別、産地等を監督員に報告すること。 地域材とは、道内の森林で産出され、道内で加工された木材をいう。
	④ 合法木材の使用	・ 木材又は、木材を原料とする資材を使用する場合は、間伐材や合法性の証明された材を使用すること。 また、木材の合法性の証明は、「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのライドライン」（平成１８年２月林野庁）に準拠し、資材納入業者から証明を受けるとともに、証明書類を工事完了年度からから起算して５年間保存すること。
	⑤ 発生材の処理等	発生材の処理　(1.3.11) ・引渡しを要するもの（　　） ・特別管理産業廃棄物（　　） 受入れ施設名・所在地(km) ・再生資源化を図るもの 種　類 ｜ 受入施設名 ｜ 所在地(Km) ｜ 備考 ・ セメントコンクリート塊 ・ アスファルトコンクリート塊 ・ 建設発生木材 ・ 建設汚泥 ・現場において再利用を図るもの（　　） ・その他の廃棄物（安定型)(　　) 受入れ施設名・所在地(km) ・その他の廃棄物（管理型)(　　) 受入れ施設名・所在地(km) 上記の処理、処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、上記によらない場合は、監督職員と協議すること。 また、処理、処分に先立ち処分場等の受入の可否を確認すること。
	⑥ 電気保安技術者	・ 適用する　※　適用しない　(1.3.3)
	⑦ 事故報告	(1.3.9) 工事の施工中に事故が発生した場合は，直ちに監督職員に通報するとともに，監督職員から指示があった場合は「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。

⑧ 建築材料等

材料の品質等　(1.4.2)
本工事に使用する材料は，設計図書に定める品質及び性能を有するものとし，その材料にJIS又はJASのマークの表示のある場合を除いて監督職員の承諾を受ける。
特定のものが特記された場合は，設計図書に規定するもの又は，これらと同等のものとする。ただし，同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受ける。

環境への配慮　(1.4.1)
本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては，「道有施設のシックハウスマニュアル」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。

ホルムアルデヒド仕様
使用する材料のホルムアルデヒド放散量は、次のとおりとする。
ホルムアルデヒド放散量　規制対象外　の場合の建築材料
　1）ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆品
　2）建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品
　3）次の表示のあるＪＡＳ適合品
　　a．非ホルムアルデヒド系接着剤使用
　　b．接着剤等不使用
　　c．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用
　　d．ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
　　e．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用

⑨ 室内の空気中の化学物質濃度の測定

※　ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定　(1.5.9)
試料採取及び測定は，厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法と測定方法」の新築住宅の例に準拠するほか，拡散方式ではサンプラー製造所の定める仕様により行う。

測定対象物質　※ ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ（濃度指針値　100μg/m3　・　0.08ppm）
　※ ﾄﾙｴﾝ（濃度指針値　260μg/m3　・　0.07ppm）
　※ ｷｼﾚﾝ（濃度指針値　870μg/m3　・　0.20ppm）
　※ ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ（濃度指針値 3,800μg/m3　・　0.88ppm）
　※ ｽﾁﾚﾝ（濃度指針値　220μg/m3　・　0.05ppm）

測定する室等：（　研修室１・２、調理室、消防待機室　）

採取方法：吸引方式又は拡散方式とし，拡散方式では８時間採取する。

測定結果等報告書の提出
次の事項を記載した報告書を１部提出する。
a 測定結果
b 試料採取時の状況（気温・湿度（室外・室内），天候，風の状況，日射進入状況，測定年月日・時間，窓の開閉状況，機械換気量，工事完成時から測定日までの日数）
c 試料採取方法，測定方法，使用した測定機器

測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合は，引渡は受けない。

・　総揮発性有機化合物の測定
測定方法，測定物質及び測定か所等については，この仕様書の末尾に定める総揮発性有機化合物測定仕様書による。

※　室内ＶＯＣ濃度の測定結果に関する書面の当該施設への掲示については，施設管理者に依頼する。

10．特別な材料の工法

「標準仕様書」及び「改修標準仕様書」に記載されていない特別な材料の工法は，当該製品の指定工法とする。

⑪ 建築基準法による風圧力等の指定

(9.4.4)(10.5.3)(13.2.3、3.3、4.3)(14.7.3)(16.13.2、14.5)(23.5.4)

適用工事	建築基準法の指定
・ 合成高分子系ルーフィングシート工法	風速(V0)　※３４　⊙３６
・ 外壁乾式工法　・　長尺金属板葺	地表面粗度区分　・Ⅱ　⊙Ⅲ
・ 折板葺　・　粘土瓦葺	垂直積雪量　（　９０cm）
・ アルミニウム笠木	
・ オーバーヘッドドア	
・ ガラスブロック　・　屋上緑化	

⑫ 設計G.L.　※　図　示　　・　現状平均地盤高

⑬ 技　能　士　(1.5.2)
・　下表で技能士を適用することとした職種に、１級又は単一級技能士を配置する。
※　下表で技能士を適用することとした職種に、１級、２級又は単一級技能士を配置する。
※　下表で技能士を適用しないとした職種でも、技能士の配置に努めること。

工事種目	技能検定職種（技能検定作業）
仮設工事	・とび（とび作業）
鉄筋工事	・鉄筋施工（鉄筋組立作業）
コンクリート工事	・型枠施工（型枠工事作業）
	・コンクリート圧送施工（コンクリート圧送工事作業）
鉄骨工事	・とび（とび作業）
コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	・ブロック建築（コンクリートブロック工事作業）
	・ＡＬＣパネル施工（ＡＬＣパネル工事作業）
防水工事	・防水施工（・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄﾄｰﾁ防水工事作業 ・ＦＲＰ防水工事作業　）
石工事	・石材施工（石張り作業）
タイル工事	・タイル張り（タイル張り作業）
木工事	・建築大工（大工工事作業）
屋根及びとい工事	・建築板金（内外装板金作業）
	・スレート施工（スレート工事作業）
金属工事	・内装仕上施工（鋼製下地工事作業）
	・建築板金（内外装板金作業）
	・バルコニー施工（金属バルコニー工事作業）
左官工事	・左官（左官作業）
建具工事	・サッシ施工（ビル用サッシ施工作業）
	・ガラス施工（ガラス工事作業）
	・自動ドア施工（自動ドア施工作業）
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	・カーテンウォール施工（金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事作業）
	・サッシ施工（ビル用サッシ施工作業）
	・ガラス施工（ガラス工事作業）
塗装工事	・塗装（建築塗装作業）
内装工事	・内装仕上施工（・プラスチック系床仕上工事作業 ・カーペット系床仕上作業 ・ボード仕上工事作業　）
	・表装（壁装作業）
排水工事	・配管（建築配管作業）
舗装工事	・路面標示施工（・溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業 ・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ作業　）
植栽工事	・造園（造園工事作業）

⑭ 完成図等
北海道建設部監修営繕工事完成引渡要領により作成する。
※　白焼Ａ４版折製本（黒表紙金文字入）　１部
※　白焼縮小（Ａ３版）２つ折製本　１部
※　完成図面　JWW形式又はDXF形式のCADデータ及びPDF形式　CD2枚

⑮ 完成写真
※　作成する　・　作成しない
完成写真は、北海道建設部監修営繕工事記録写真撮影要領による。
なお，原版を電子媒体とする場合は，CD等で提出すること。

分類	サイズ	撮影箇所数	部数	提出様式
※カラー ・白黒	※Ｌ ・２Ｌ ・六切り	※北海道写真撮影要領の完成写真程度 ・　箇所　枚	※１部 ・　部	※工事用アルバムA4版 ・ポケット式程度 ・フリーアルバム（台紙寸法323×270程度） ・

⑯ 設備工事との取合い
施工範囲　各工事の区分表による。
施 工 図　設備機器の位置，取り合い等が検討できる施工図を提出して監督職員の承諾を受ける。

⑰ 火災保険等
工事目的物及び工事材料等について，次により保険に付す。
保険の種類　※　火災保険　※　建設工事保険
保険期間　※　工事着手から工事目的物引き渡しまで

18．住宅瑕疵担保責任
住宅瑕疵担保履行法に基づく保険の加入又は保証金の供託の義務付け
・あり（新築住宅の場合）　・なし（新築住宅以外の場合）

2 仮設工事

① 仮囲い
※　設ける　・　設けない　仮囲いの位置及び延長は図示による。
・キャスターゲート（H=　，W=　）×　箇所
・シートゲート（H=　，W=　）×　箇所

② 危害防止
※　シート張り　・　金網養生

③ 交通誘導員
・　配置する（　日　×　人　＝　人日）　※　配置しない

④ 揚重機械器具
・　トラッククレーン（　ｔ吊り）×　日
・　（　ｔ吊り）×　日

⑤ 監督職員事務所
※　設ける（請負者事務所に打合せ会議室を確保する）
・　設ける（規模　㎡程度　請負者事務所と同棟　・可　・否）
備品（　　）

⑥ 工事表示板
※　設置する　・　設置しない
営繕工事における工事及びコスト表示要領（平成１４年２月６日宮城県土木部営繕課・設備室制定）による。

⑦ 事業コスト表示板
・　設置する（１億円以上の事業が対象）　・　設置しない
営繕工事における工事及びコスト表示要領（平成１４年２月６日宮城県土木部営繕課・設備室制定）による。

⑧ 工事用水　構内既存の施設　・　利用できる（※有償　・無償）　※　利用できない

⑨ 工事用電力　構内既存の施設　・　利用できる（※有償　・無償）　※　利用できない

⑩ 工事用通路
※　指定しない　・　指定する（図示）

⑪ 足場等　(2.2.4)
足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月策定）」によるものとし、設置については「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」及び「働きやすい安心感のある足場に関する基準」によること。

3 土工事

① 埋戻し及び盛土の種別　種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(3.2.3)(表3.2.1)
Ｃ種の場合　建設発生土受入数量　㎥
発生場所

② 建設発生土の処理
・　構内指示の場所に敷きならす。　(3.2.5)
・　構内指示の場所にたい積する。
⊙　構外指示の場所に搬出する。
受入れ施設名・所在地（km）

3．有害物質含有調査
・　有害物質の含有を調査する。
調査範囲及び項目　※図示

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成型セメント板工事

1．補強コンクリートブロック造リート

ブロックの種類　(8.4.2～5)(表8.4.2～4)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モデュール呼び寸法 長さ	モデュール呼び寸法 高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
※空洞ブロックC(16)				・無　・有		
・						

各部の背筋　※図示による　・
目地仕上げ　・押し目地仕上げ　・化粧目地仕上げ
まぐさを受ける開口部両側のブロックのモルタル又はコンクリートで充填する範囲
※図示による　・

2．コンクリートブロック帳壁及び塀

ブロックの種類　(8.3.2～4)(表8.3.1)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モデュール呼び寸法 長さ	モデュール呼び寸法 高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
※空洞ブロックC(16)				・無　・有		
・						

壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状
※図示による　・
各部の配筋
※図示による　・

3．ＡＬＣパネル　(8.4.2～5)(表8.4.2～4)

区分			単位荷重(N/㎡) 正荷重	単位荷重(N/㎡) 負荷重	厚さ(mm)	幅及び長さ	耐火性能(時間)	構法の種別
・外壁用	・一般 ・コーナー	・平 ・意匠	・	・	・	図示による	・なし ・１	・A種 ・B種
・間仕切壁用	・一般 ・コーナー	・平 ・意匠	—	—	・	図示による	・なし ・１	・C種 ・D種 ・E種
・屋根用	—	—	・	・	・	図示による	・0.5	※F種
・床用	—	—	・	—	・	図示による	・１ ・２	

パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材
・
パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合
・図示による　・
目地幅　※20mm　・
外壁、間仕切壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填
・適用する　・適用しない

4．押出成形セメント板

ECPの種類等　(8.5.2～5)(表8.5.1～2)

パネルの種類	形状	長さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	備考
・外壁パネル	・F ・D ・T	・50・60・ ・50・60 ・60	※600 ・	・A種　・B種	
・間仕切壁パネル	・F ・D ・T	・50・60・ ・50・60 ・60	※600 ・	・A種　・B種	

（注）F:フラットパネル、D:デザインパネル、T:タイルベースパネル

パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合
・図示による　・
パネル相互の目地幅
・長辺（　　）　短辺（　　）
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm)
※15程度　・
耐火構造以外の目地及び隙間の処理
※パネルの製造所の仕様　・

9 防水工事

⑥ シーリング　(9.7.2)(9.7.3)(9.7.5)(表9.7.1)
下表以外は、標準仕様書表9.7.1による。
ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは11章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは17章による。

施工箇所	シーリング材の種類(記号)

仕上げを行わない施工箇所(・図示による　・　)
シーリング材の目地寸法
※標準仕様書9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による
・図示による　・
接着性試験
※簡易接着性試験　・引張接着性試験

7．防水保証
アスファルト防水、改質アスファルトシート防水及び合成高分子系ルーフィングシート防水の保証期間は、引渡し日より１０年間とし、メーカー・施工業者との連名の上、保証書を提出する。
塗膜防水及びケイ酸質系塗布防水については、メーカー・施工業者が通常定めている期間とし、保証書を作成し提出する。

11 タイル工事

1. 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

位置 (11.1.3)(表11.1.1)
※標準仕様書表11.1.1による
・図示による
目地寸法
・図示による

2. 見本焼き試験施工

見本焼き (11.1.4)
・行う(施工箇所：) ※行わない
試験張り
・行う(範囲、仕様等は図示による) ※行わない

3. セメントモルタルによるタイル張り

タイルの形状、寸法等 (11.2.2、6)

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色			耐凍害性	耐滑性
			Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注		有	無
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

標準的な曲がりの役物は一体成形とする。

既調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

既調合目地材

下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の下地処理
※目荒し工法（高圧水洗処理）
・MCR工法
・
壁タイル張りの工法
内外装タイル
・密着張り
※改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル
※マスク張り
・モザイクタイル張り

4. 有機系接着剤によるタイル張り

タイルの形状、寸法等 (11.3.2～5)

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色			耐凍害性	耐滑性
			Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注		有	無
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

標準的な曲がりの役物は一体成形とする。

内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
目地のシーリング材
打継ぎ目地
※ポリウレタン系シーリング材
・
ひび割れ誘発目地
※ポリウレタン系シーリング材
・
伸縮調整目地及びその他の目地
※変成シリコーン系シーリング材
・
下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の下地処理
※目荒し工法（高圧水洗処理）
・MCR工法
・
外装タイルの目地詰め
・行う ・行わない

12 木工事

① 施工一般

材料のホルムアルデヒド放散量 (12.2.1)
※F☆☆☆☆又は標準仕様書12.2.1(1)(ｳ)(b)による
・

② 製材

(12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1)

⊙JAS 1083-5 製材-第5部に基づく下地用製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
		※2級・	※A種 ・B種 ・	
		※2級・	※A種 ・B種 ・	

⊙JAS 1083-2 製材-第2部に基づく造作用製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
見え掛り面		※上小節・	※A種 ・B種 ・	
見え掛り面以外		※小節以上・	※A種 ・B種 ・	

② 製材

⊙JAS 1083-6 製材-第6部に基づく広葉樹製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
		※1等・	※10%以下 ・A種 ・B種	
		※1等・	※10%以下 ・A種 ・B種	

⊙JAS 1083（製材）以外の製材

施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	含水率
		・（ ）造作材の場合（※A種 ・B種）	・適用する ・適用しない	
		（ ）造作材の場合（※A種 ・B種）	・適用する ・適用しない	※A種 ：B種 ：

③ 造作用集成材

⊙「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 (12.2.1)

施工箇所	品名	樹種名	寸法(mm)	見付け材面	見付け材面の品質
					※1等 ・2等
					※1等 ・2等

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	材種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面	見付け材面の品質
		化粧薄板：芯材：			※1等 ・2等	
		化粧薄板：芯材：			※1等 ・2等	

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	材種名	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率
				※15%以下・
				※15%以下・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	材種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率
	化粧薄板：芯材：				※15%以下・
	化粧薄板：芯材：				※15%以下・

4. 造作用単板積層材

・JAS 0701 に基づく造作用単板積層材 (12.2.1)

施工箇所	品名	寸法(mm)	表面の品質	防虫処理
				・適用する ・適用しない
				・適用する ・適用しない

・JAS 0701 以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質	含水率	防虫処理
			※14%以下・	・適用する ・適用しない
			※14%以下・	・適用する ・適用しない

・JAS 3079 に基づく直交集成板

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能(使用環境)	樹種名	寸法(mm)

⑤ 合板等

⊙「合板の日本農林規格」による普通合板 (12.2.1)

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理
	※5.5		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上 ・	・適用する ・適用しない

⊙「合板の日本農林規格」による構造用合板

施工箇所	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ(mm)	防虫処理	強度等級
	※2級以上・1級		※1類 ・特類	※C-D以上・	※12・	・適用する ・適用しない	・適用する（ ） ・適用しない

⑤ 合板等

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理
			・1類 ・特類	・適用する ・適用しない

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	防虫処理
			・1類 ・2類	・適用する ・適用しない

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
		・1類 ・2類			・適用する ・適用しない

・パーティクルボード

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)
		※13タイプ・	※P又はM・		※15・

・JAS 0360 に基づく構造用パネル

施工箇所	寸法 (mm)

・MDF

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

⑥ 接合具等

造作材の化粧面の釘打ち (12.2.2)
※隠し釘打ち
・釘頭埋め木
・つぶし頭釘打ち
・釘頭現し
諸金物
※かすがい、座金、箱金物、短冊金物
（標準仕様書表12.2.3～5に示す程度の市販品 表14.2.2のF種程度）
・ （形状： 寸法： 材質： ）

⑦ 接着剤

接着剤のホルムアルデヒドの放散量 (12.2.2、3)
※F☆☆☆☆ ・

⑧ 防腐・防蟻処理

・防腐、防蟻処理を省略できる樹種による製材 (12.3.1、2)
適用部位：（ ）

⊙薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分
	・K2 ・K3 ・K4
	・K2 ・K3 ・K4
	・K2 ・K3 ・K4

⊙薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※薬剤の製造所の仕様による・	※JIS K 1571に適合又は同等品
	・	

・薬剤の接着材への混入による防腐、防蟻処理
適用部位（ ）
・合板等の加圧注入処理の適用
適用部位（ ）

⑨ 内部間仕切軸組及び床組み

・間仕切軸組に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合） (12.4.1)
※杉又は松 ・
・床組みに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※杉又は松 ・

⑩ 窓、出入口その他

・窓、出入口その他に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合） (12.5.1)
※吊元枠、水掛りの下枠及び敷居はひのき、その他は松又は杉

11. 床板張り

(12.6.1)
・縁甲板及び上がりかまちに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※ひのき ・

⑫ 壁及び天井下地

(12.7.1)
・壁胴縁、野縁受桟、野縁及び吊木に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※杉又は松 ・

13 屋根及びとい工事

① 長尺金属板葺

(13.2.2、3)

施工箇所	板及びｺｲﾙの種類	塗膜の耐久性の種類、めっき付着量	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
屋根	※JIS G 3322 の屋根用（着色 ⊙有）	・5類（AZ150）・	※0.4 ・0.5 ⊙0.35	※心木なし瓦棒葺 ・立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺 ⊙ﾌﾗｯﾄﾙｰﾌ	
破風等			⊙0.4		

下葺材料
⊙アスファルトルーフィング 940
・改質アスファルトルーフィング下葺材
（・一般タイプ ・複層基材タイプ ・粘着層付タイプ）
横葺きの場合のけらば納め
・つかみ込み納め ・けらば包み納め
雪止め
・設置する （形状及び施工箇所 ・図示による ・ ）
⊙設置しない

2. 折板葺

(13.2.2)(13.3.2)(表13.2.1)

施工箇所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分		耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
		山高	山ﾋﾟｯﾁ					
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かな合形			（ ）種	※鋼板製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板製		・有り ・無し	・30分 ・無し

材料
折板の材質の種類（※JIS G 3302の屋根用（着色 ・有） ・ ）
塗膜の耐久性の種類、めっき付着量（・5類(AZ150) ・ ）
断熱材張り
・行う （断熱材の種別： 厚さ(mm)： 防火性能： ）
・行わない
耐雪性能に対応した工法の適用
・適用する ・適用しない
折板のけらば納め
※けらば包みによる方法
雪止め
・設置する （形状及び施工箇所 ・図示による ・ ）
・設置しない

3. 粘土瓦葺

(13.4.2、3)

施工箇所	種類			産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
	製法による区分	形状による区分	寸法による区分			
						・適用する ・適用しない
						・適用する ・適用しない

桟瓦の防災瓦の使用 ・適用する ・適用しない
JISA5208に基づく凍害試験等
・行う ・行わない
瓦桟木
材質
※杉 ・
寸法
※幅21×高さ15(mm)以上
・
棟補強用心材
材質
※杉 ・
寸法
※幅40×高さ30(mm)
・
瓦緊結用釘及びねじ
種類（ ） 径（ ） 長さ（ ）
棟補強等に使用する金物等
材質
・ステンレス製
・溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製
形状、寸法及び留付け方法
※図示による ・
工法
風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結方法等
※図示による ・
瓦桟木の留付け工法
※図示による ・
棟の工法
・7寸丸伏せ棟又はF形用冠瓦伏せ棟
・のし積み棟
・
面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合
・モルタル ・瓦葺き用しっくい

13 屋根及びとい工事

4．とい

といその他の材種　(13.5.2、3)(表13.5.4)
・配管用鋼管
・硬質ポリ塩化ビニル管
・ルーフドレン
・表面処理鋼板（表面及び裏面の塗膜の種類　・　　）
・

といり受金物
材種
※標準仕様書表13.5.2による　(溶融亜鉛めっきを行ったもの)
・
形状
※市販品（とい径 100 以下）
・25×4.5(mm)以上（とい径 100 を超えるもの）
・
取付け間隔
※標準仕様書表13.5.2による
・

足金物
材種
※標準仕様書表13.5.2による　(溶融亜鉛めっきを行ったもの)
・
形状
※市販品　・
取付け間隔
※標準仕様書表13.5.2による
・

多雪地域
・適用する　・適用しない
防露材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
鋼管製といの防露巻き
※標準仕様書表13.5.4による
・

ルーフドレンの種類及び呼び

種別		呼び	施工箇所
※ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80　・100 ・125　・150	
・ろく屋根用横形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80　・100 ・125　・150	
・バルコニー中継用	・ねじ込み式	・50　・80　・100	
	・差し込み式	・50　・75　・100	
・バルコニー用	・ねじ込み式	・50　・80　・100	
	・差し込み式	・50　・75　・100	

14 金属工事

1．アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.1)(表 14.2.1)

種類	色合い等	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）
・AB-1種		
・AB-2種	・標準色 ・特注色	
・AC-1種		
・AC-2種	・標準色 ・特注色	
・BA-1種		
・BA-2種	・標準色 ・特注色	
・BB-1種		
・BB-2種	・標準色 ・特注色	
・BC-1種		
・BC-2種	・標準色 ・特注色	
・C種	・標準色 ・特注色	

陽極酸化皮膜の着色方法
※二次電解着色
・三次電解着色

2．鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.2)(表 14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
・ 溶融亜鉛めっき	・A種	
	・B種	
	・C種	
・ 電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

3．軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類　(14.4.2～4)(表14.4.1)
屋外
※25形　・19形
屋内
※19形　・25形
屋外の形式及び寸法
野縁受、つりボルト及びインサートの間隔　・図示による　・
周辺部の端からの間隔　・図示による　・
野縁の間隔　・図示による　・
・つりボルトの間隔が900mmを超える場合
（補強方法　※図示による　・　　）
・天井のふところが3.0mを超える場合
（補強方法　※図示による　・　　）
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
（補強箇所　※図示による　・　　）
（補強方法　※図示による　・　　）
・屋外の軒、ピロティ等の天井における耐風圧性を考慮した補強
（補強箇所　※図示による　・　　）
（補強方法　※図示による　・　　）

4．軽量鉄骨壁下地

(14.5.3、4)(表14.5.1)
スタッド、ランナの種類
※標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・図示による
・
スタッドの高さが5.0mを超える場合
※図示による　・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
※標準仕様書14.5.4.(5)による
・

5．金属成形板張り

(14.6.2、3)(表14.2.1)

種別	製法	形状	板幅(mm)	板厚(mm)	表面処理 種別	表面処理 色合い等
・アルミニウム	・押出し ・ロール	ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ形				
	・プレス ・	パネル形				

取付け用下地
※標準仕様書14.4による
・図示による
伸縮調整継手
・設ける
（施工箇所　・図示による　・　　）
・設けない

6．アルミニウム製笠木

種類　(14.7.2、3)(表14.2.1)(表14.7.1)
・250形　・300形　・350形
表面処理
種別（　　）種
色合等　・標準色（　　）　・特注色（　　）

15 左官工事

① モルタル塗り

モルタル　(15.3.2、5)
・現場調合材料
・既調合材料
既製目地材
・設ける
施工箇所（　　）　形状（※図示による　・　　）
・設けない
床の目地
・設ける
目地割り
※2㎡程度（最大目地間隔3m程度）
・
目地の種類
※押し目地
・
・設けない
屋外のタイル張り下地及び屋内の吹抜け部分等のタイル張りの下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験
・適用する　・適用しない

② ラス系下地

ラス系下地　(15.2.4)
・二層下地通気構法
・単層下地通気構法
換気口部の措置　(※公共木造建築工事標準仕様書11.4.3.(2)(ｳ)　・　)
⊙直張りラスモルタル下地
・直張りラスシートモルタル下地
ラスの材料
種類及び記号　(　　)
単位面積当たりの質量（　　）
ラスシートの材料
ラス目による区分（※M　・　　）
山高、山ピッチ、質量及び溶接区分による区分
（・LS4(建築基準法に基づく耐力壁)　・　　）
ステープルの形状及び寸法（　　）
直張りラスシートモルタル下地で建築基準法に基づく耐力壁のラスシートの施工

③ 仕上塗材仕上げ

内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量　(15.6.2)
※F☆☆☆☆
・

仕上塗材の種類
・複層仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料
・複層塗材CE ・複層塗材RE ・複層塗材Si ※複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・ 外観 ・ 溶媒 ・	・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種	・
	※ゆず肌状	※ローラー塗り			

16 建具工事

1．防火戸

※建具表による　(16.1.3)
・

2．見本の製作等

(16.1.4)
※行わない
建具見本製作の目的等　・
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：　　）
※行わない

3．防犯建物部品

・適用する（・建具表による　・　　）　(16.1.6)
※適用しない

④ アルミニウム製建具

性能値等　(16.2.2、4、5)（表14.2.1）(表16.2.1、2)
耐風圧性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
気密性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
水密性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
外部に面する建具の種別
・A種（建具符号　・建具表による　・　　）
・B種（建具符号　・建具表による　・　　）
・C種（建具符号　・建具表による　・　　）
⊙D種（建具符号　・建具表による　・　　）
・E種（建具符号　・建具表による　・　　）
枠の見込み寸法（※建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（　　）
（建具符号：・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
表面処理
外部に面する建具
種別
※BB-1　⊙BB-2　(標準仕様書表14.2.1)
着色
※標準色　・特注色
屋内の建具
種別
※BC-1　⊙BC-2　(標準仕様書表14.2.1)
着色
※標準色　・特注色
結露水の処理方法
・水貯め式　・排水式
工法
水切り板、ぜん板
※図示による
木下地の場合の内付け建具
・適用しない　・適用する

⑤ 網戸等

(16.2.3)

種類	材質	線径	網目
⊙防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

⑥ 樹脂製建具

性能値等　(16.2.5)（16.3.2～5）（表16.3.1～3）
耐風圧性の等級（　　）
気密性の等級　（　　）
水密性の等級　（　　）
外部に面する建具の種別
・A種（建具符号　・建具表による　・　　）
・B種（建具符号　・建具表による　・　　）
・C種（建具符号　・建具表による　・　　）
⊙D種（建具符号　・建具表による　・　　）
・E種（建具符号　・建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・T-1　・T-2 ）
（建具符号　・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（・H-4　・H-5　・H-6　・H-7　・H-8 ）
（建具符号　・建具表による　・　　）
外部に面する建具の日射熱取得性の等級　・
枠の見込み寸法　※建具表による　・
材料
ガラス
※複層ガラス（組合せは建具表による）
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
表面色　⊙標準色　・特注色
工法
水切り板、ぜん板　※図示による　・
木下地の場合の内付け建具　・適用しない　・適用する

7．鋼製建具

性能値等　(16.2.2)（16.4.2～4）(16.4.6)　(表16.4.2)
簡易気密型ドアセット
※適用する
（建具符号　・建具表による　・　　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級　（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ
※標準仕様書表16.4.2による
・　　使用箇所（　　）
標準型鋼製建具の形式及び寸法
※建具表による　・

8．鋼製軽量建具

性能値等　(16.2.2)（16.5.2～4)(16.5.6)(表16.5.1)
簡易気密型ドアセット
※適用する
（建具符号　・建具表による　・　　）
・適用しない
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）

材料
鋼板
・亜鉛めっき鋼板
・ビニル被覆鋼板
・カラー鋼板
・ステンレス鋼板
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
・
召合わせ、縦小口包み板の性質
※鋼板　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ（mm）
※標準仕様書表16.5.1による
・
使用箇所（　　）
標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法
※建具表による　・

9．ステンレス製建具

性能値等　(16.2.2)(16.4.2)(16.6.2～5)
簡易気密型ドアセット
※適用する
（建具符号　・建具表による　・　　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級　（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
表面仕上げ
※HL　・鏡面仕上げ
工法
ステンレス鋼板の曲げ加工
※普通曲げ
・角出し曲げ（b角（切込み後の残り板厚0.75mm、裏板補強有り））
・角出し曲げ（c角（切込み後の残り板厚1.0mm））

⑩ 木製建具

建具材の加工、組立時の含水率　(16.7.2～4)
※A種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

⊙フラッシュ戸
表面材のホルムアルデヒド放散量等
※標準仕様書16.7.2(2)(ｲ)(a)による
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板	表面の樹種 ・ 板面の品質（※広葉樹1等　・　　） 接着の程度（・1類　・2類 ）	
・天然木 化粧合板	樹種名（　　） 接着の程度（・1類　・2類 ）	
⊙特殊加工 化粧合板	化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 ・ 接着の程度（・1類　・2類 ）	
・MDF		

16 建具工事

表面板の厚さ
※表16.7.6による　・
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用
・適用しない　・適用する
・かまち戸
かまち樹種（　　）　鏡板樹種（　　）
見込み寸法　※36mm　・建具表による　・
・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型　・Ⅱ型）
上張り（押入等の裏側以外）
・鳥の子
※新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ
・塗り縁
・生地縁（素地）
・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法　※19.5mm　・建具表による　・
・戸ぶすま
表面板の仕上　・建具表による
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・
・紙張り障子
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・

枠、くつずりの材料
・建具表による　・

⑪ 建具用金物

金物の種類及び見え掛り部の材質等　(16.8.2、3)(表16.8.1～5)
※標準仕様書表16.8.1により適用は建具表による
・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書表16.8.2による
・建具表による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書表16.8.3による
・建具表による
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書表16.8.4による
・建具表による
木製建具に使用する戸車及びレール
※標準仕様書表16.8.5による
・建具表による
握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置
・建具表による
・

⑫ 鍵

マスターキー　(16.8.4)
⊙製作する　・製作しない
鍵の製作本数
※各室3本1組（室名札付き）　・
鍵箱
※有り　・無し

13. 自動ドア開閉装置

戸の開閉方式　(16.9.2、3)
・建具表による　・
・引き戸用駆動装置
性能値
※標準仕様書表16.9.1（防錆　・適用する　・適用しない）
・以下による
種類・開閉方式　(　　)
耐電圧　(　　)
温度上昇　(　　)
耐久性（サイクル）　(　　)
防錆　(　　)
電源　(　　)
・車椅子使用者用便房出入り口引き戸用駆動装置
性能値
※標準仕様書表16.9.2（防錆　・適用する　・適用しない）
・以下による
耐電圧　(　　)
温度上昇　(　　)
耐久性（サイクル）　(　　)
防錆　(　　)
電源　(　　)
・引き戸用検出装置
性能値
※標準仕様書表16.9.3（防錆　・適用する　・適用しない）
・以下による
耐電圧　(　　)
防錆　(　　)
防滴　(　　)
電源　(　　)
引き戸用検出装置の種類　標準仕様書表16.9.4
・建具表による　・
タッチスイッチの種類
・無線式タッチスイッチ　・光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便房スイッチの種類
・大形押しボタンスイッチ　・非接触スイッチ
凍結防止措置
・行う　※行わない

⑭ 自閉式上吊り引戸装置

性能値等　(16.10.3)（表16.10.1）
※標準仕様書表16.10.1
・以下による
手動開き力　(　　)
手動閉じ力　(　　)
閉じ速度の調整　(　　)
制動区間　(　　)
開閉繰返し　(　　)
耐衝撃性　(　　)

⑰ オーバーヘッドドア

(16.13.2、3)

セクション材料による区分	風圧力による強さの区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ⊙アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・50 ⊙75 ・100 ・125	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	※スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置
（設置箇所　※建具表による　・　）

⑱ ガラス

(9.7)(16.14.2～4)(図16.14.1)
⊙フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類
※建具表による
・

⊙型板ガラスの厚さによる種類
※建具表による
・

・網入板ガラス及び線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
※建具表による
・

・合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ
※建具表による
・
落球衝撃はく離特性及びショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類　・Ⅱ-1類　・Ⅱ-2類　・Ⅲ類

・強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称
※建具表による
・
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類　・Ⅲ類

・熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類
※建具表による
・
性能による種類
・1種　・2種

⊙複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
※建具表による
・
断熱性による区分
・T1　・T2　・T3　・T4　・T5　・T6
日射取得性及び日射遮蔽性による区分
・G　・S
乾燥気体の種類
・空気　・アルゴン

・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※建具表による
・
日射熱遮へい性による区分
・1種　・2種　・3種
耐久性による区分（日射熱遮蔽性による区分が2種の場合）
・A類　・B類

・倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※建具表による
・

ガラスの留め材及び溝の大きさ　(16.14.2)(9.7)

建具の種類	ガラス留め材の種別	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	※シーリング材 ・グレイジングチャンネル ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材 ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・
ステンレス製	※シーリング材 ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・
樹脂製	・グレイジングガスケット ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・

18 塗装工事

① 材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量　(18.1.3)
※F☆☆☆☆　・
防火材料
※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・以下の箇所を除き防火材料とする。
（箇所：　　）

② 素地ごしらえ

(18.2.2～7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗料塗りの場合	※B種　・A種
鉄鋼面（DP以外 ）		※C種　・A種　・B種
鉄鋼面（DPのみ）		※B種　・A種　・C種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
モルタル面及びせっこうプラスター面		※B種　・A種
コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		※B種　・A種
押出成形セメント板面		※B種　・A種
コンクリート面（DPのみ）		※A種　・B種
せっこうボード面及び	目地：継目処理工法	※A種　・B種
その他ボード面	目地：継目処理工法以外	※B種　・A種

3. 錆止め塗料塗り

(18.3.2、3)

下地面	塗料の種別	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの工程
鉄鋼面	SOP	A種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
	DP	C種及びD種	表18.3.4
	EP-G	※B種　・A種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
亜鉛めっき鋼面	SOP	※A種　・B種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種
	DP	B種	表18.3.6
	EP-G	C種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種

④ 塗装

(18.4.1～18.12.2)

塗装		種別	塗料の種類
⊙合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※A種　・B種	―
	木部屋内	※B種　・A種	
	鉄鋼面	※B種　・A種	
	亜鉛めっき鋼面	―	
⊙クリヤラッカー塗り(CL)		※B種　・A種	―
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)		※B種　・A種	―
・耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	―	上塗り塗料の等級(　)級
	亜鉛めっき鋼面	―	上塗り塗料の等級(　)級
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種　・B種 ・C種	―
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 ﾓﾙﾀﾙ面 ﾌﾟﾗｽﾀｰ面 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面 その他ﾎﾞｰﾄﾞ面等	※B種　・A種	―
	屋内の鉄鋼面 鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面	※B種　・A種	―
・合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		※B種　・A種	―
⊙ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種　・A種	―
⊙ステイン塗り		・ピグメントステイン塗り ・オイルステイン塗り(OS)	―
⊙木材保護塗料塗り(WP)		※B種　・A種	―

クリヤラッカー塗りＡ種の工程2の適用
・適用しない
・適用する(着色剤：・溶剤形着色剤　・油性染料着色剤)
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用
・適用する
・適用しない
オイルステイン塗りの工程等
・

19 内装工事

① 接着剤

(19.2.2)
ビニル床シート、ビニル床タイル、ゴム床タイル用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・図示による　・

② 下地の工法

標準仕様書19.2.3(ｱ)～(ｳ)以外の下地の工法　(19.2.3)
・図示による　・

③ ビニル床シート

(19.2.2、3)

種類の記号	色柄	厚さ (mm)	備考
※FS(複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ) ・	※無地 ・マーブル柄 ⊙柄物	※2.0 ⊙2.5	

接合部の処理
※熱溶接工法　・

4. ビニル床タイル

(19.2.2)

種類の記号	色柄	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備考
※KT（ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・TT（単層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・FT（複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・FOA（置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・FOB（薄型置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）	・無地 ・柄物	※300×300 ・450×450 ・500×500 ・	※2.0 ・2.5 ・3.0 ・	

5. 特殊機能床材

・帯電防止床シート　(19.2.2)
種類　(　　)
性能　(　　)
厚さ(mm)（　　）

・視覚障害者用床タイル
視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による。
種類　(　　)
形状　(　　)

・耐動荷重性床シート
種類　(　　)
厚さ(mm)（　　）

・防滑性床シート
種類　(　　)
厚さ(mm)（　　）

・防滑性床タイル
種類　(　　)
寸法(mm)（　　×　　）
厚さ(mm)（　　）

⑥ ビニル幅木

材質の種類　(19.2.2)
・軟質　・硬質
高さ(mm)
※60　・75　・100
厚さ(mm)
※1.5以上　・

⑦ ゴム床タイル

種類　(19.2.2)
⊙単層品　・積層品
色柄（　　）
厚さ(mm)
・3.0　・4.5　・6.0　・9.0　⊙10.0
寸法(mm)（ 300 × 300 ）

8. カーペット敷き

・ 織じゅうたん　(19.3.2、3)(表19.3.1)(表19.3.2)

織り方	パイル形状
・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	・カットパイル ・ループパイル ・カット/ループパイル

色柄
※模様のない無地
・
パイル糸の種類等
※無地の織りじゅうたんの種別（・A種　・B種　・C種）
・
帯電性
・適用する　・適用しない
織じゅうたんの接合方法
※ヒートボンド工法
・つづり縫い
下敷き材
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm
・

・タフテッドカーペット

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ (mm)	工法	帯電性
・カットパイル	・5～7　・	※全面接着工法 ・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法	・適用する ・適用しない
・ループパイル	・4～6　・		
・カット、ループ併用	・		

下敷き材(グリッパー工法の場合)
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm
・
タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

・タイルカーペット

パイルの形状	種類	施工箇所	寸法 (mm)	総厚さ (mm)
※ループパイル	※第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・
・カット・ループ併用	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
タイルカーペットの敷き方
平場
※市松敷き
・模様流し
・
階段部分
※模様流し
・市松敷き
・
見切り、押え金物
材質（　　）
種類（　　）
形状等
※図示による　・

19 内装工事

⑨ 塗床

無機系
⊙セラミック骨材配合散布型非磁性強靭塗床仕上

樹脂系
⊙薄膜型水性エポキシ樹脂系防塵塗床材

⑩ フローリング張り

(19.5.2～5)(表19.5.1～6)
フローリングのホルムアルデヒドの放散量等
※標準仕様書19.5.2(2)による
・

各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆　・

・単層フローリング　(フローリングボード1等)
工法
・釘留め工法（・根太張り　・直張り　）
・接着工法
樹種
※なら　・

・単層フローリング　(フローリングブロック1等)
樹種
・
厚さ(mm)
・
大きさ
・

⊙複合フローリング
工法
⊙釘留め工法（・根太張り　⊙直張り　）
・接着工法
樹種
※なら　・
種別
・A種　・B種　⊙C種

接着工法の場合の不陸緩和材
※合成樹脂発泡シート
・

11. 畳敷き

種別　(19.6.2)(表 19.6.1)
・A種　・B種
※C種　・D種(畳床：・KT-Ⅰ　・KT-Ⅱ　・KT-Ⅲ　・KT-K　・KT-N)

衝撃緩和型畳　(畳表：・C1　・C2)

⑫ せっこうボード、その他のボード及び合板張り

(19.7.2、3)(表 19.7.1)
MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
合板のホルムアルデヒド放散量
※標準仕様書19.7.2(3)(イ)の(a)～(d)のいずれか　・
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

種類等	厚さ(mm)、規格等
木質系セメント板	
・木毛セメント板 ・硬質(HW)・中質(MW)・普通(NW)	※図示による　・15　・20　・25
・木片セメント板 ・硬質(HF)　・普通(NF)	※図示による　・12　・15　・18 ・21　・30
繊維強化セメント板	
⊙けい酸カルシウム板(タイプ2) 普通ボード 0.8FK	※図示による　・6　・8
火山性ガラス質複層板	
・火山性ガラス質複層板 種類　※図示による　・	※図示による　・
繊維板	
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ(MDF)	※図示による　・3　・7　・9 ・12　・
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（無処理） ・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・未研磨板（RN） ・研磨板（RS） ・内装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（DI） ・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（処理） ・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・未研磨板（RN） ・研磨板（RS） ・外装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（DE）	※図示による　・2.5　・3.5　・5 ・7　・
・ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ ・A級ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ（A-IB） ・天井仕上げ材 ・内装仕上げ材	※図示による　・9　・12　・15 ・18　・

種類等	厚さ(mm)、規格等
ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	
・単板張りﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・無研磨板（VN） ・研磨板（VS）	※図示による　・10　・12　・15 ・18　・
・化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ（DV） ・ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ（DO） ・塗装（DC）	※図示による　・10（難燃） ・12（難燃） ・
吸音材料	
⊙ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板（DR） ・ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ ・凹凸ﾀｲﾌﾟ	・9（不燃）　・12（不燃） ・12（不燃）　・15（不燃）
・ﾛｯｸｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ（1号）	※図示による　・25
・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ（32K）	・25（ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包み）　・
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	
⊙せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-R）	※12.5（不燃）・15（不燃）・
・ｼｰｼﾞﾝｸﾞせっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-S）	・12.5（・不燃　・準不燃）
・強化せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-F）	・12.5（不燃）・15（不燃）
・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ（GB-L）	・9.5
・不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-NC） ・化粧無し（下地張り用） ・化粧有り（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様）	・9.5（不燃）
合板類	
・普通合板 表板の樹種名： 板面品質： 防虫処理 ・行う　・行わない	※図示による ・
・天然木化粧合板 化粧板の樹種名： 防虫処理 ・行う　・行わない	※図示による ・
・特殊加工化粧合板 化粧加工の方法 ・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾘﾝﾄ　・塗装 表面性能 ・ 防虫処理 ・行う　・行わない	※図示による ・

天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合
※図示による　・
合板類の張付け
・A種　・B種
せっこうボードの目地工法等
目地工法の種類
※仕上表による
突付け工法及び目透し工法のエッジの種類
・ベベルエッジ　・スクェアエッジ

⑬ 壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量　(19.8.2、3)
※F☆☆☆☆　・

施工箇所	壁紙の種類						防火性能	
	紙	繊維	塩化ビニル	プラスチック	無機質	その他		
壁	・	・	⊙	・	・	・	・不燃	⊙準不燃
天井	・	・	⊙	・	・	・	・不燃	⊙準不燃
	・	・	・	・	・	・	・不燃	・準不燃
	・	・	・	・	・	・	・不燃	・準不燃

モルタル及びプラスター面の素地ごしらえの種別
※B種　・A種
コンクリート面の素地ごしらえの種別
※B種　・A種
せっこうボード面の素地ごしらえの種別
※B種　・A種

⑭ 断熱材

(19.9.2～4)
フェノールフォーム断熱材、保温材又は接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
・断熱材打込み工法

種類	厚さ（mm）	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 (・　)	・	
※押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし） (・2種bA　⊙3種bA　・3種bC　・3種bD)	※25 ⊙図示	⊙図示
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・	
・フェノールフォーム断熱材	・	

・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類
・A種1　※A種1H　・
吹付け厚さ（mm）
・
施工箇所
・図示による　・

20 ユニット及びその他の工事

1．可動間仕切

(20.2.3)

構造形式による種類	構成基材の種類		パネル表面仕上げ	遮音性(dB/500Hz)	防火性能
	ｽﾀｯﾄﾞ	ﾊﾟﾈﾙ			
・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式			・ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付又は ｱｸﾘﾙ樹脂焼付 ・壁紙張り ・	・0 ・12 ・20 ・28 ※36	※不燃

パネル内に取付ける建具
・有り（※図示による　・　）
・無し
パネル内に取り付ける建具のドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。
パネル材料のホルムアルデヒド放出量
※F☆☆☆☆　・

2．移動間仕切

(20.2.4)

走行方向	操作方法による種類	パネル圧接装置の操作方法	総厚さ(mm)	パネル表面材		遮音性(dB/500Hz)
				材質	仕上げ	
・平行方向移動式 ・二方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・ﾌﾟｯｼｭ式 ・ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・		・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ※36以上

パネル表面仕上げ材の壁紙張りの品質、性能は標準仕様書19章による。
ハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する
・図示による
パネルをランナーに取り付ける部品
※ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの
・
ハンガーレール及びランナー
※パネル重量の5倍の荷重を、パネル１枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの
・

③ トイレブース

(20.2.5)

表面材の材料	脚部	ドアエッジ
	種類	材質
※メラミン樹脂系化粧板（標準色） ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・	※幅木タイプ ・	※製造所の仕様による ・アルミニウム製 ・ステンレス製

④ 手すり

材料の種類及び仕上げ　(20.2.6)
⊙SUS304　表面処理　※HL程度
・鋼製　表面処理　溶融亜鉛めっき
（※標準仕様書表14.2.2による種別（　）種）
・アルミニウム 表面処理
（※標準仕様書表14.2.1による種別（　）種）
色合い　・標準色（　）　・特注色（　）

手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
・集成材 （材種：　）	・クリアラッカー ・	・35程度 ・45程度 ・		
⊙ビニル製		⊙35程度 ・45程度 ・		

5．階段滑り止め

材種　(20.2.7)
※ステンレス製
・黄銅製押出型材
・アルミニウム製押出型材
・
形状
※タイヤ型(タイヤの材質：ゴム又は合成樹脂合等)
・タイヤレス型
寸法(幅)
・35mm程度　・40mm程度　・50mm程度
取付け工法
※接着工法
・埋込み工法

⑥ 黒板及びホワイトボード

・黒板　(20.2.9)
区分
※焼き付け　・
種類
※鋼製黒板
・ほうろう黒板
・
色
※緑　・
⊙デジタルホワイトボード

⑦ 鏡

取付け箇所（ＷＣ）　(20.2.10)
寸法（mm）
⊙図示による　・
厚さ（mm）
※5　・

⑧ 表示

衝突防止表示　(20.2.11)
⊙設置する　(設置場所：※図示による　・　)
形状・寸法（※30φ　・　）
材質　（※ステンレス製　・　）
・設置しない
誘導標識、非常用進入口等の表示
※消防法に適合する市販品　・
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
(案内用図記号はJIS Z 8210による)
※図示による

⑨ カーテン

(20.2.16)

形式	開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付け箇所
⊙ｼﾝｸﾞﾙ・片引き ・ﾀﾞﾌﾞﾙ⊙引分け	※手引き ・ひも引き ・電動	⊙つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・ﾌﾟﾚｰﾝひだ		⊙図示による ・

生地の仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの
暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重なり
※300mm以上
・

⑩ カーテンレール

材料による区分　(20.2.16)
⊙アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材
※ステンレス製
強さによる区分
※10-90　・
仕上げ
※アルマイト　・
形状
※角形　・

⑪ ブラインドボックス及びカーテンボックス

材種
⊙集成材（仕上げ：ＳＯＰ）
※アルミニウム製　押出し型材（市販品）
標準仕様書表14.2.1による種別
※BC-1種　・BC-2種
色合い
・標準色（　）　・特注色（　）
・鋼製（仕上げ：　）

⑫ 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※アルミニウム製 ・	※450×450 ・600×600 ・	⊙一般形 ・気密形	・屋内外用 ⊙屋内用	・額縁タイプ ※目地タイプ	・額縁タイプ ※目地タイプ

⑬ 床点検口

材種	寸法	形式		備考
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ※600×600 ・	※一般形 ・密閉形	・屋内外用 ⊙屋内用	⊙鍵付き

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。

14. 屋内掲示板

枠の材質
※アルミニウム製
・
表面の材質
※塩ビ発泡シート張り
・

⑮ 洗面カウンター

材種
・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）
・人工大理石
奥行き(mm)
・約450　・約600

⑯ 屋外掲示板

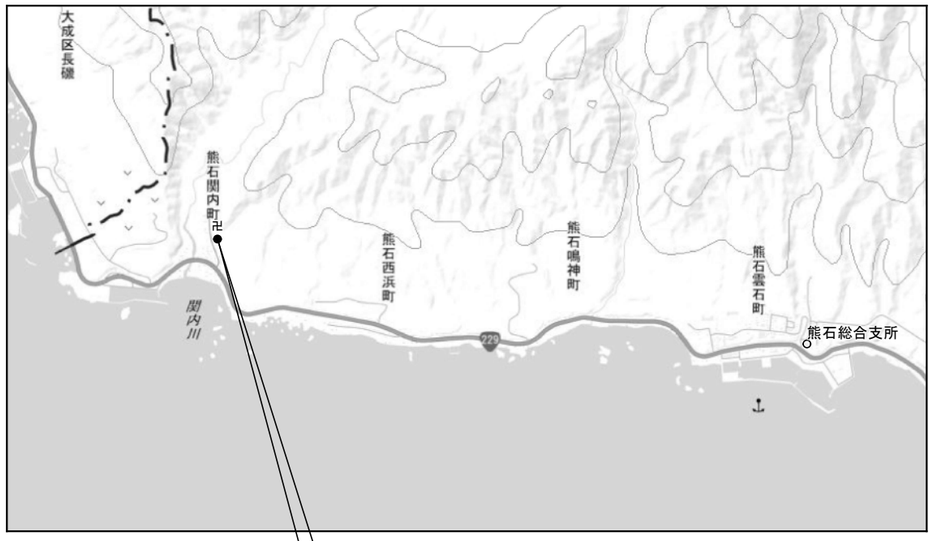
照明器具
・有り　⊙無し
施錠
⊙有り　・無し
製造所
・

⑰ 収納家具

合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆　・
材質、形状、寸法
※図示による　・

⑱ 消火器

建築工事に含む



工事場所：二海郡八雲町熊石関内町地内

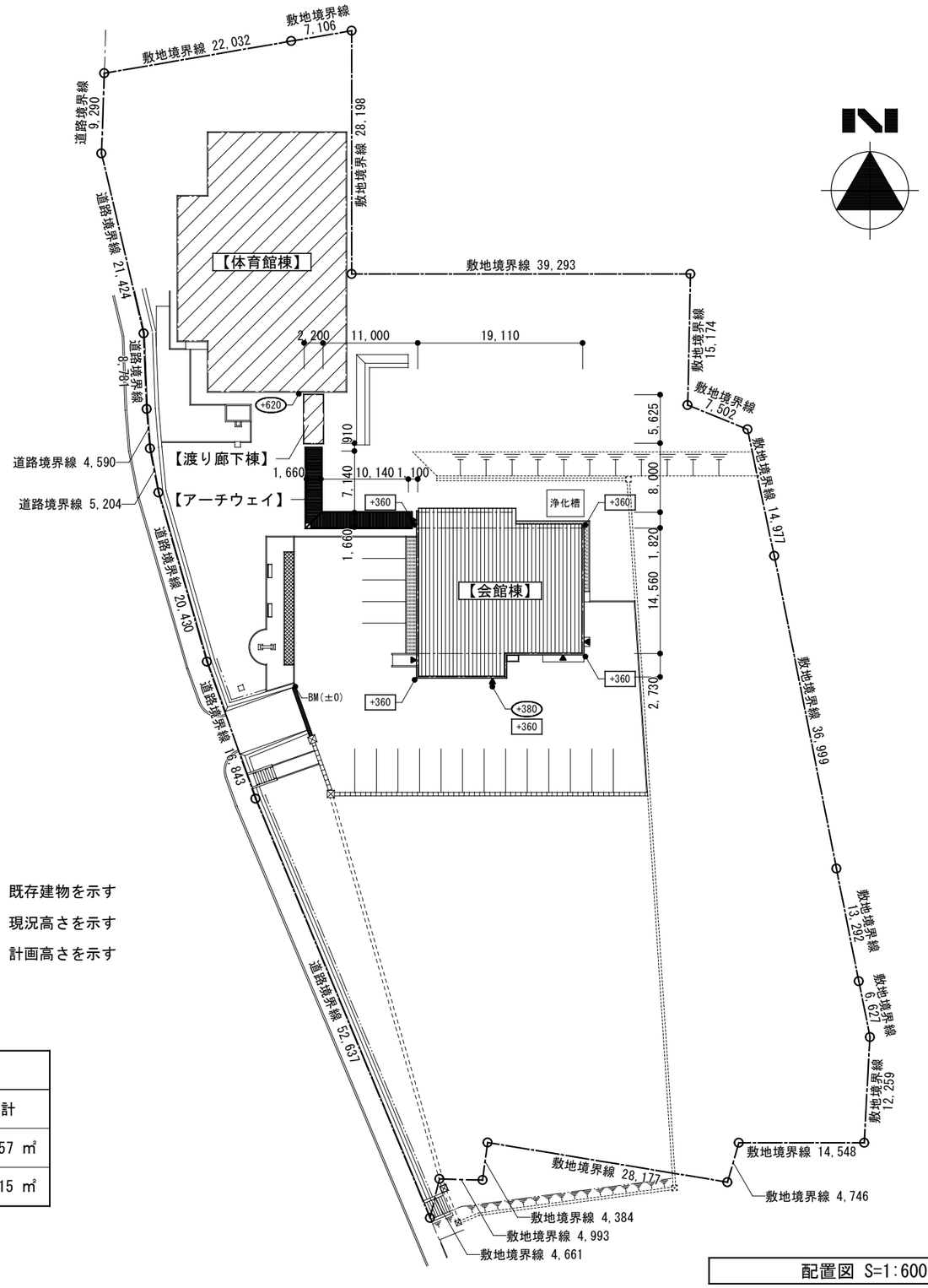
附近見取図 S=NS

凡例

… 既存建物を示す

+123 … 現況高さを示す

+123 … 計画高さを示す



配置図 S=1:600

敷地面積	7,347.22 ㎡						
	既存建物【体育館棟】	既存建物【渡り廊下棟】	既存建物合計	新築建物【会館】	新築建物【アーチウェイ】	新築建物合計	全体合計
延床面積	578.62 ㎡	5.72 ㎡	584.34 ㎡	278.23 ㎡	0.00 ㎡	278.23 ㎡	862.57 ㎡
建築面積	544.21 ㎡	13.64 ㎡	557.85 ㎡	325.86 ㎡	31.44 ㎡	357.30 ㎡	915.15 ㎡

関内地区地域会館新築工事（建築主体）

株式会社 建築設計工房ロゴス
1級建築士事務所 登録 （渡）第 156号
1級建築士登録 第265505号 前田 健二

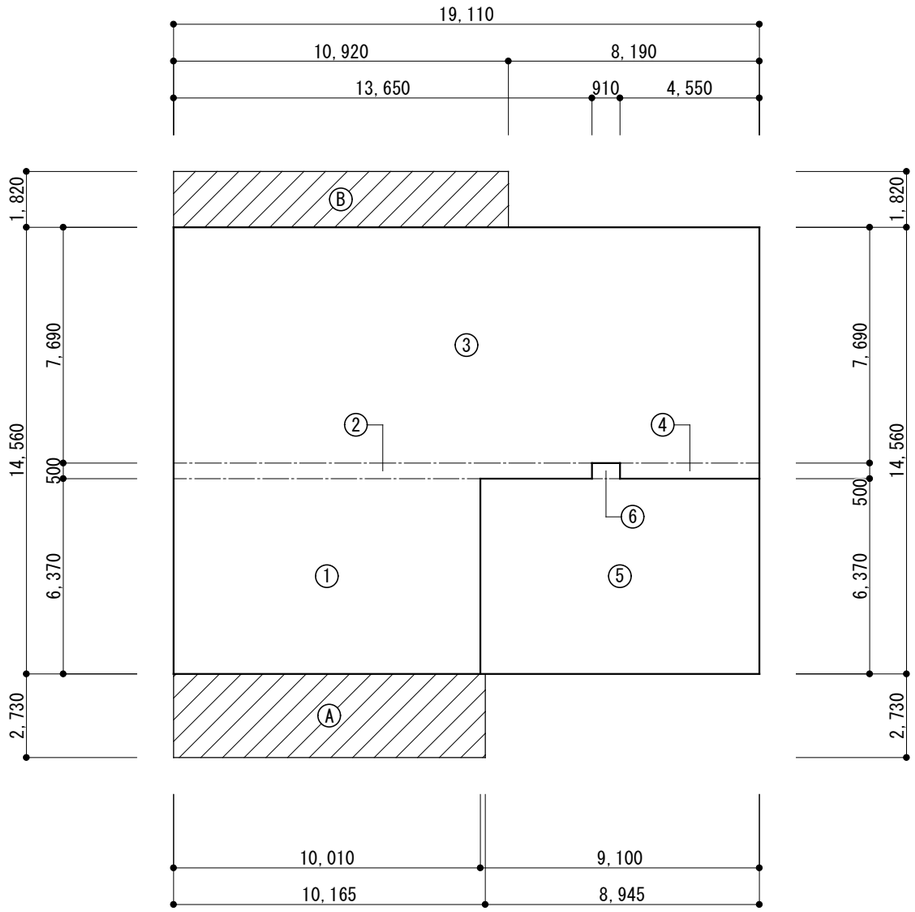
特記事項

訂正事項

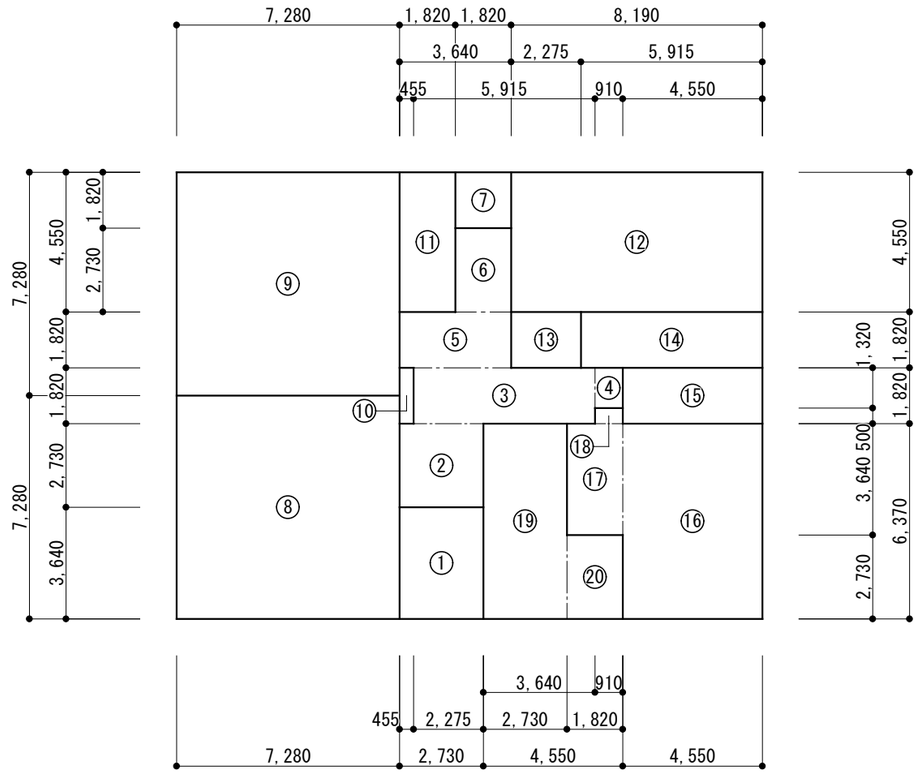
検図	担当	作成

附近見取図、配置図

縮尺	図面番号
1：NS 1：600 1：	A－07



求積図 S=1:200



各室求積図 S=1:200

	①	10.010	×	6.370	＝	63.763700
	②	13.650	×	0.500	＝	6.825000
	③	19.110	×	7.690	＝	146.955900
	④	4.550	×	0.500	＝	2.275000
	⑤	6.370	×	9.100	＝	57.967000
	⑥	0.910	×	0.500	＝	0.455000
	Ⓐ	10.165	×	2.730	＝	27.750450
	Ⓑ	10.920	×	1.820	＝	19.888960
地域会館面積	⑦		① ～	④	＝	219.81 ㎡
消防分団面積	⑧		⑤ ＋	⑥	＝	58.42 ㎡
延床面積	⑨		⑦ ＋	⑧	＝	278.23 ㎡
建築面積		Ⓐ ＋	Ⓑ ＋	⑨	＝	325.86 ㎡

玄関	①	2.730	×	3.640	＝	9.937200
ホール	②	2.730	×	2.730	＝	7.452900
	③	5.915	×	1.820	＝	10.765300
	④	0.910	×	1.320	＝	1.201200
	⑤	3.640	×	1.820	＝	6.624800
	⑥	1.820	×	2.730	＝	4.968600
				計	＝	31.012800
風除室	⑦	1.820	×	1.820	＝	3.312400
研修室１	⑧	7.280	×	7.280	＝	52.998400
研修室２	⑨	7.280	×	7.280	＝	52.998400
間仕切収納庫	⑩	0.455	×	1.820	＝	0.828100

物品庫	⑪	1.820	×	4.550	＝	8.281000
調理室	⑫	8.190	×	4.550	＝	37.264500
ＷＣ（多目的）	⑬	2.275	×	1.820	＝	4.140500
ＷＣ（女）	⑭	5.915	×	1.820	＝	10.765300
ＷＣ（男）	⑮	4.550	×	1.820	＝	8.281000
消防車庫	⑯	4.550	×	6.370	＝	28.983500
	⑰	1.820	×	3.640	＝	6.624800
	⑱	0.910	×	0.500	＝	0.455000
				計	＝	36.063300
消防待機室	⑲	2.730	×	6.370	＝	17.390100
	⑳	1.820	×	2.730	＝	4.968600
				計	＝	22.358700

関内地区地域会館新築工事（建築主体）

株式会社 建築設計工房ロゴス
１級建築士事務所 登録 （渡）第 156号
１級建築士登録 第265505号 前田 健二

特記事項

訂正事項

検図		担当	作成

求積図

縮尺	図面番号
１：２００	Ａ－０８
１：	
１：	

■外部仕上表（記載事項は全て同等品とする）

部位	仕上	仕様（メーカー・商品名等）
屋根	t0.35カラーガルバリウム鋼板(フラットルーフ)＋アスファルトルーフィング940＋t12構造用合板	
笠木	t0.4カラーガルバリウム鋼板包み(木下地、壁・小屋裏通気金物共)	
破風	t0.4カラーガルバリウム鋼板包み(木下地)	
軒天	t12軒天ボード(塗装品、一部有孔板)	ニチハ 軒天12 スチップル調
外壁 ①	t16窯業系サイディング(金物工法)＋胴縁(45×18)＋透湿防水シート＋t30FP板＋t9.0構造用合板	ニチハ モエンエクセラード16 Fu-ge エコルセ
外壁 ②	t18金属系サイディング＋胴縁(45×18)＋透湿防水シート＋t9.0構造用合板	ニチハ センターサイディング モノカラーシリーズ ST型
外壁 ③	t18木質系サイディング(杉材、木材保護塗料塗り)＋胴縁(45×18)＋透湿防水シート ＋t9.0構造用合板	ハルキ 道南杉ハル壁シリーズ 外壁用 箱目地

部位	仕上	仕様（メーカー・商品名等）
水切	アルミ既製品(通気)(オーバーハング水切共通)	
基礎立上	t15ラスモルタル刷毛引き＋t50FP板	
ポーチ①	床：t10.0ゴムチップタイル　腰壁：コンクリート打放し補修＋複層仕上塗材E 柱：杉材(木材防腐塗装、SUS金物共)　手摺：t2.0 SUS304 HL 加工(φ38、樹脂被覆)	
ポーチ②	床：コンクリート刷毛引き　腰壁：コンクリート打放し補修＋複層仕上塗材E 柱：杉材(木材防腐塗装、SUS金物共)　手摺：t2.0 SUS304 HL 加工(φ38、樹脂被覆)	
足洗場	平場：防水モルタル金ゴテ　立上：コンクリート打放し補修＋複層仕上塗材E グレーチング、ブラシ掛けフック	
掲示板	H950×W1,250×D100、アルミ既製品、壁付型、シリンダー錠	新協和 アルミ屋外掲示板(壁付型) SK-2070型
館銘板	地域会館：ステンレス製箱文字 焼付塗装 250×250 10文字 消防分団：ステンレス製箱文字 焼付塗装 250×250 12文字	

部位	仕上	仕様（メーカー・商品名等）
赤色灯	(電気設備工事)	
断熱材	天井裏　：t300吹込み用グラスウール(32kg/m3)＋t0.15ポリエチレンフィルム 外壁充填断熱：t100グラスウール(24kg/m3)＋t0.15ポリエチレンフィルム 外壁付加断熱：t30ポリスチレンフォーム保温板(3種B) 基礎立上　：t50ポリスチレンフォーム保温板(3種B) 土間下　：t30ポリスチレンフォーム保温板(3種B)＋t0.15ポリエチレンフィルム 間仕切壁(ＷＣ及び消防車庫)：t100グラスウール(24kg/m3)	

■内部仕上表（備考欄の各数量は、各室毎の数量を示す）

階	室名	床 下地	床 仕上	床 厚	床 仕様	幅木 仕上	幅木 高	幅木 仕様	腰 下地	腰 仕上	腰 厚	腰 仕様	壁 下地	壁 仕上	壁 厚	壁 仕様	天井 下地	天井 仕上	天井 厚	天井 仕様	廻縁	天井高
1	玄関	A C	ゴムチップタイル 木質系床材	10.0 12.0	a b	ビニル幅木	60	g					F	ビニルクロス		j	G	ロックウール吸音板	12.0	m	塩ビ既製品	2,400 ～ 2,415
階	ホール	C	木質系床材	12.0	b	杉幅木	70	h	F	杉羽目板(見切共)(無塗装) H=900	12.0	i	F	ビニルクロス		j	G	ビニルクロス			塩ビ既製品	2,400
	風除室	A C	コンクリート刷毛引き 木質系床材	12.0	b	ビニル幅木	60	g					F	ビニルクロス		j	G	ロックウール吸音板	12.0	m	塩ビ既製品	2,400 ～ 2,515
	研修室１	C	木質系床材	12.0	b	杉幅木	70	h	F	杉羽目板(見切共)(無塗装) H=1,125	12.0	i	F	ビニルクロス		j	G	ビニルクロス			塩ビ既製品	2,700
	研修室２	C	木質系床材	12.0	b	杉幅木	70	h	F	杉羽目板(見切共)(無塗装) H=1,125	12.0	i	F	ビニルクロス		j	G	ビニルクロス			塩ビ既製品	2,700
	間仕切収納庫	C	木質系床材	12.0	b	ビニル幅木	60	g					F	ビニルクロス		j	G	ビニルクロス			塩ビ既製品	2,700
	物品庫	C	木質系床材	12.0	b	ビニル幅木	60	g					F	ビニルクロス		j	G	ビニルクロス			塩ビ既製品	2,700
	調理室	D	長尺ビニルシート	2.5	c	ビニル幅木	60	g					F	カラーフレキシブルボード	6.0	k	G	カラーフレキシブルボード	4.0	k	塩ビ既製品	2,400
	ＷＣ（多目的）	D	長尺ビニルシート	2.5	c	ビニル幅木	60	g					F	カラーケイ酸カルシウム板	6.0	l	H	化粧石膏ボード	9.5	n	塩ビ既製品	2,400
	ＷＣ（女）	D	長尺ビニルシート	2.5	c	ビニル幅木	60	g					F	カラーケイ酸カルシウム板	6.0	l	H	化粧石膏ボード	9.5	n	塩ビ既製品	2,400
	ＷＣ（男）	D	長尺ビニルシート	2.5	c	ビニル幅木	60	g					F	カラーケイ酸カルシウム板	6.0	l	H	化粧石膏ボード	9.5	n	塩ビ既製品	2,400
	消防車庫	B	無機系塗床		e	無機系塗床立上	400	e					F	カラーフレキシブルボード	6.0	k	G	カラーフレキシブルボード	4.0	k	塩ビ既製品	3,000 3,600 ～ 3,650
	消防待機室	B D	無機系塗床 長尺ビニルシート	2.0	e d	無機系塗床立上 ビニル幅木	400 60	e g					F	ビニルクロス		j	H	化粧石膏ボード	9.5	n	塩ビ既製品	2,400 ～ 2,895

室名	備考 手摺類 記号	か所数	換気口類 記号	か所数	カーテン類 記号	か所数	点検口類 記号	か所数	室名札類 記号	か所数	その他 記号	か所数	記号	か所数	記号	か所数
玄関	01	2									51	1				
ホール	01	6									55	2				
風除室											52	1				
研修室１					21 22 23	4 4 4			41	1	55 56	4 19				
研修室２					21 22 23	2 2 2			41	1	55 56 65	4 20 1				
間仕切収納庫																
物品庫							32	1	41	1						
調理室							31 32	1 2	41	1	58 59 60	2 1 1				
ＷＣ（多目的）	02 03	1 1							42	1	61 63 64	1 1 1				
ＷＣ（女）	02	2					31	1	42	1	61 62	1 2				
ＷＣ（男）	02 04	1 2					31	1	42	1	61 62	1 1				
消防車庫									41	1	54 57	1 3				
消防待機室					22 24	1 1	32	1	41	3	53 57	1 1				

■下地リスト（記載事項は全て同等品とする）

記号	仕様	メーカー名	商品名	規格
A	コンクリート			
B	コンクリート金ゴテ			
C	木床組＋t28構造用合板(実付)			
D	木床組＋t28構造用合板(実付)＋t9.0ラワン合板			
E	木床組＋t28構造用合板(実付)＋t5.5ラワン合板			
F	木胴縁＋t12.5石膏ボード	吉野石膏	タイガーボード	不燃：NM-8619
G	木野縁＋t9.5石膏ボード	吉野石膏	タイガーボード	準不燃：QM-9828
H	木野縁			

■内部材料リスト（記載事項は全て同等品とする）

記号	材料名称	メーカー名	商品名	規格
a	ゴムチップタイル	木本ゴム工業	ライル300角10	
b	木質系床材	北海道パーケット	キャンパス	
c	長尺ビニルシート	東リ	フロアリューム マーブルNW	
d	長尺ビニルシート	東リ	マチュアNW	
e	無機系塗床	ABC商会	フェロコンハードC	
f	防塵塗装	ABC商会	ルメアコートEP	
g	ビニル幅木	東リ	ソフト巾木	
h	杉幅木	ハルキ	道南杉はる壁シリーズ 巾木	
i	杉羽目板	ハルキ	道南杉はる壁シリーズ 羽目板・腰見切り	
j	ビニルクロス	東リ	パワー1000(AAランク)	準不燃：QM-0803
k	カラーフレキシブルボード	エーアンドエーマテリアル	ステンド#300	不燃：NM-2923
l	カラーケイ酸カルシウム板	エーアンドエーマテリアル	ステンド#400	不燃：NM-4487
m	ロックウール吸音板	吉野石膏	ソーラトン キューブ12	不燃：NM-8599
n	化粧石膏ボード	吉野石膏	ジプトーン・ライト	準不燃：QM-0524

（手摺類）

記号	材料名称	メーカー名	商品名等
01	廊下手摺	ナカ工業	ネオウッド φ34(ブラケット・エンドキャップ共)
02	L型手摺	TOTO	T112CL9
03	はね上げ手摺	TOTO	T112HK7R
04	小便器用手摺	TOTO	T112CU22

（換気口類）

記号	材料名称	メーカー名	商品名等
11			
12			

（カーテン類）

記号	材料名称	メーカー名	商品名等
21	カーテンボックス	造作	天板：t15LC SOP(小口処理共)
			立下：t24LC SOP(小口処理共)
22	カーテンレール	TOSO	ウィンピア(アルミ製、シングル)
23	遮光カーテン	東リ	フフル TKF30505
24	平織カーテン	東リ	フフル TKF30098

（点検口類）

記号	材料名称	メーカー名	商品名等
31	床点検口	ナカ工業	ニューハッチ NHEⅡ-600SPOK(600角)
32	天井点検口	ナカ工業	ハイハッチ HHMMHⅡ-454(450角)

（室名札類）

記号	材料名称	メーカー名	商品名等
41	室名札	新協和	SK-WN-1F(H80×W250、平付)
42	ピクトサイン	新協和	SK-WS-2F(200角、平付)

（その他類）

記号	材料名称	メーカー名	商品名等
51	床見切	造作	t2.0 SUS304 HL 加工(60×30)
52	上框	造作	t2.0 SUS304 HL 加工(30×140)
53	上框	造作	タモ集成材 WUC(30×150)
54	打込アングル	造作	SUS304 HL L-30×30×3
55	ペーパーホルダー	TAKIYA	クラスールPH-2(アルミ製、H=30)
56	鯨幕用フック	BEST	フック金物No.863(埋込式、耐荷重5kg)
57	防火衣掛け	造作	フック：スガツネ JF2B-55M(耐荷重10kg)
			下地板：t30LC(SOP)
58	排気フード	造作	t1.0 SUS304
59	ライニング	造作	天端：t0.8 SUS304 HL 包み
			立上：t0.8 SUS304 HL 張り
			(t12.5防水石膏ボード下地)
60	ライニング	造作	天端：t0.8 SUS304 HL 包み
			立上：t6.0 カラーフレキシブルボード
			(t12.5防水石膏ボード下地)
61	ライニング	造作	天端：アイカ ポストフォームカウンター NPA
			立上：t6.0 カラーケイ酸カルシウム板
			(t12.5防水石膏ボード下地)
62	鏡	造作	鏡：t3.0　枠：SUS304 HL 加工(10×10)
63	収納キャビネット	TOTO	UGW301YS
64	背もたれ	TOTO	EWC385CS
65	デジタルホワイトボード	シャープ	BIG PAD(65型、壁付)

関内地区地域会館新築工事（建築主体）

株式会社 建築設計工房ロゴス
1級建築士事務所 登録 （渡）第 156号
1級建築士登録　第265505号　前田　健二

特記事項

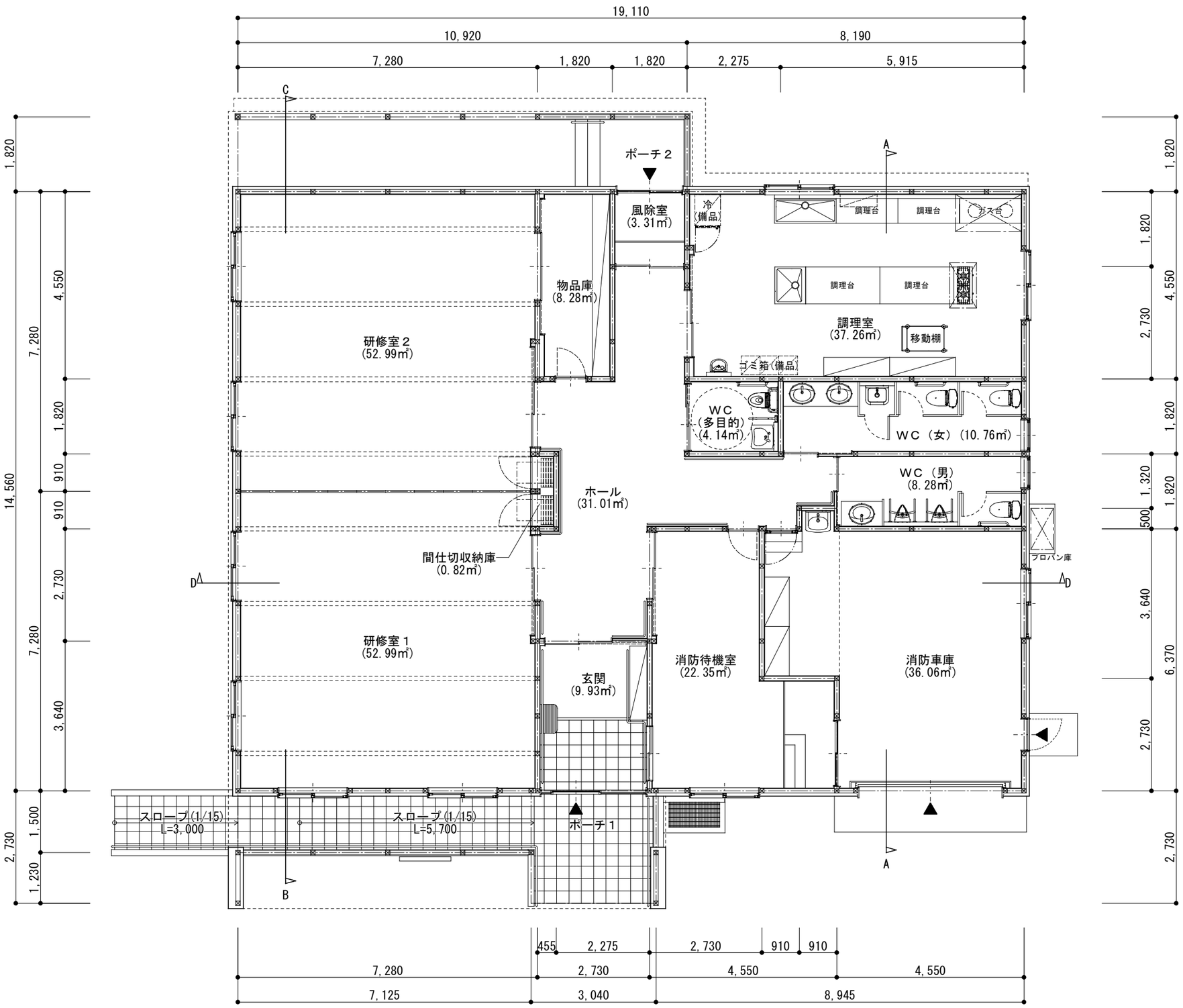
訂正事項

検図		担当	作成

仕上表

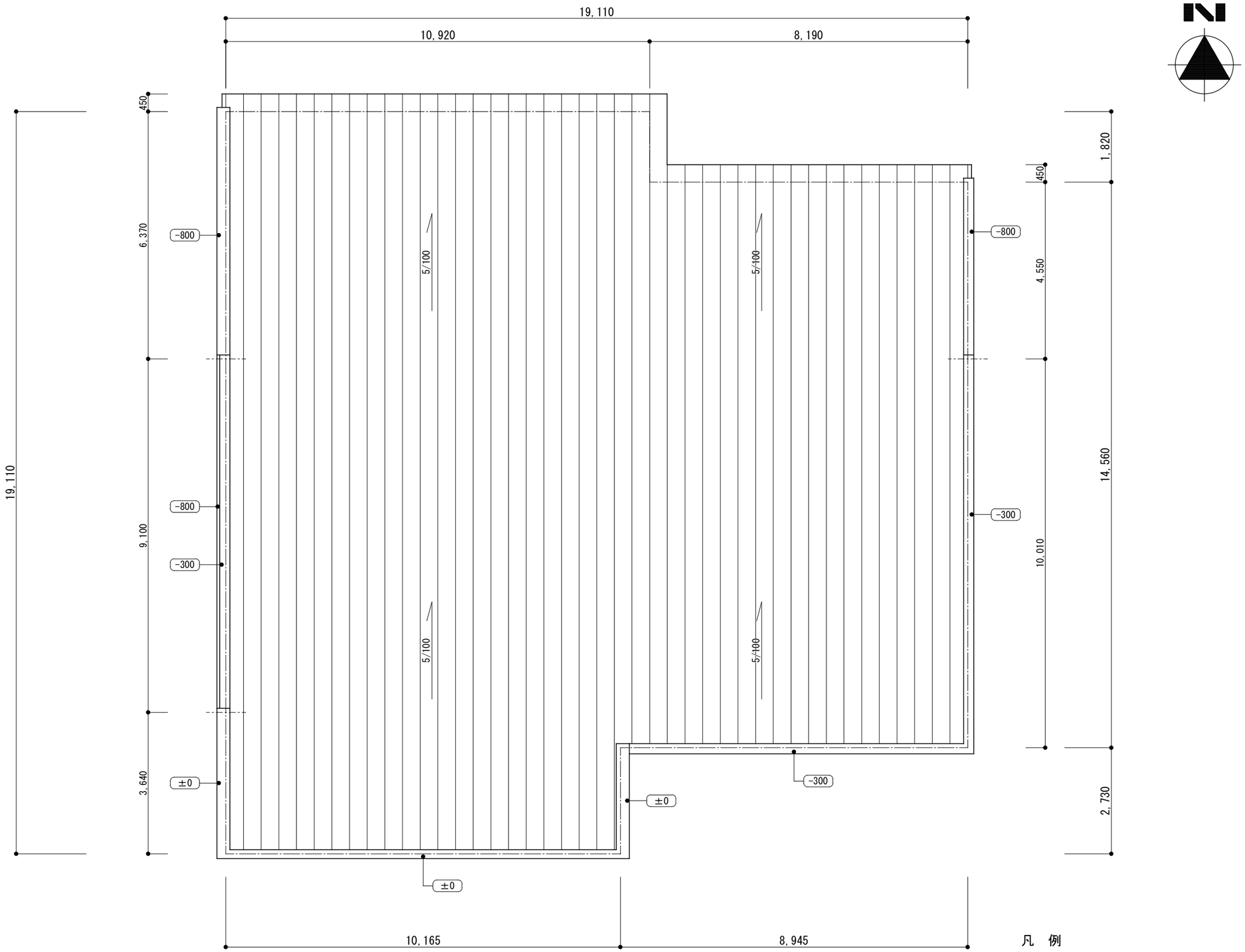
縮尺
1：
1：
1：

図面番号
Ａ－０９



平面図 S=1:100

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	平面図	縮尺 1：100	図面番号 Ａ－１０

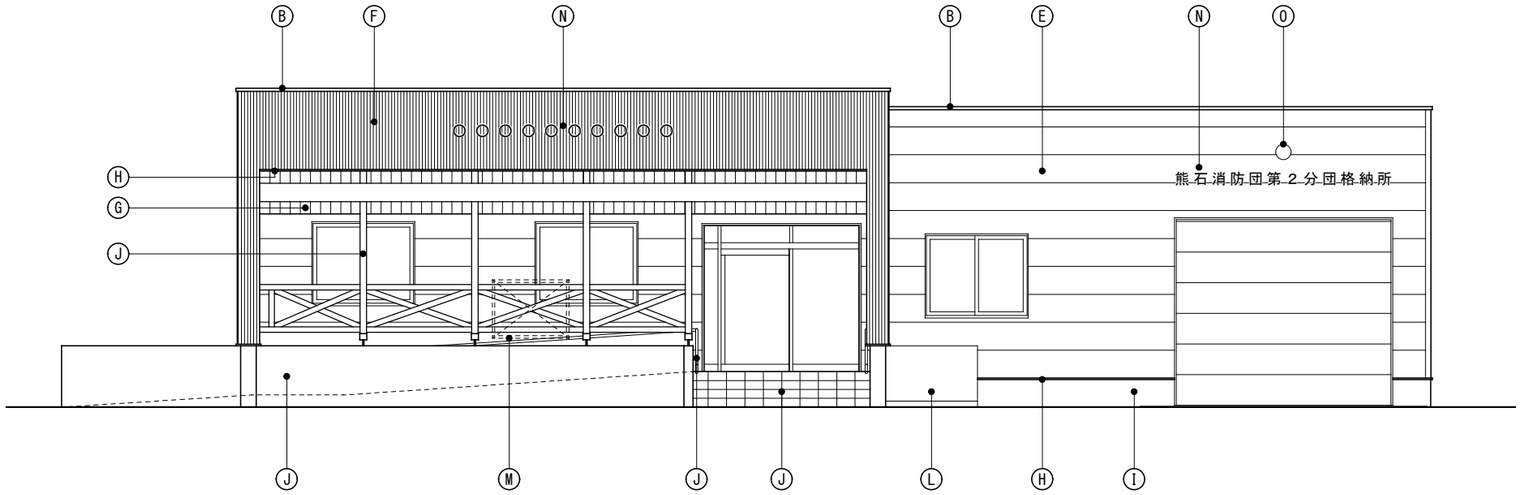


凡　例

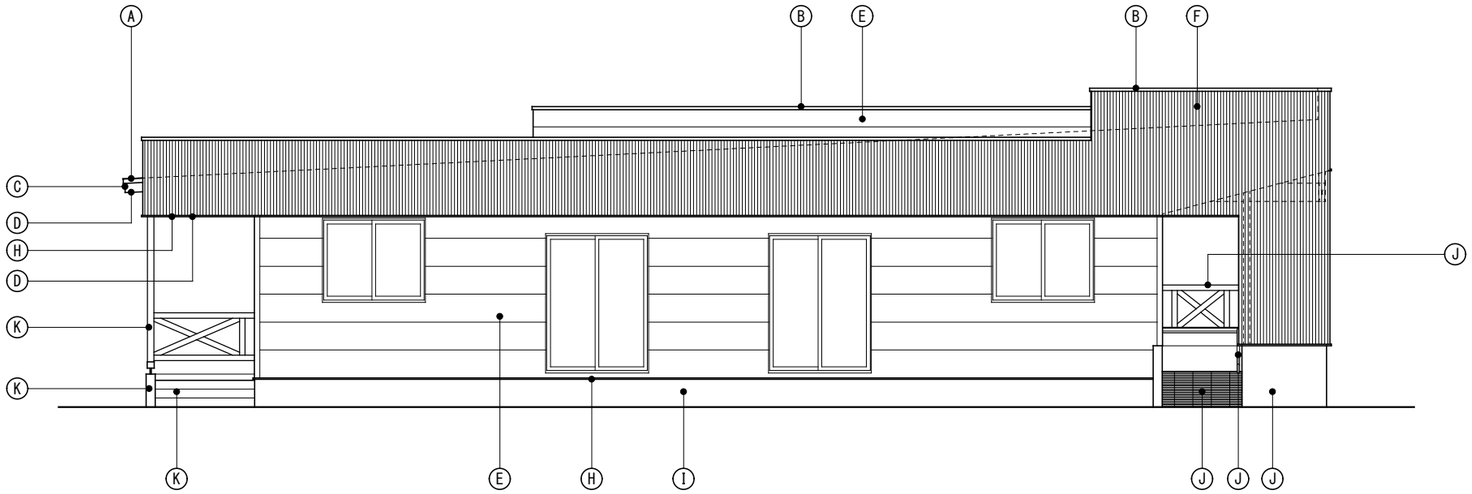
(***)　：パラペット天端レベルを示す（最高の高さからの高低差）

屋根伏図 S=1:100

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	屋根伏図	縮尺 １：１００ １： １：	図面番号 Ａ－１１



南面立面図 S=1:100



西面立面図 S=1:100

符号	部位	仕　上	符号	部位	仕　上	符号	部位	仕　上
Ⓐ	屋　根	t0.35カラーガルバリウム鋼板(フラットルーフ)＋アスファルトルーフィング940 ＋t12構造用合板	Ⓗ	水　切	アルミ既製品(通気)	Ⓞ	赤 色 灯	(電気設備工事)
Ⓑ	笠　木	t0.4カラーガルバリウム鋼板包み(木下地、壁・小屋裏通気金物共)	Ⓘ	基礎立上	t15ラスモルタル刷毛引き＋t50FP板			
Ⓒ	破　風	t0.4カラーガルバリウム鋼板包み(木下地)	Ⓙ	ポーチ①	床：t10.0ゴムチップタイル　腰壁：コンクリート打放し補修＋複層仕上塗材E 柱：杉材(木材防腐塗装、SUS金物共)　手摺：t2.0 SUS304 HL 加工(φ38、樹脂被覆)			
Ⓓ	軒　天	t12軒天ボード(塗装品、一部有孔板)	Ⓚ	ポーチ②	床：コンクリート刷毛引き　腰壁：コンクリート打放し補修＋複層仕上塗材E 柱：杉材(木材防腐塗装、SUS金物共)　手摺：t2.0 SUS304 HL 加工(φ38、樹脂被覆)			
Ⓔ	外 壁 ①	t16窯業系サイディング(金物工法)＋胴縁(45×18)＋透湿防水シート＋t30FP板 ＋t9.0構造用合板	Ⓛ	足 洗 場	平場：防水モルタル金ゴテ　立上：コンクリート打放し補修＋複層仕上塗材E グレーチング、ブラシ掛けフック			
Ⓕ	外 壁 ②	t18金属系サイディング＋胴縁(45×18)＋透湿防水シート＋t9.0構造用合板	Ⓜ	掲 示 板	H950×W1,250×D100、アルミ既製品、壁付型、シリンダー錠			
Ⓖ	外 壁 ③	t18木質系サイディング(杉材、木材保護塗料塗り)＋胴縁(45×18)＋透湿防水シート ＋t9.0構造用合板	Ⓝ	館 銘 板	地域会館：ステンレス製箱文字 焼付塗装 250×250 10文字 消防分団：ステンレス製箱文字 焼付塗装 250×250 12文字			

関内地区地域会館新築工事（建築主体）

株式会社 建築設計工房ロゴス
１級建築士事務所 登録 （渡）第 156号
１級建築士登録 第265505号 前田 健二

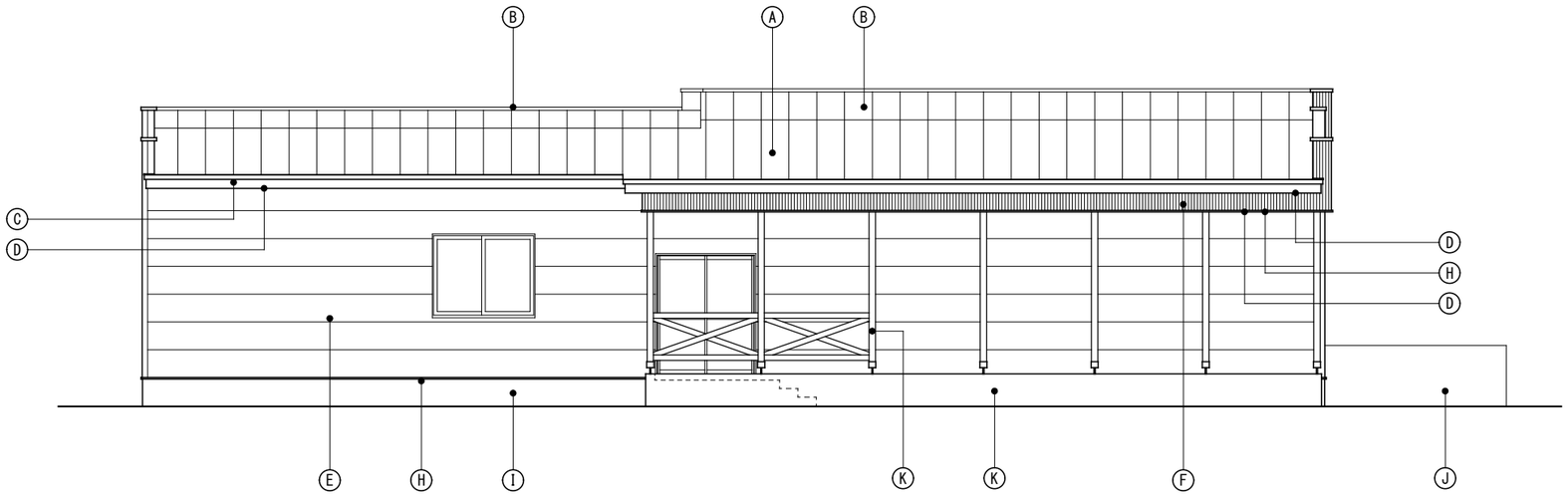
特記事項

訂正事項

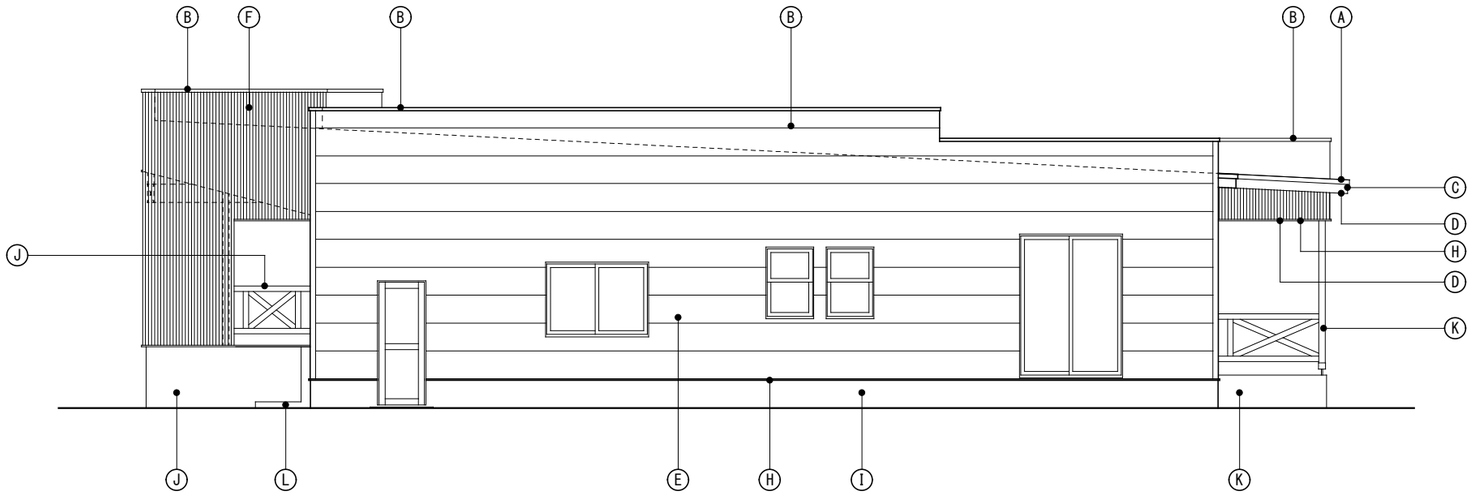
検 図		担 当	作 成

立面図（１）

縮 尺	図 面 番 号
１：１００	Ａ－１２
１：	
１：	



北面立面図 S=1:100



東面立面図 S=1:100

符号	部位	仕　上	符号	部位	仕　上	符号	部位	仕　上
Ⓐ	屋　根	t0.35カラーガルバリウム鋼板(フラットルーフ)＋アスファルトルーフィング940 ＋t12構造用合板	Ⓗ	水　切	アルミ既製品(通気)	⓪	赤 色 灯	(電気設備工事)
Ⓑ	笠　木	t0.4カラーガルバリウム鋼板包み(木下地、壁・小屋裏通気金物共)	Ⓘ	基礎立上	t15ラスモルタル刷毛引き＋t50FP板			
Ⓒ	破　風	t0.4カラーガルバリウム鋼板包み(木下地)	Ⓙ	ポーチ①	床：t10.0ゴムチップタイル　腰壁：コンクリート打放し補修＋複層仕上塗材E 柱：杉材(木材防腐塗装、SUS金物共)　手摺：t2.0 SUS304 HL 加工(φ38、樹脂被覆)			
Ⓓ	軒　天	t12軒天ボード(塗装品、一部有孔板)	Ⓚ	ポーチ②	床：コンクリート刷毛引き　腰壁：コンクリート打放し補修＋複層仕上塗材E 柱：杉材(木材防腐塗装、SUS金物共)　手摺：t2.0 SUS304 HL 加工(φ38、樹脂被覆)			
Ⓔ	外 壁 ①	t16窯業系サイディング(金物工法)＋胴縁(45×18)＋透湿防水シート＋t30FP板 ＋t9.0構造用合板	Ⓛ	足 洗 場	平場：防水モルタル金ゴテ　立上：コンクリート打放し補修＋複層仕上塗材E グレーチング、ブラシ掛けフック			
Ⓕ	外 壁 ②	t18金属系サイディング＋胴縁(45×18)＋透湿防水シート＋t9.0構造用合板	Ⓜ	掲 示 板	H950×W1,250×D100、アルミ既製品、壁付型、シリンダー錠			
Ⓖ	外 壁 ③	t18木質系サイディング(杉材、木材保護塗料塗り)＋胴縁(45×18)＋透湿防水シート ＋t9.0構造用合板	Ⓝ	館 銘 板	地域会館：ステンレス製箱文字 焼付塗装 250×250 10文字 消防分団：ステンレス製箱文字 焼付塗装 250×250 12文字			

関内地区地域会館新築工事（建築主体）

株式会社 建築設計工房ロゴス
１級建築士事務所 登録 （渡）第 156号
１級建築士登録　第265505号　前田　健二

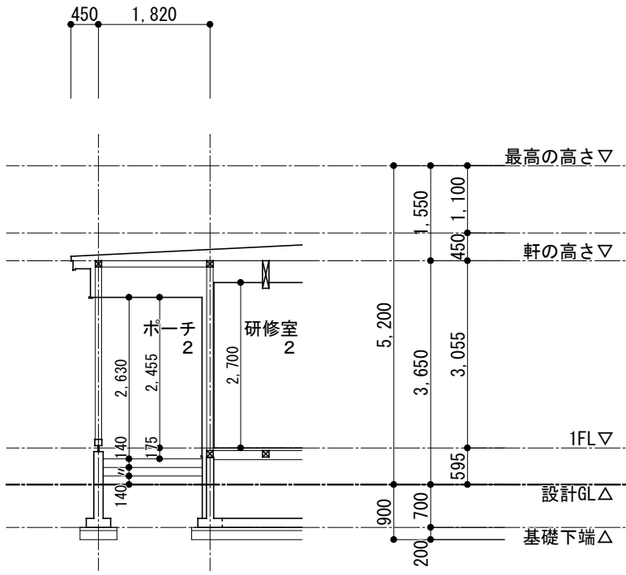
特記事項

訂正事項

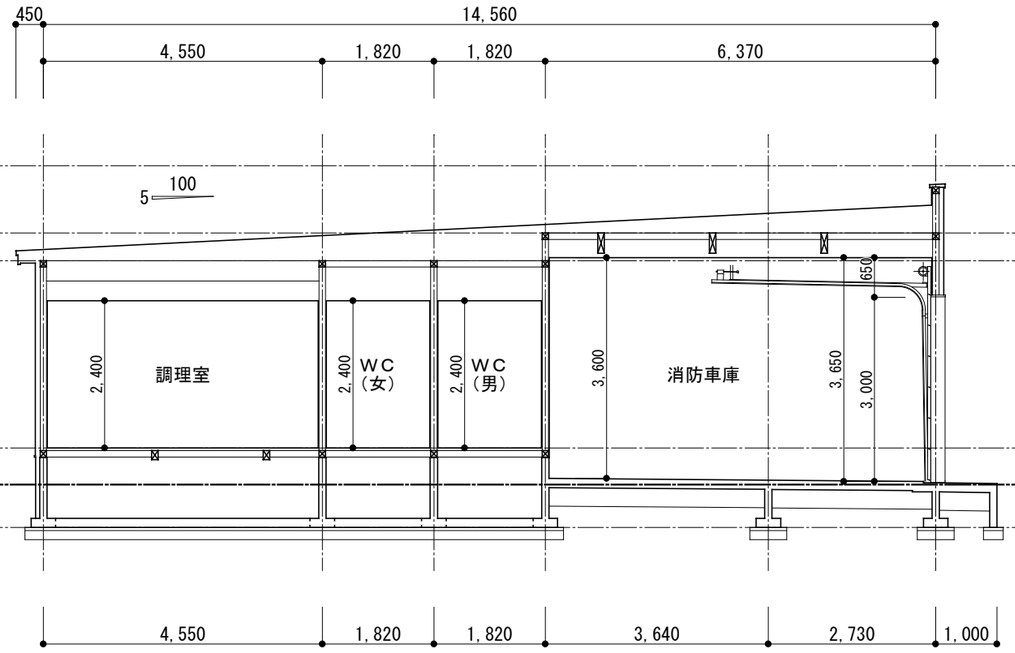
検 図		担 当	作 成

立面図（２）

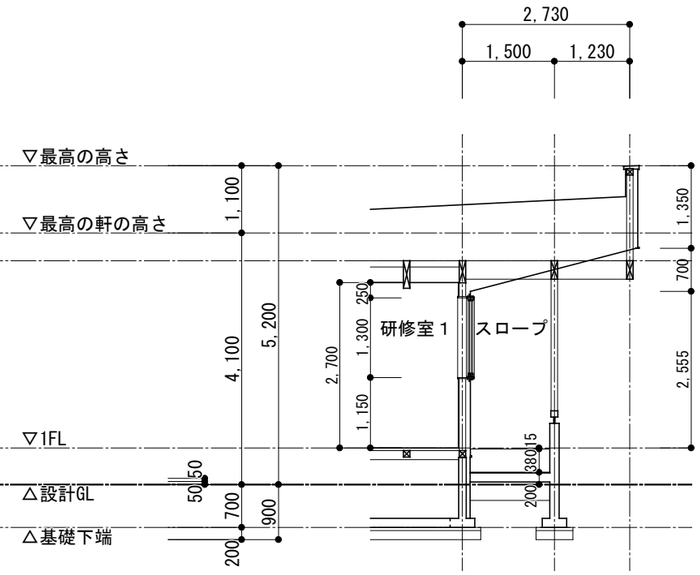
縮 尺	図 面 番 号
１：１００	Ａ－１３
１：	
１：	



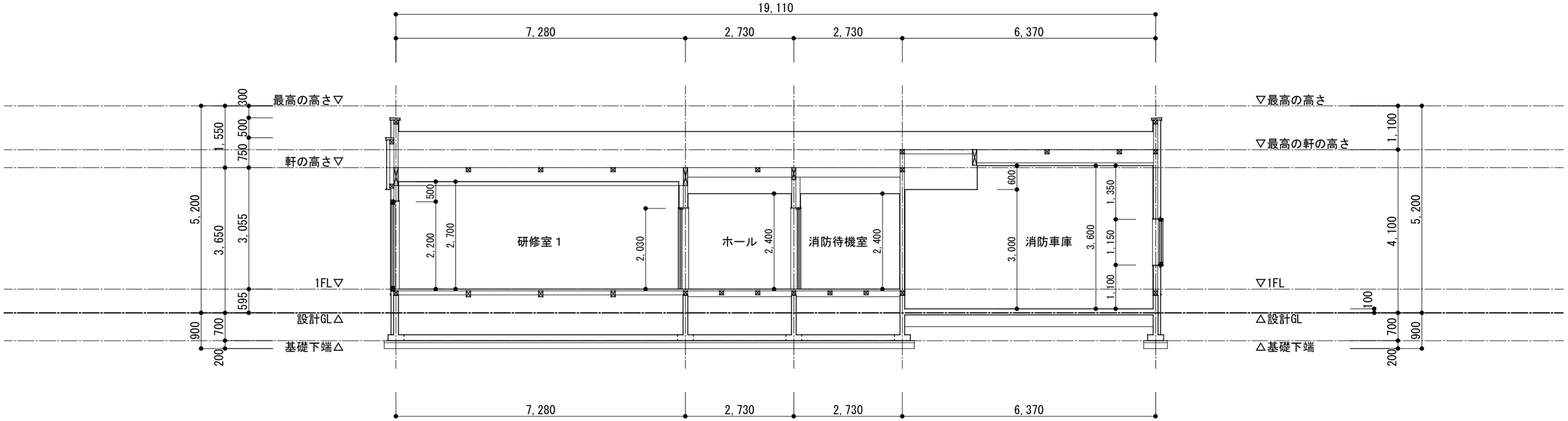
C断面図 S=1:100



A断面図 S=1:100



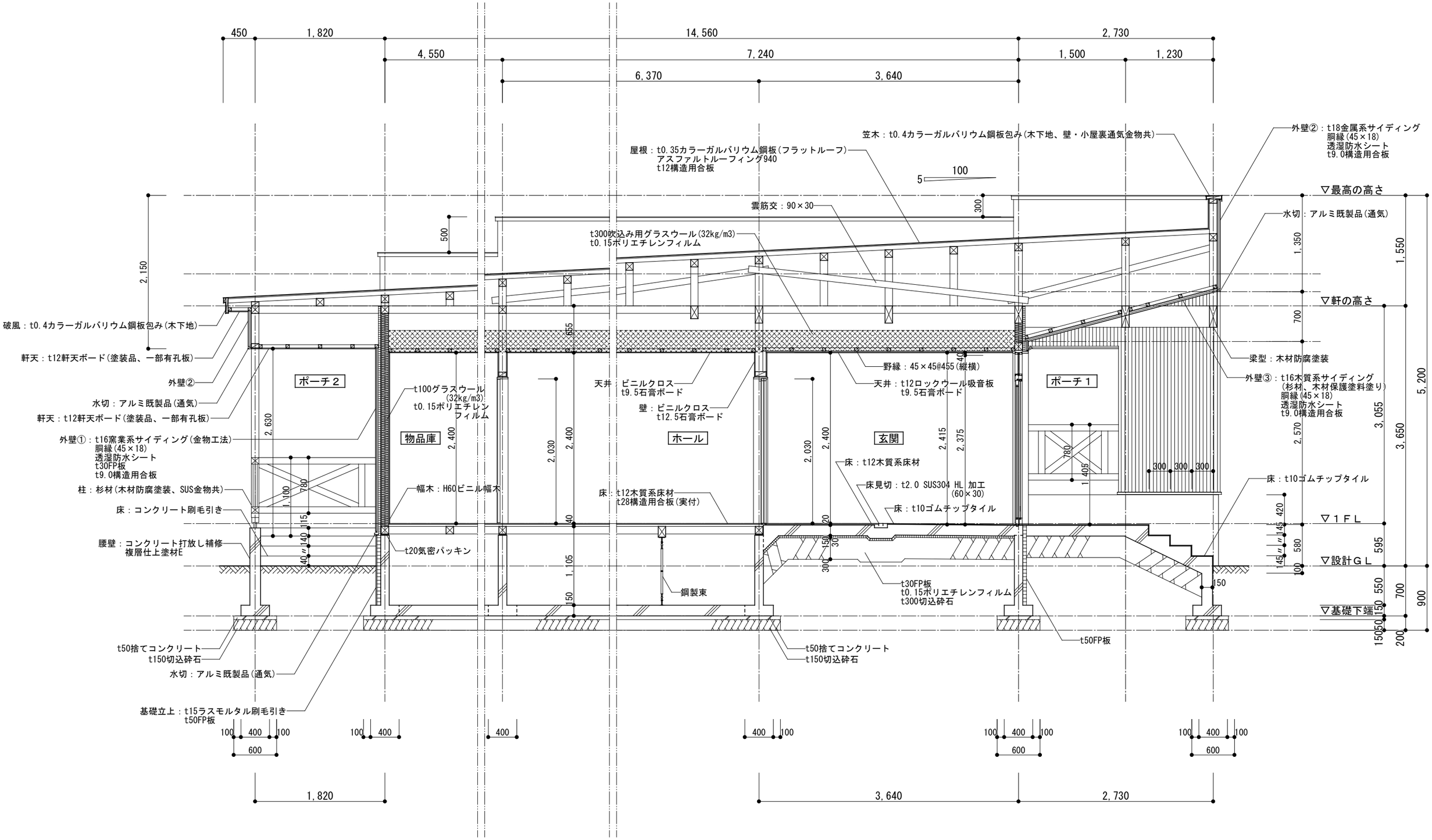
B断面図 S=1:100



D断面図 S=1:100

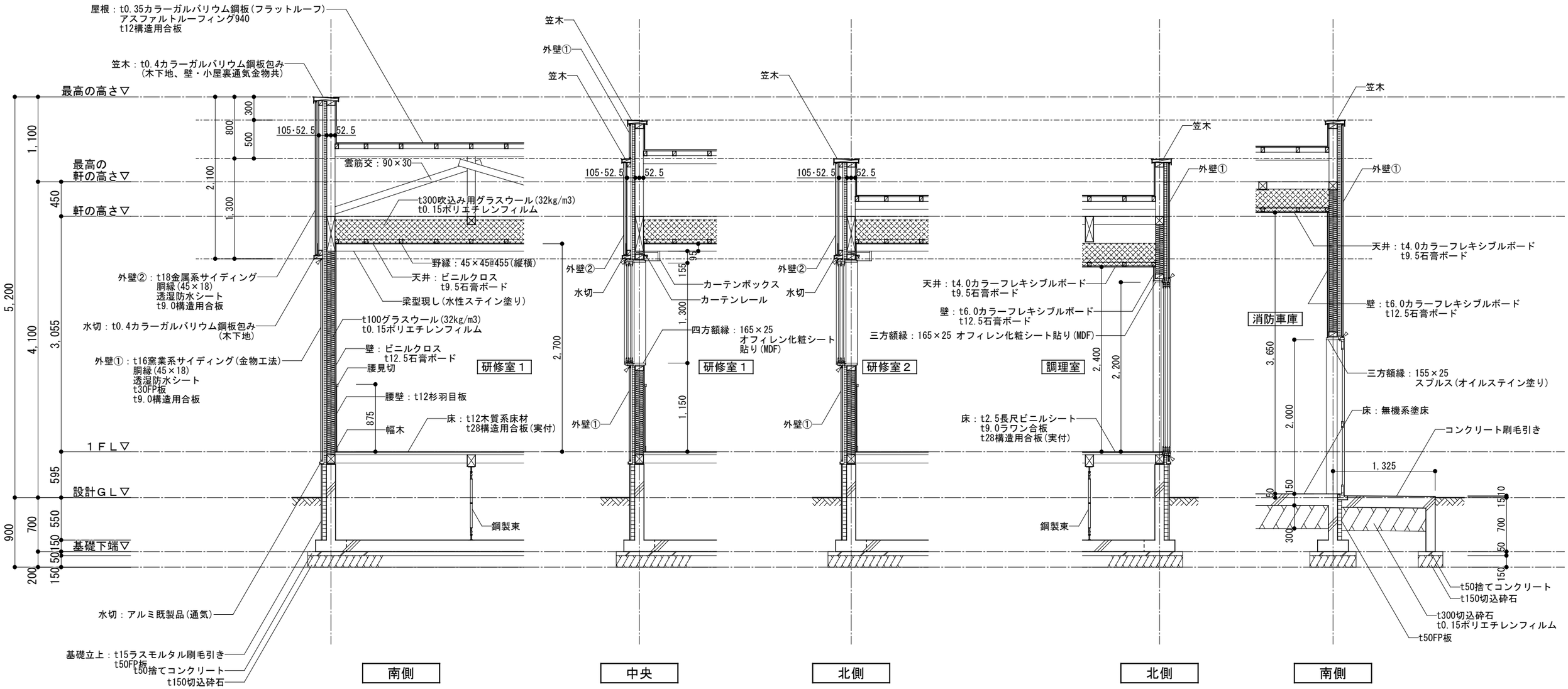
関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	断面図

縮尺	図面番号
１：１００ １： １：	Ａ－１４



矩計図 S=1:50

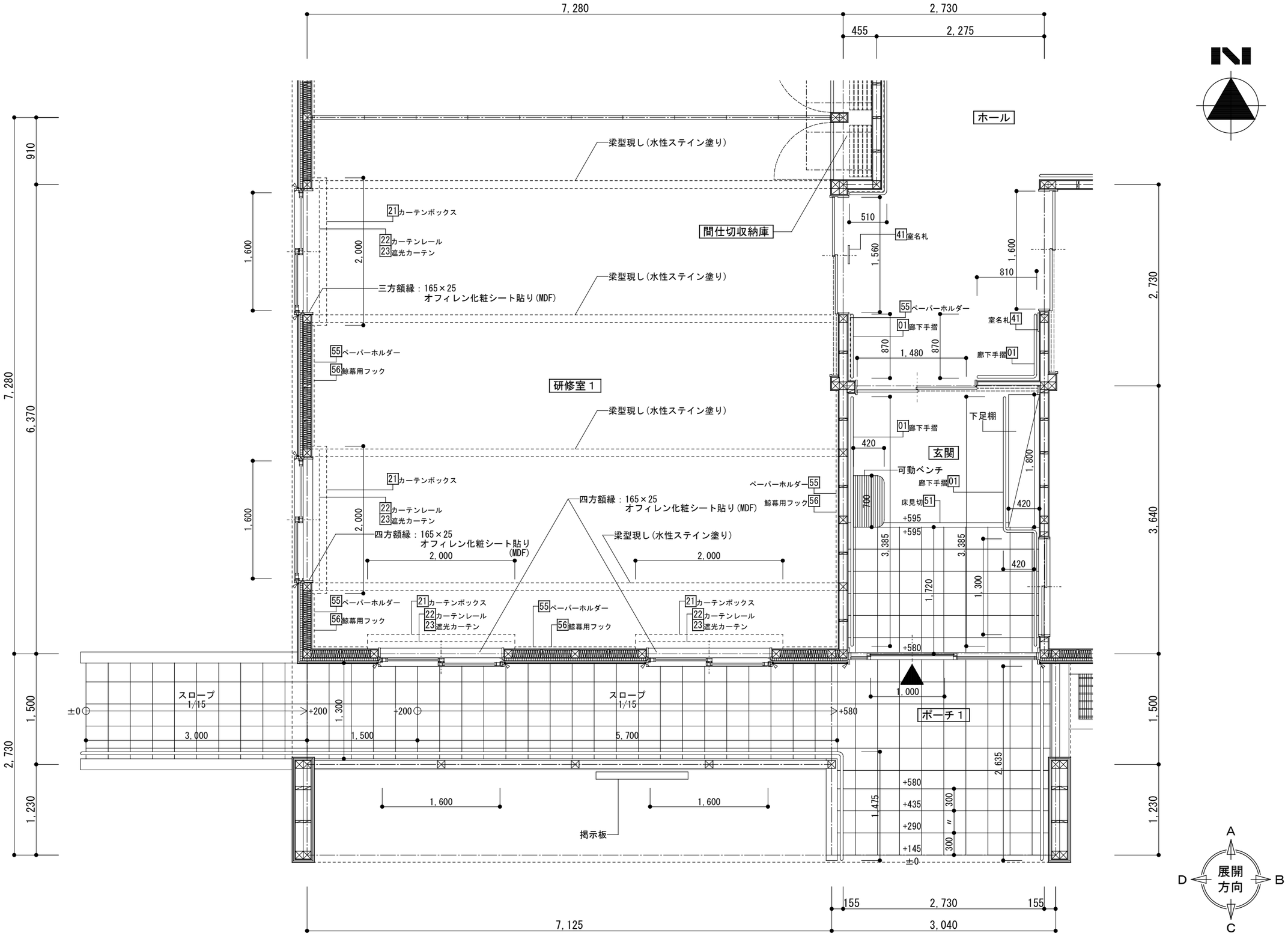
関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	矩計図	縮尺 1：50	図面番号 Ａ－１５



断面詳細図(外壁西面) S=1:50

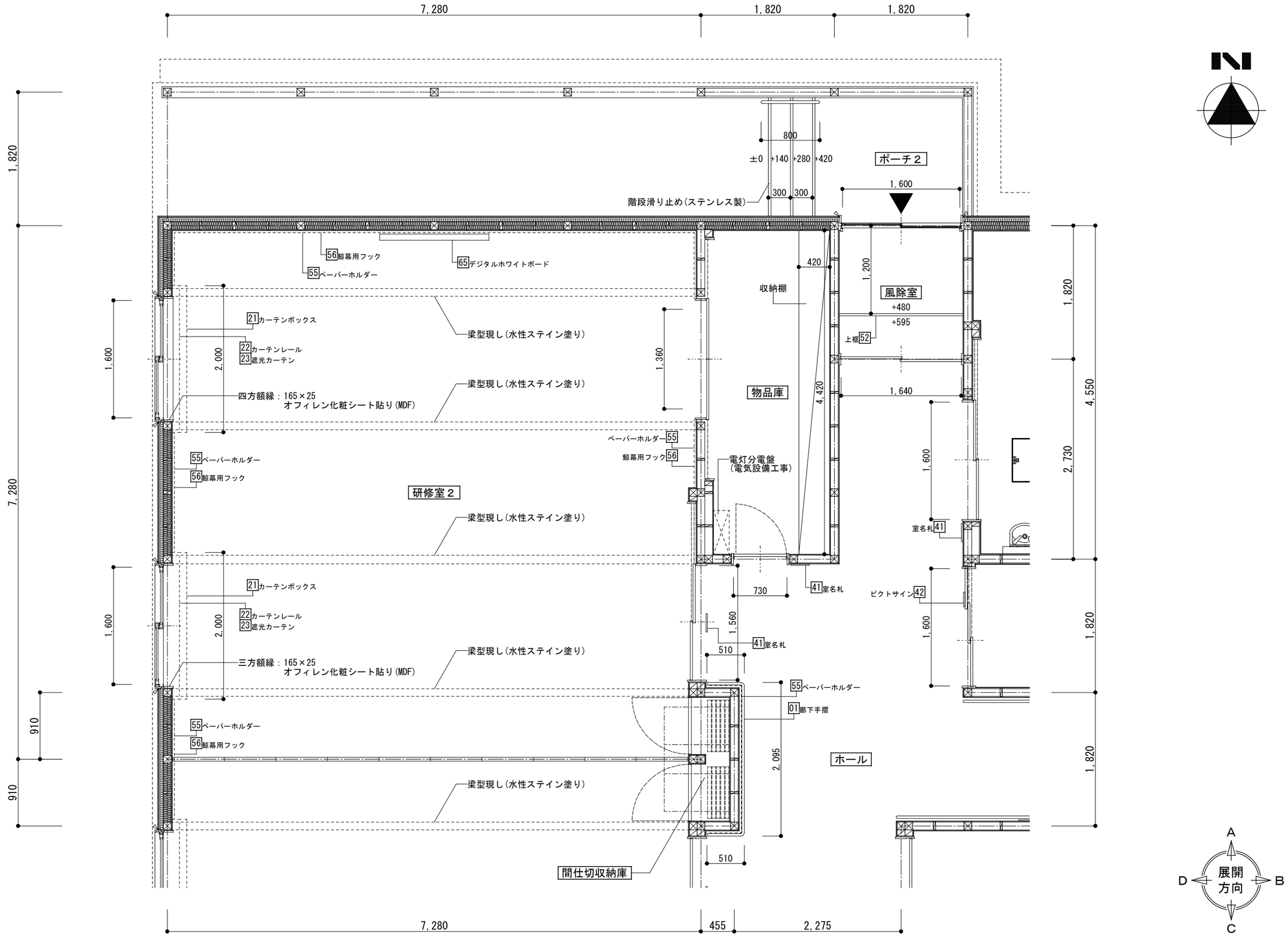
断面詳細図(外壁東面) S=1:50

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	断面詳細図	縮尺 1：50 / 1： / 1：	図面番号 A－16



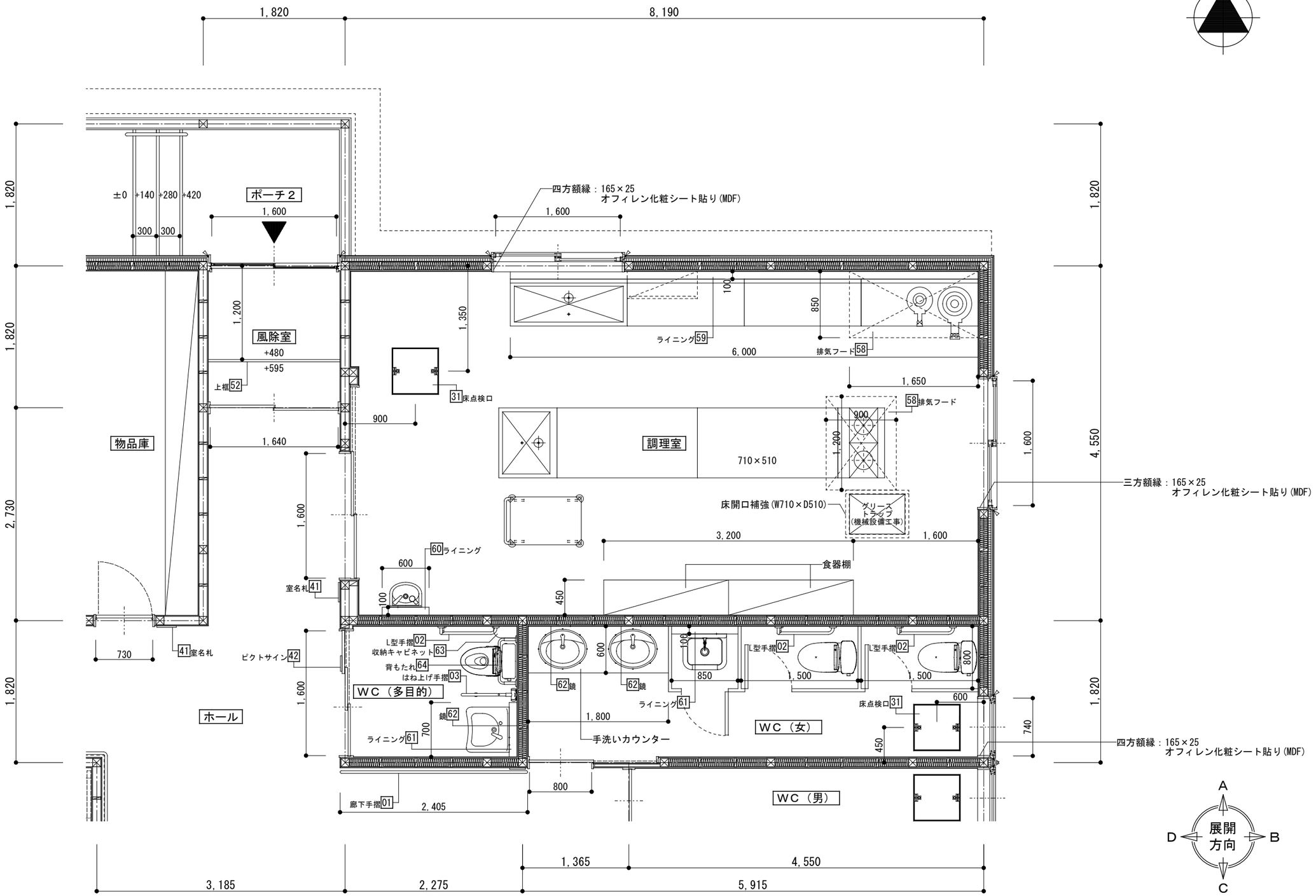
平面詳細図 S=1:50

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	平面詳細図（１）	縮尺 1：50	図面番号 A－17



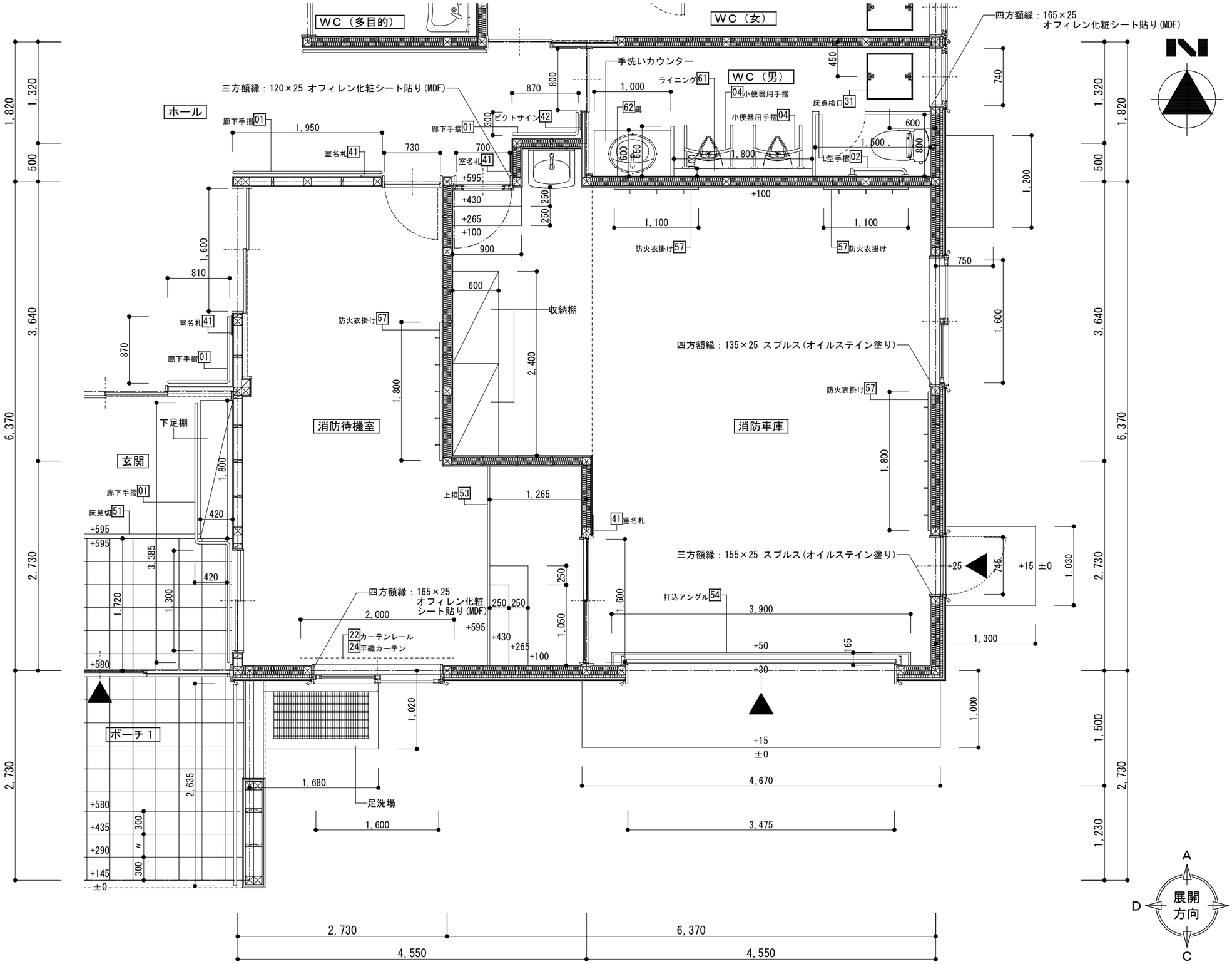
平面詳細図 S=1:50

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	平面詳細図（２）	縮尺	図面番号
								１：５０ １： １：	Ａ－１８



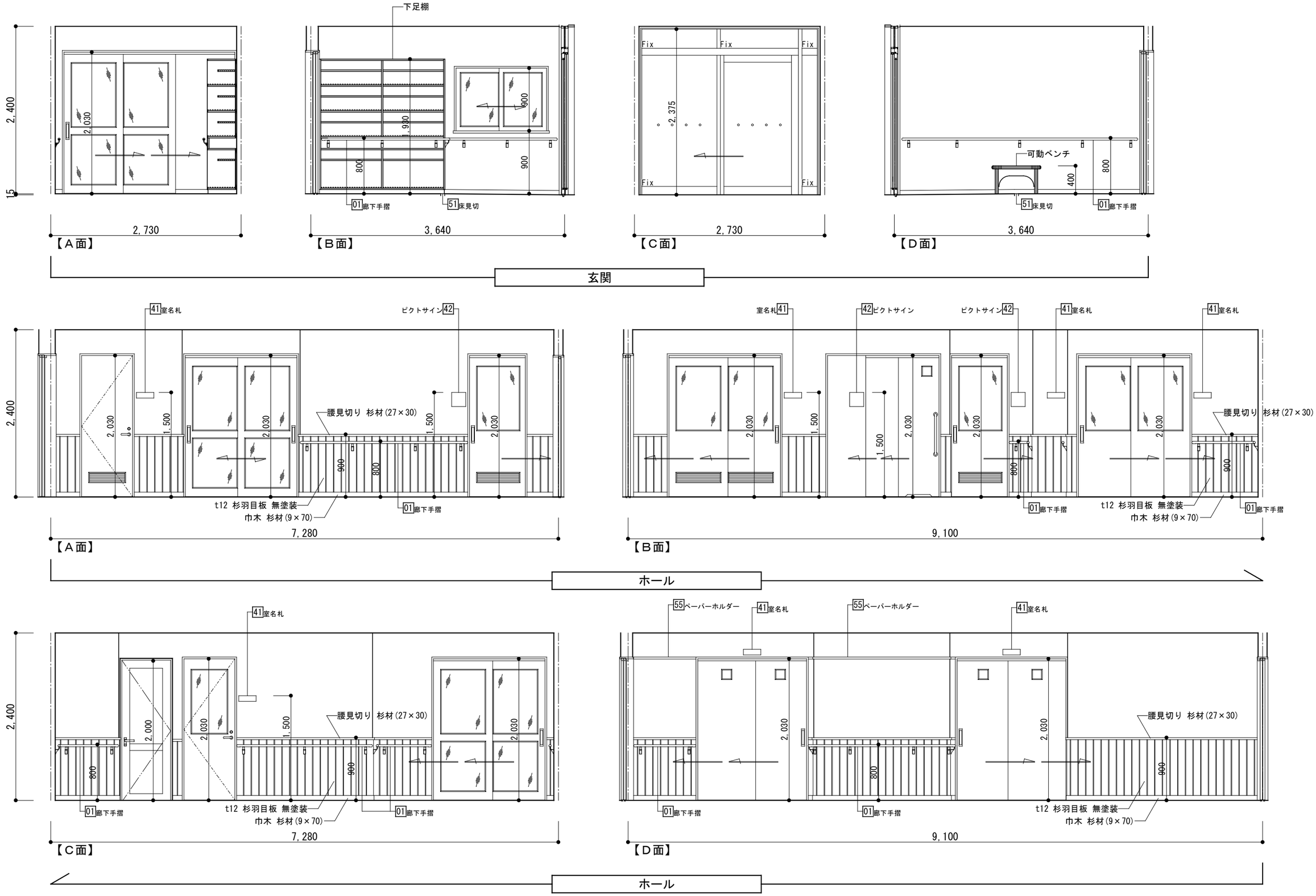
平面詳細図 S=1:50

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	平面詳細図（３）	縮尺 １：５０ １： １：	図面番号 Ａ－１９



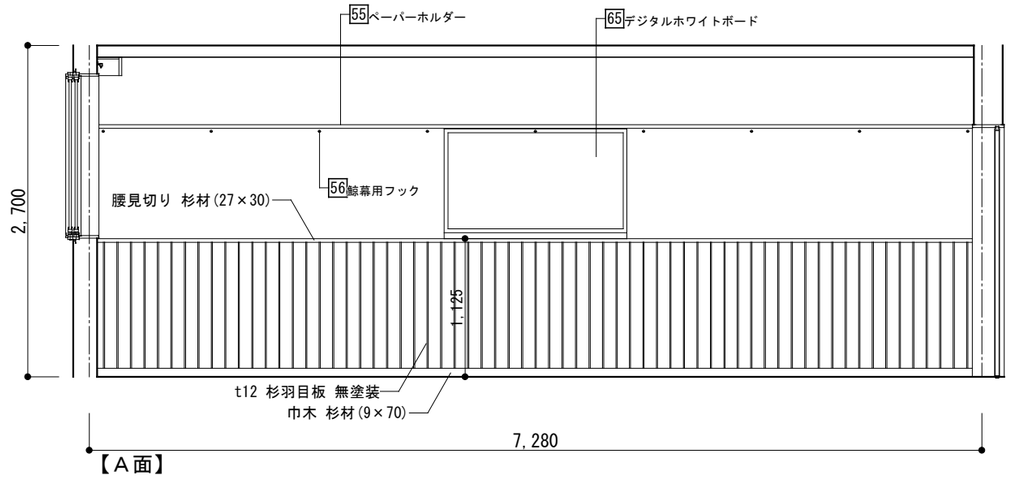
平面詳細図 S=1:50

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	平面詳細図（４）	縮尺 1：50	図面番号 A－２０

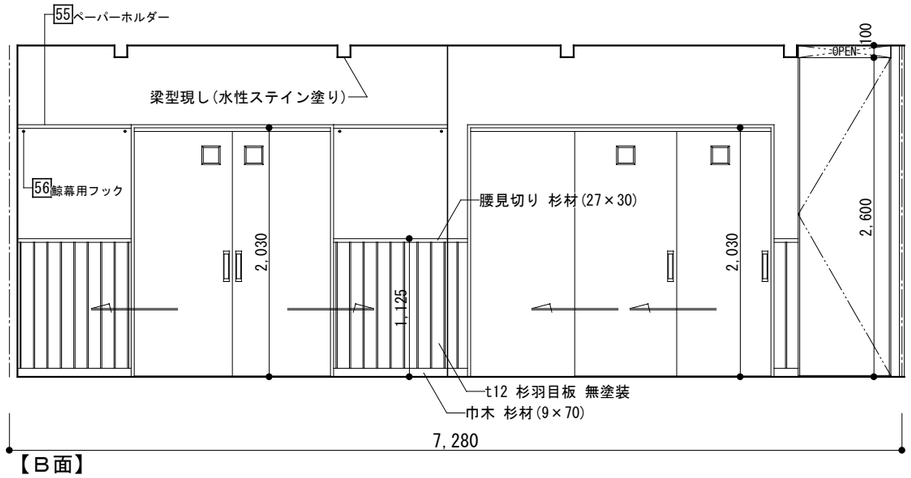


関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス 1級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 1級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	展開図（1）	縮尺 1：50	図面番号 A－21

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	展開図（２）	縮尺 1：50 / 1： / 1：	図面番号 A－22

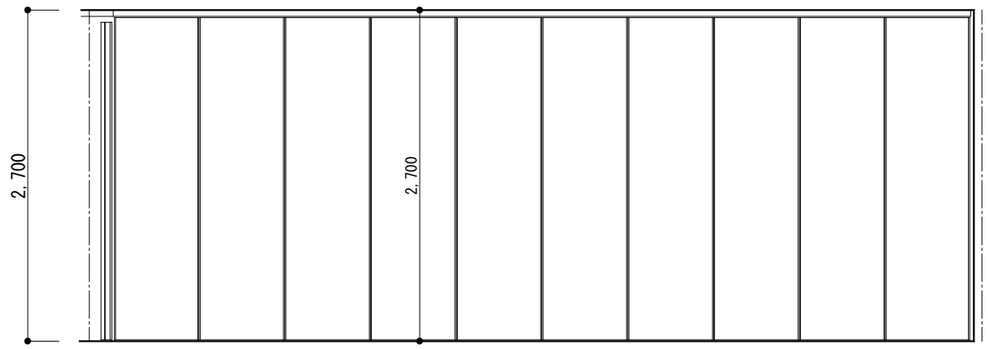


【Ａ面】

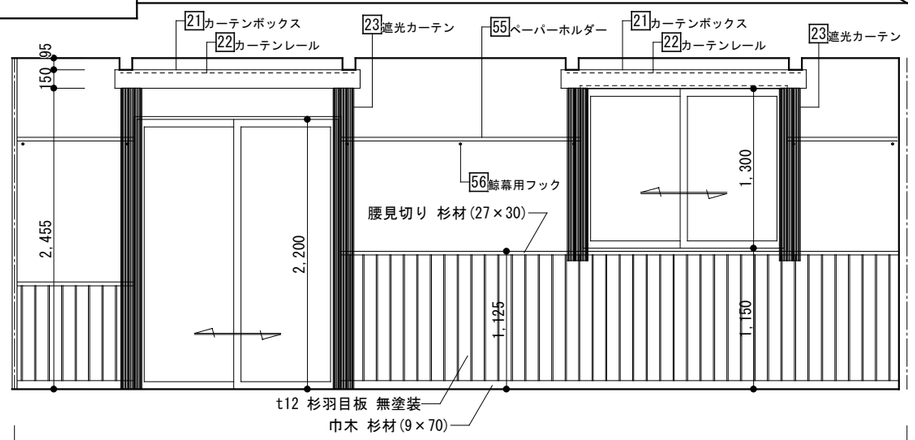


【Ｂ面】

研修室２

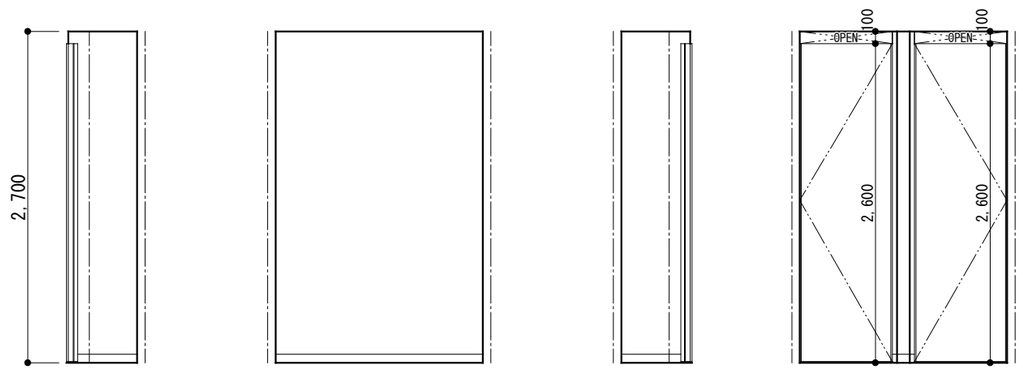


【Ｃ面】



【Ｄ面】

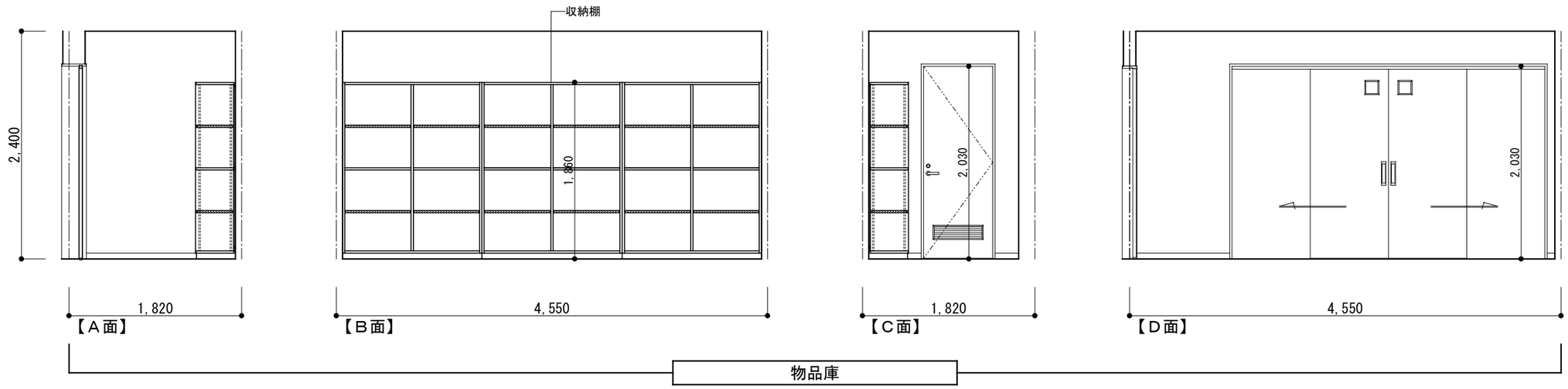
研修室２

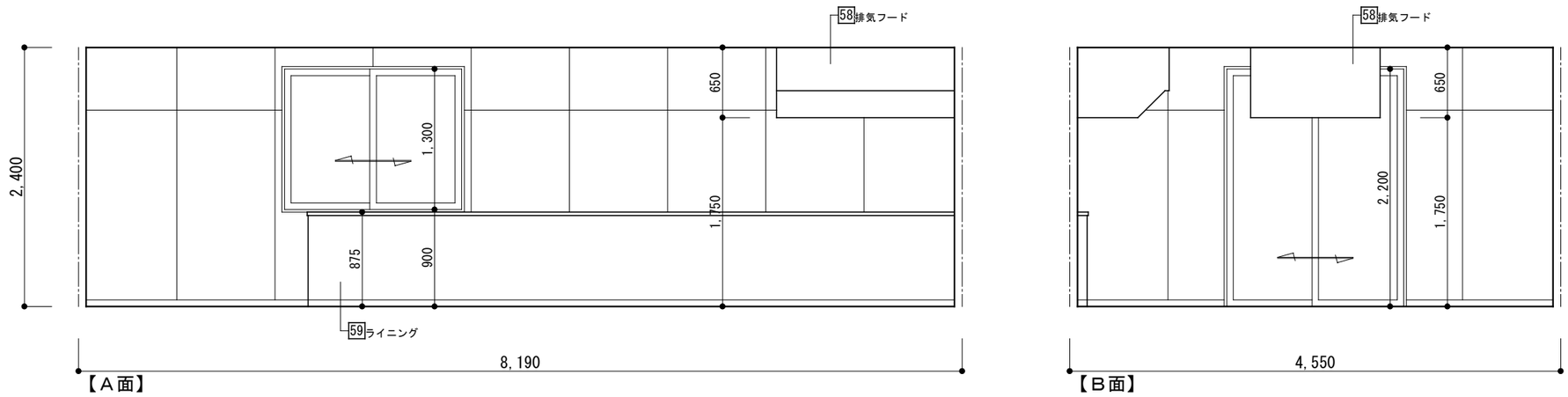


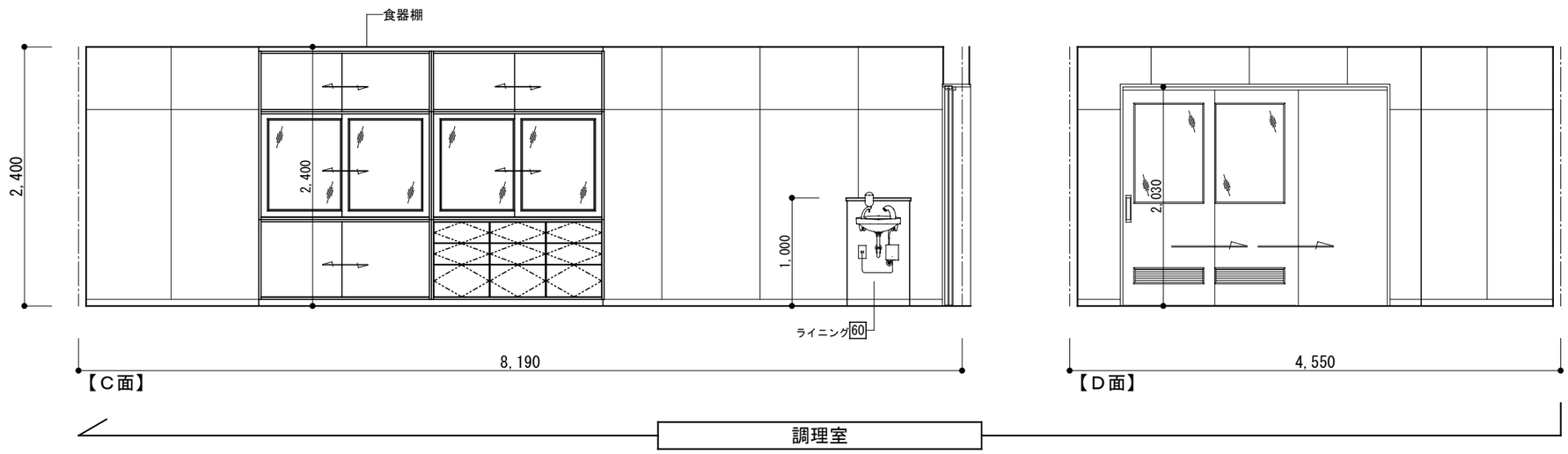
【Ａ面】 【Ｂ面】 【Ｃ面】 【Ｄ面】

間仕切収納庫

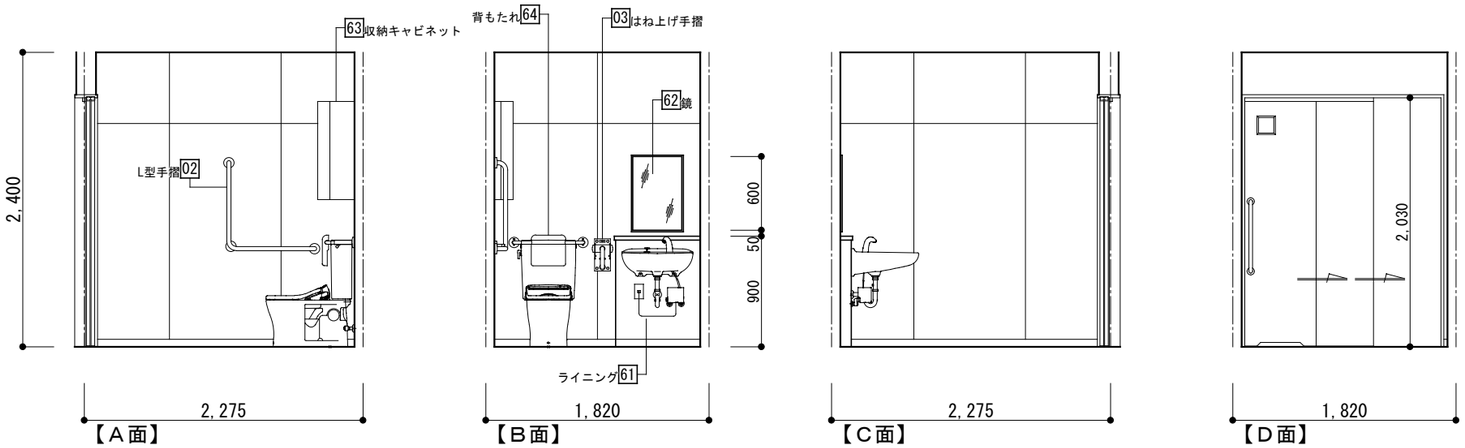
関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	展開図（３）	縮尺 1：50 / 1： / 1：	図面番号 Ａ－２３



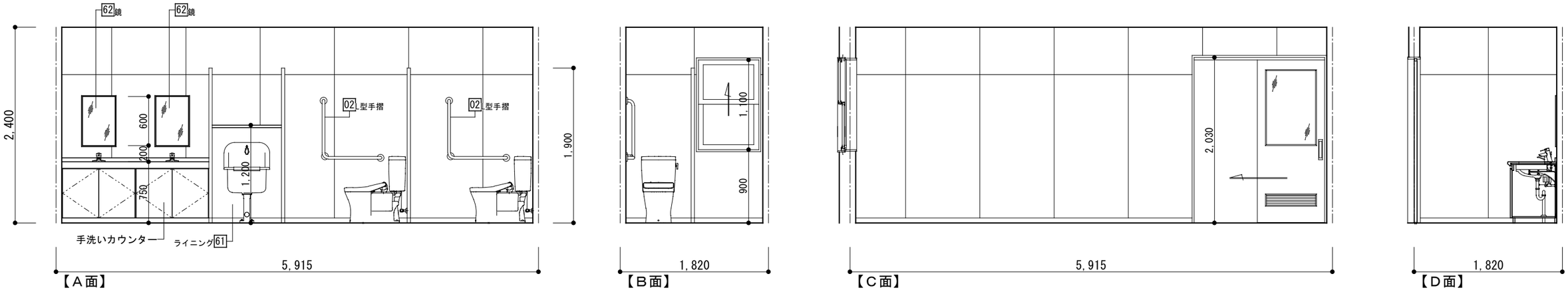




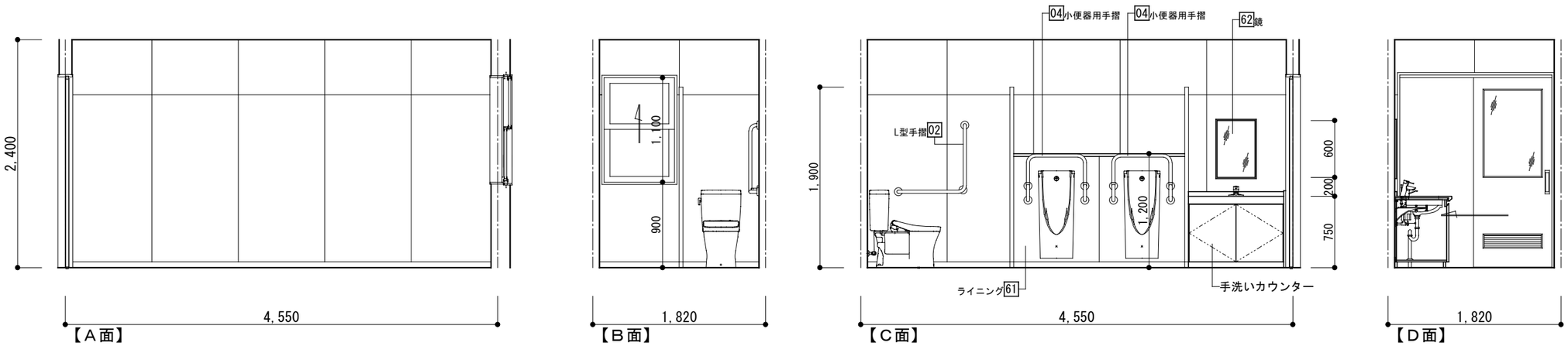
関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	展開図（４）	縮尺 １：５０ １： １：	図面番号 Ａ－２４



WC（多目的室）



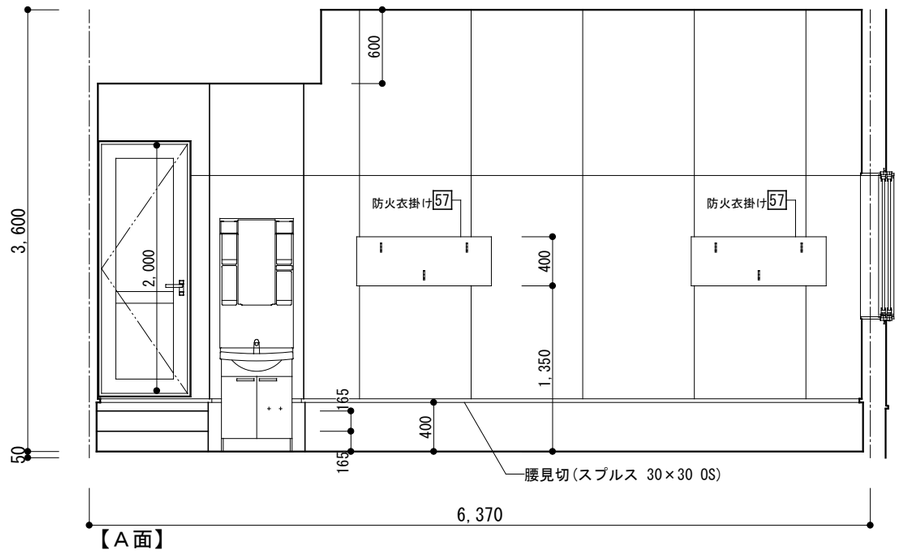
WC（女）



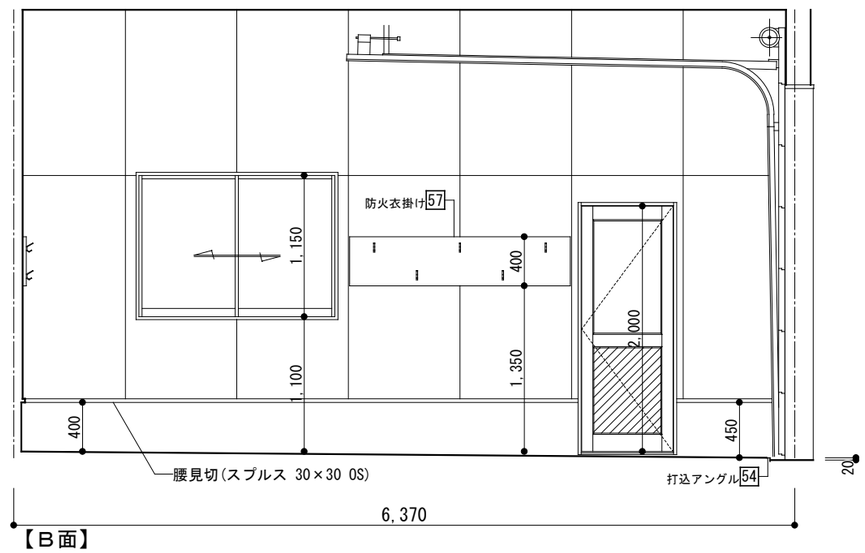
WC（男）

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス 1級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 1級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	展開図（5）

縮尺	図面番号
1：50 1： 1：	A－25

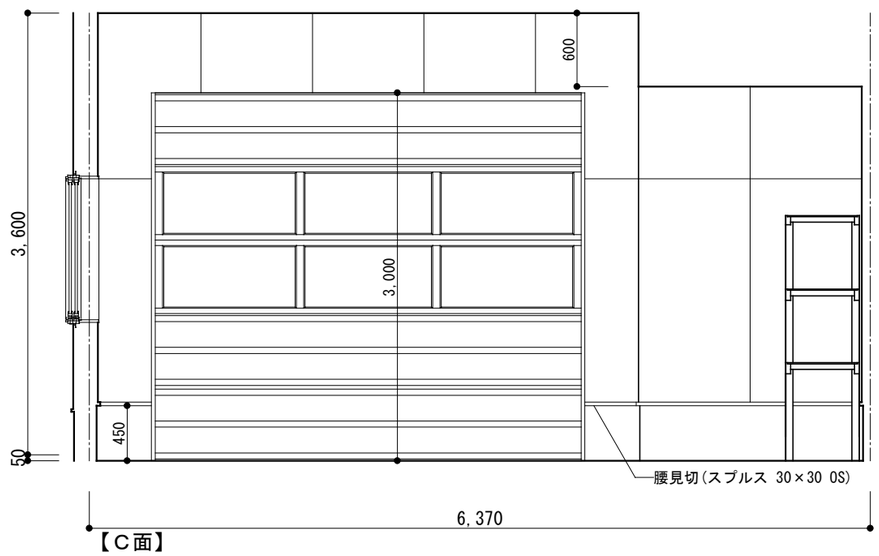


【A面】

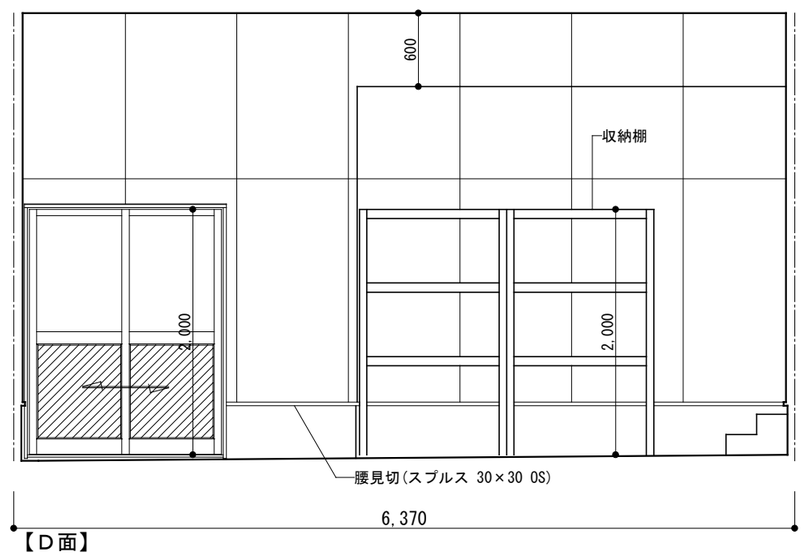


【B面】

消防車庫



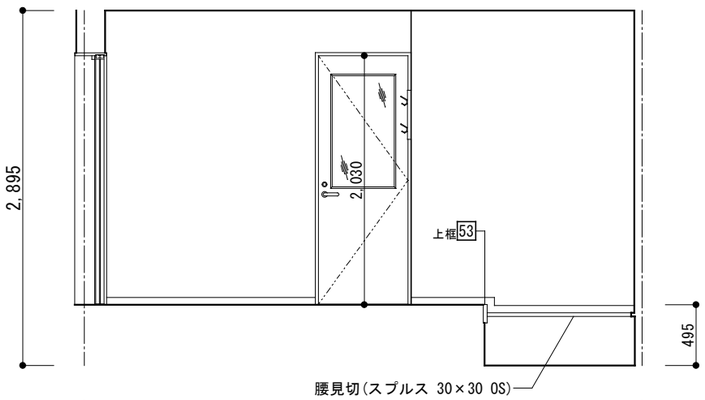
【C面】



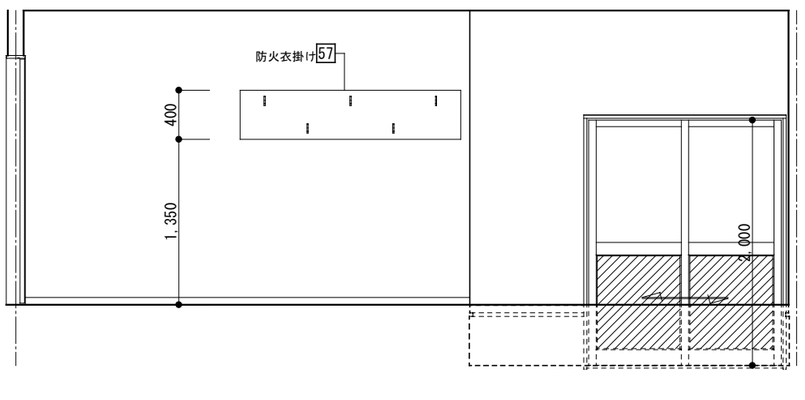
【D面】

消防車庫

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	展開図（６）	縮尺 １：５０ １： １：	図面番号 Ａ－２６

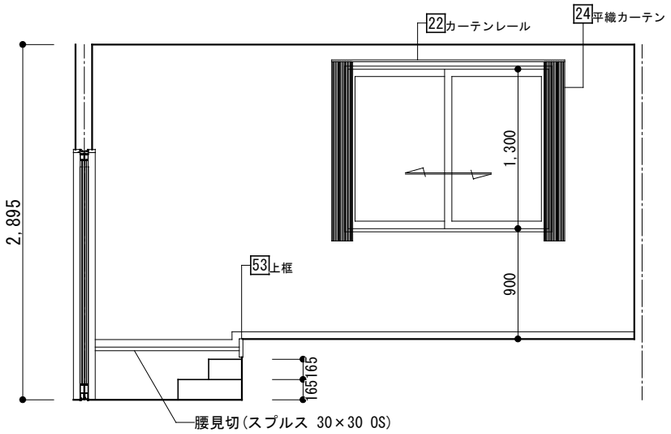


【Ａ面】

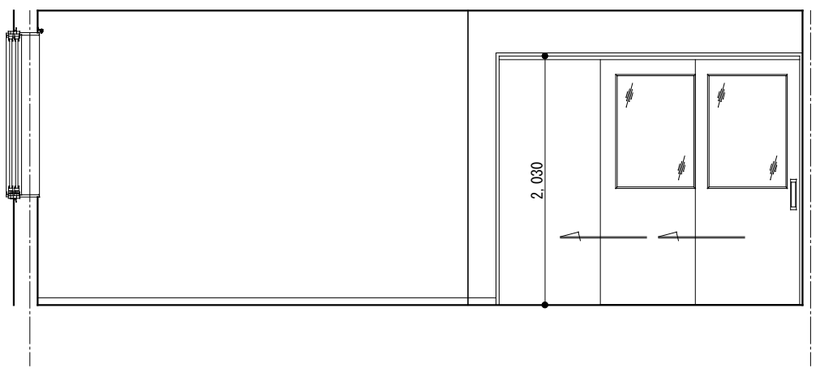


【Ｂ面】

消防待機室



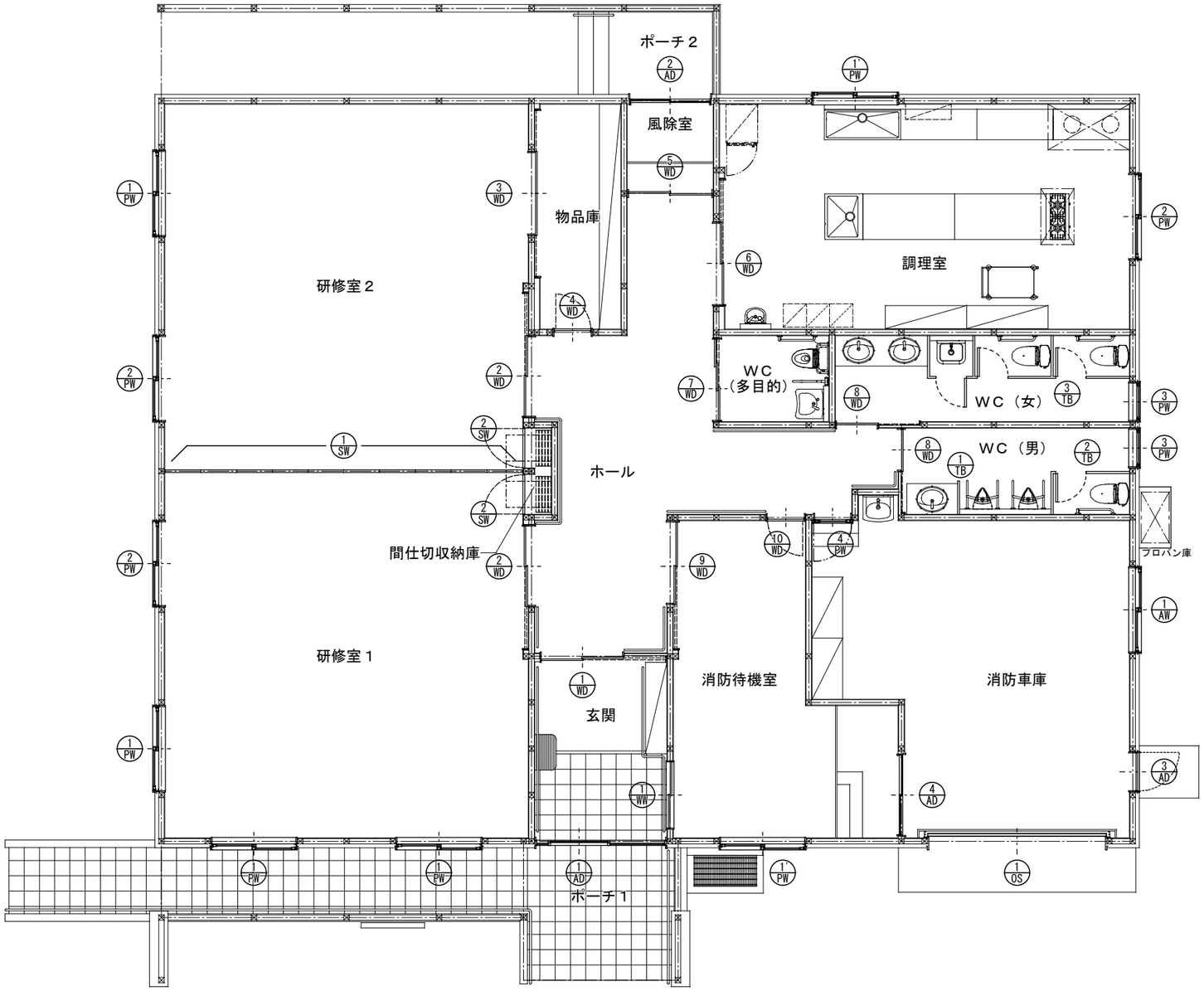
【Ｃ面】



【Ｄ面】

消防待機室

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	展開図（７）	縮尺 １：５０ １： １：	図面番号 Ａ－２７

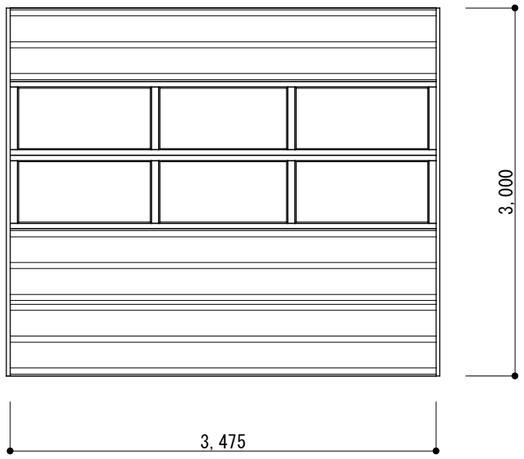


建具配置図　Ｓ＝１：１００

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録　第265505号　前田　健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	建具配置図	縮尺 １：１００ １： １：	図面番号 Ａ－２８

記号・型式・数量	1 OS	アルミ重量オーバースライダー（バランス式）	1ヶ所
部位・見込		消防車庫	

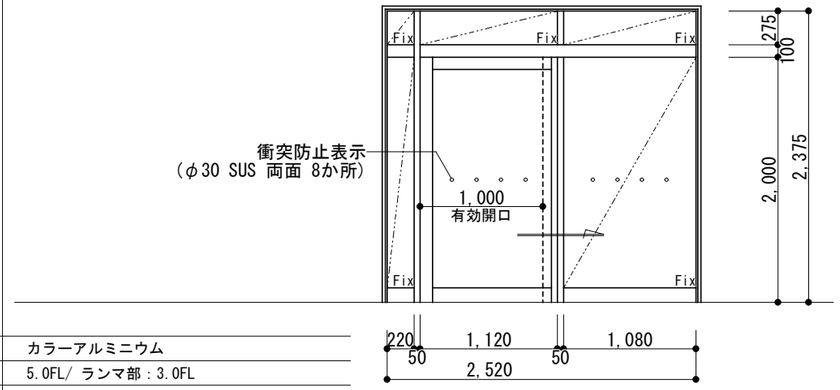
形状・寸法



材種・仕上	框：アルミ押出型材 A-1種 無着色陽極酸化皮膜 50㎜
硝子	パネル：t0.6カラーアルミ、t1.1 FRP
金物	ステンレスレール・センターロック、落下防止装置付、附属金物一式
備考	三方枠(t1.5・SUS304)

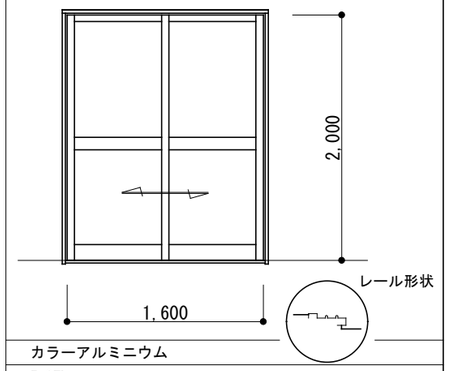
記号・型式・数量	1 AD	アルミ引込戸	1ヶ所
部位・見込		玄関	見込み 100㎜

形状・寸法



材種・仕上	カラーアルミニウム
硝子	5.0FL/ ランマ部：3.0FL
金物	引棒、戸車、引き戸鎌錠、ステンレス下枠レール、附属金物一式
備考	

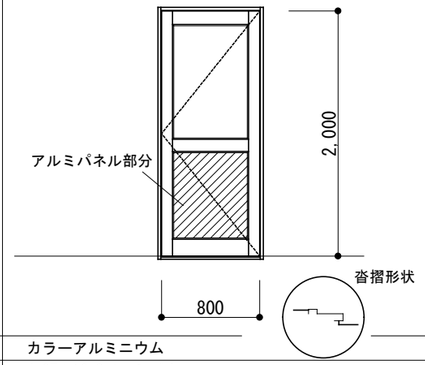
記号・型式・数量	2 AD	アルミ引違い戸	1ヶ所
部位・見込		風除室	見込み 70㎜



材種・仕上	カラーアルミニウム
硝子	5.0FL
金物	引手、戸車、引違い錠 ステンレス下枠レール、附属金物一式
備考	

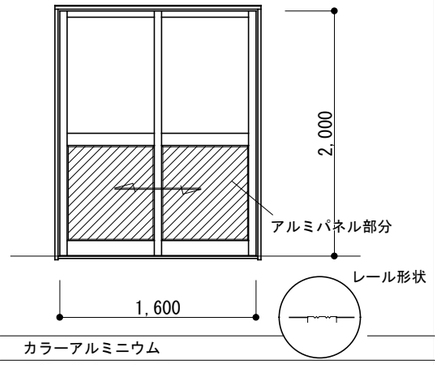
記号・型式・数量	3 AD	アルミ片開きドア	1ヶ所
部位・見込		消防車庫	見込み 70㎜

形状・寸法



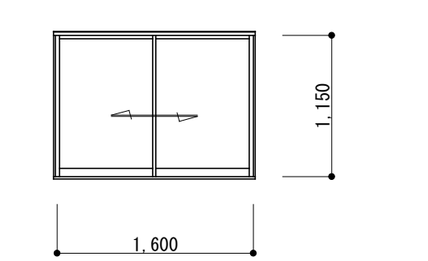
材種・仕上	カラーアルミニウム
硝子	4.0F/ t3.0アルミパネル
金物	ステンレス丁番、レバーハンドル空錠、本締り錠 ドアチェック・戸当り・附属金物一式
備考	沓摺(t1.5・SUS304)

記号・型式・数量	4 AD	アルミ引違い戸	1ヶ所
部位・見込		消防車庫	見込み 70㎜



材種・仕上	カラーアルミニウム
硝子	4.0F/ t3.0アルミパネル
金物	引手、戸車、引違い錠 ステンレス下枠レール、附属金物一式
備考	

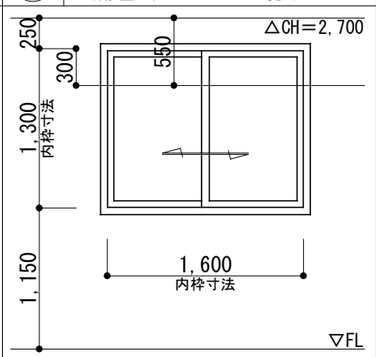
記号・型式・数量	1 AW	アルミ引違い窓	1ヶ所
部位・見込		消防車庫	見込み 70㎜



材種・仕上	カラーアルミニウム
硝子	4.0F
金物	クレセント錠、戸車、附属金物一式
備考	網戸

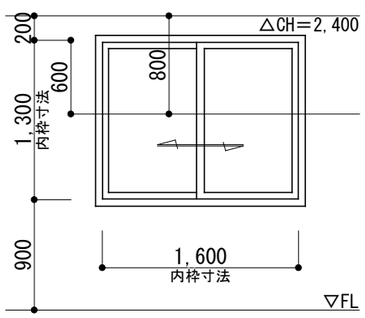
記号・型式・数量	1 PW	樹脂製引違い窓	4ヶ所
部位・見込		研修室１、２	見込み 70㎜

形状・寸法



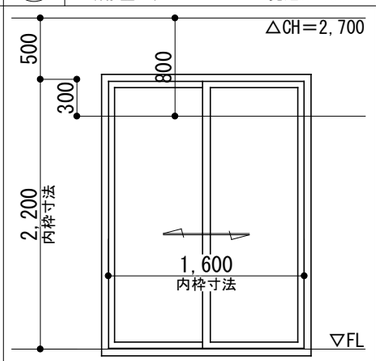
材種・仕上	樹脂サッシ（1,690×1,370）
硝子	3.0FL＋Ar16＋3.0FL
金物	クレセント錠、戸車、附属金物一式
備考	網戸

記号・型式・数量	1' PW	樹脂製引違い窓	2ヶ所
部位・見込		調理室、消防待機室	見込み 70㎜



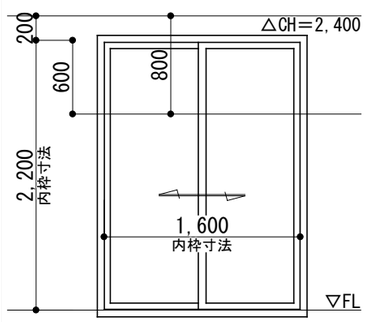
材種・仕上	樹脂サッシ（1,690×1,370）
硝子	3.0FL＋Ar16＋3.0FL
金物	クレセント錠、戸車、附属金物一式
備考	網戸

記号・型式・数量	2 PW	樹脂製引違い窓	2ヶ所
部位・見込		研修室１、２	見込み 70㎜



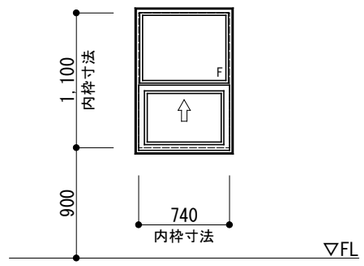
材種・仕上	樹脂サッシ（1,690×2,270）
硝子	5.0FL＋Ar16＋5.0FL
金物	クレセント錠、戸車、附属金物一式
備考	網戸

記号・型式・数量	2' PW	樹脂製引違い窓	1ヶ所
部位・見込		調理室	見込み 70㎜



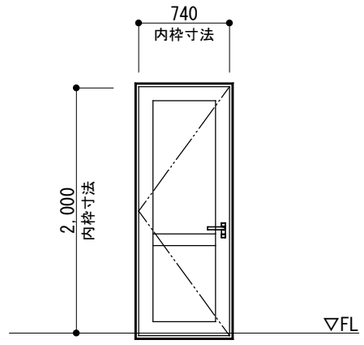
材種・仕上	樹脂サッシ（1,690×2,270）
硝子	5.0FL＋Ar16＋5.0FL
金物	クレセント錠、戸車、附属金物一式
備考	網戸

記号・型式・数量	3 PW	樹脂上げ下げ窓	2ヶ所
部位・見込		ＷＣ（男）、ＷＣ（女）	見込み 70㎜



材種・仕上	樹脂サッシ（780×1,170）
硝子	4.0F＋Ar15＋3.0FL
金物	附属金物一式
備考	網戸

記号・型式・数量	4 PW	樹脂片開きドア窓	1ヶ所
部位・見込		消防車庫	見込み 70㎜



材種・仕上	樹脂サッシ（780×2,070）
硝子	3.0FL＋Ar16＋3.0FL
金物	附属金物一式
備考	

関内地区地域会館新築工事（建築主体）

株式会社 建築設計工房ロゴス
１級建築士事務所 登録 （渡）第 156号
１級建築士登録 第265505号 前田 健二

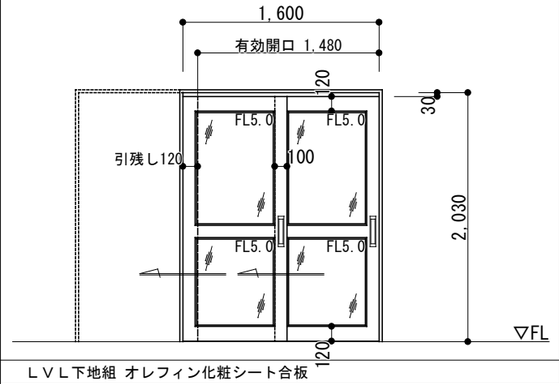
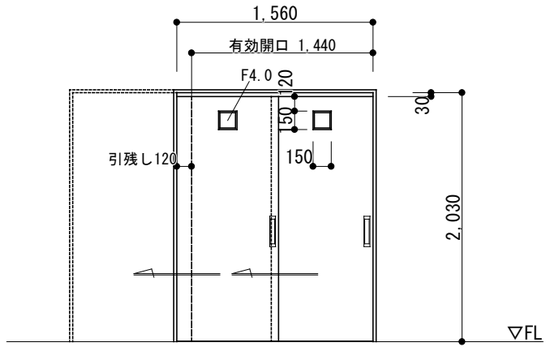
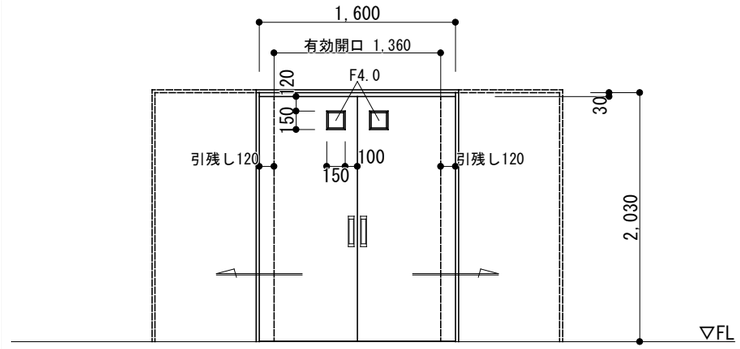
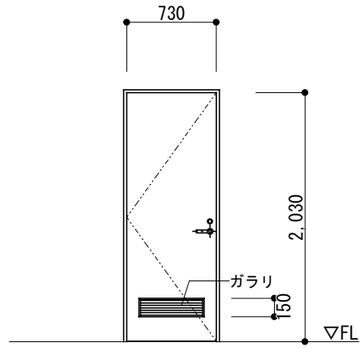
特記事項

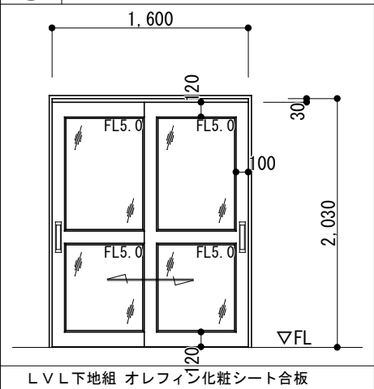
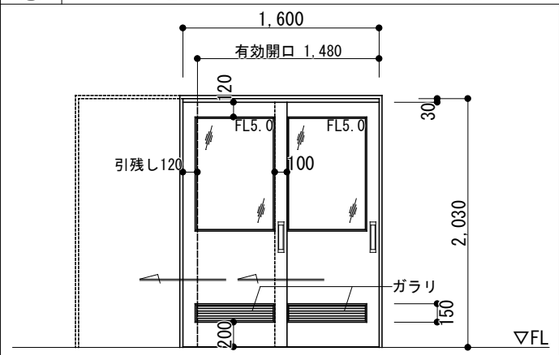
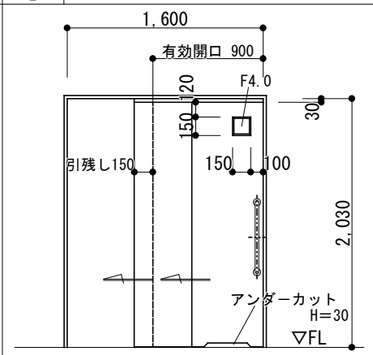
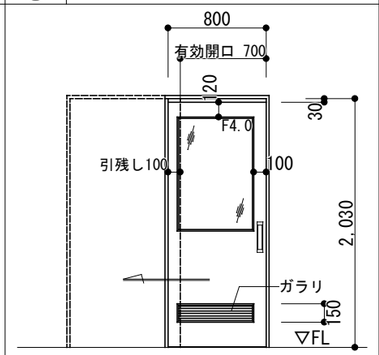
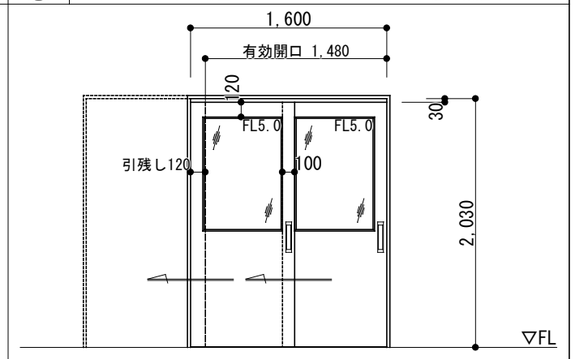
訂正事項

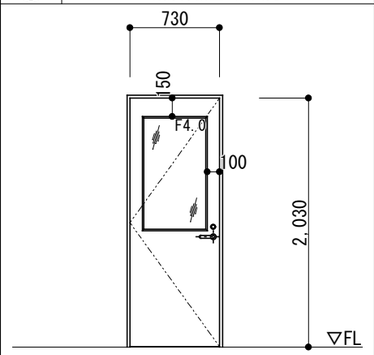
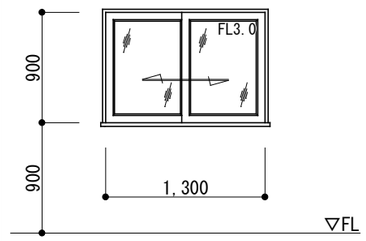
検図	担当	作成

建具表（１）

縮尺	図面番号
１：５０	Ａ－２９
１：	
１：	

記号・型式・数量	1 WD	木製引込み戸（２枚建て） １ヶ所	2 WD	木製引込み戸（２枚建て） ２ヶ所	3 WD	木製引分け戸（２枚建て） １ヶ所	4 WD	木製片開きドア １ヶ所
部位・見込		玄関～ホール 建具見込み 33mm		ホール～研修室１、研修室２ 建具見込み 33mm		研修室２～物品庫 建具見込み 33mm		ホール～物品庫 建具見込み 36mm
形状・寸法								
材種・仕上		ＬＶＬ下地組 オレフィン化粧シート合板		ＬＶＬ下地組 オレフィン化粧シート合板		ＬＶＬ下地組 オレフィン化粧シート合板		ＬＶＬ下地組 オレフィン化粧シート合板
硝子		5.0FL		4.0F		4.0F		
金物		引手、ハンガーレール、ハンガー戸車、ガイドレール、戸当り、附属金物一式		引手、ハンガーレール、ハンガー戸車、ガイドレール、戸当り、附属金物一式		引手、ハンガーレール、ハンガー戸車、ガイドレール、シリンダー鎌錠、戸当り、附属金物一式		ＳＵＳ旗丁番、シリンダー錠、レバーハンドル、床戸当り、ドアクローザー、附属金物一式
備考								アルミガラリ

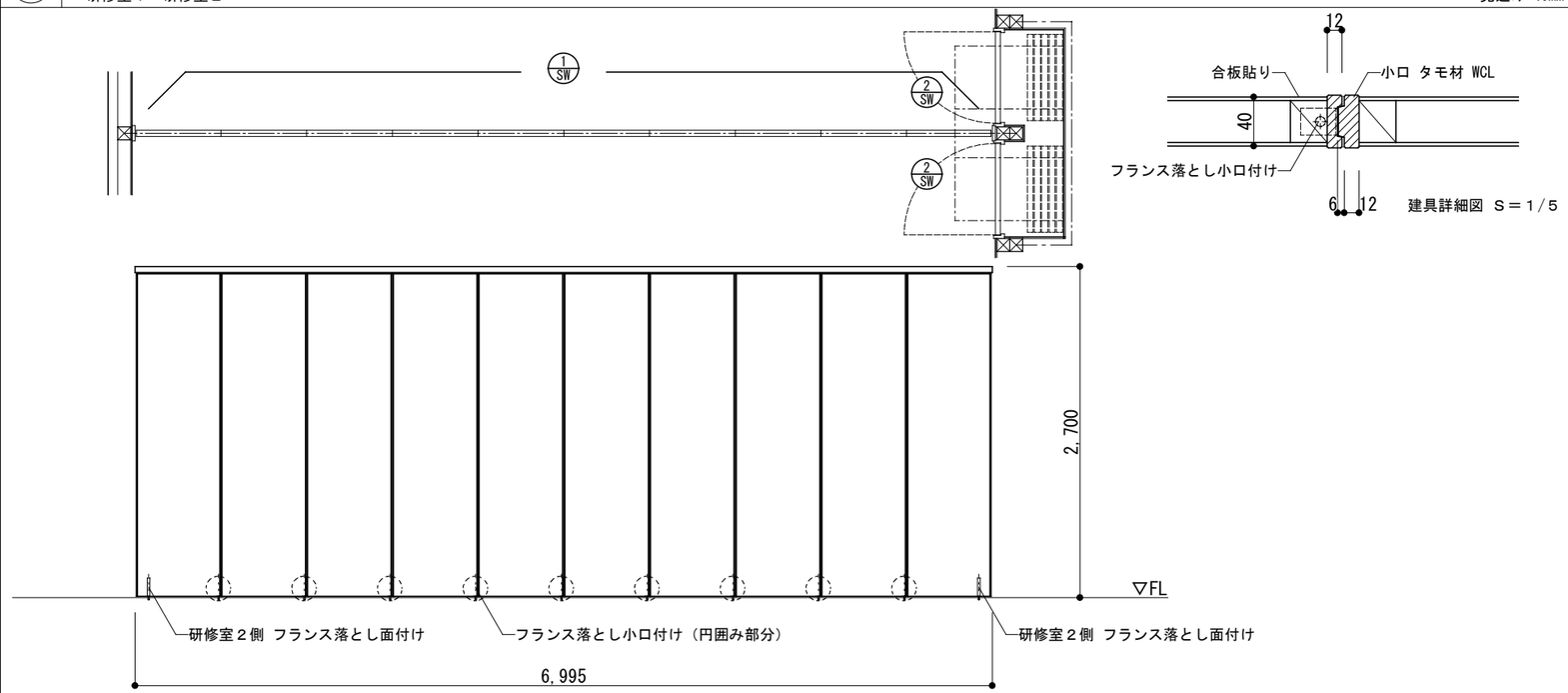
記号・型式・数量	5 WD	木製引違い戸 １ヶ所	6 WD	木製引込み戸（２枚建て） １ヶ所	7 WD	木製引込み戸（連動２枚建て） １ヶ所	8 WD	木製引込み戸 ２ヶ所	9 WD	木製引込み戸（２枚建て） １ヶ所
部位・見込		ホール～風除室 建具見込み 33mm		ホール～調理室 建具見込み 33mm		ホール～ＷＣ（多目的） 見込み 33mm		ホール～ＷＣ（男）、（女） 見込み 33mm		ホール～消防待機室 建具見込み 33mm
形状・寸法										
材種・仕上		ＬＶＬ下地組 オレフィン化粧シート合板		ＬＶＬ下地組 オレフィン化粧シート合板		ＬＶＬ下地組 オレフィン化粧シート合板		ＬＶＬ下地組 オレフィン化粧シート合板		ＬＶＬ下地組 オレフィン化粧シート合板
硝子		5.0FL		5.0FL		4.0F		4.0F		4.0F
金物		引手、ステンレスＭ型レール、防音戸車、引違い錠、附属金物一式		引手、ハンガーレール、ハンガー戸車、ガイドレール、引違い錠、シリンダー鎌錠、戸当り、附属金物一式		押棒、ハンガーレール、ハンガー戸車、ガイドレール、表示鎌錠、戸当り、附属金物一式		引手、ステンレスＭ型レール、防音戸車、戸当り、附属金物一式		引手、ステンレスＭ型レール、防音戸車、引違い錠、シリンダー鎌錠、戸当り、附属金物一式
備考				アルミガラリ				アルミガラリ		

記号・型式・数量	10 WD	木製片開きドア １ヶ所			1 WW	木製引違い窓 １ヶ所	
部位・見込		ホール～消防待機室 建具見込み 36mm				消防待機室 建具見込み 30mm	
形状・寸法							凡例 FL5.0 ― フロートガラス 5.0mm F4.0 ― 型板ガラス 4.0mm
材種・仕上		ＬＶＬ下地組 オレフィン化粧シート合板				ＬＶＬ下地組 オレフィン化粧シート合板	
硝子		4.0F				3.0FL	
金物		ＳＵＳ旗丁番、シリンダー錠、レバーハンドル、床戸当り、ドアクローザー、附属金物一式				引手、ステンレスＭ型レール、防音戸車、クレセント錠、附属金物一式	
備考							

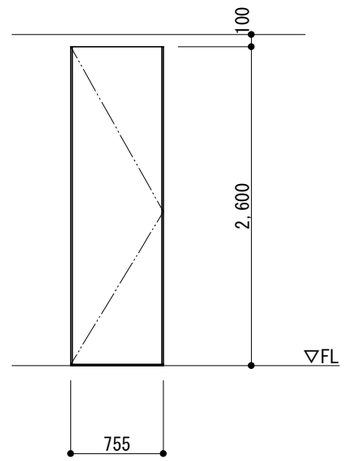
関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	建具表（２）	縮尺 １：３０ / １： / １：	図面番号 Ａ－３０

記号・型式・数量	1 SW	木製スライディングウォール	1ヶ所	2 SW	木製スライディングウォール収納扉	2ヶ所
部位・見込		研修室１～研修室２	見込み 40mm		研修室１、研修室２	見込み 40mm

形状・寸法



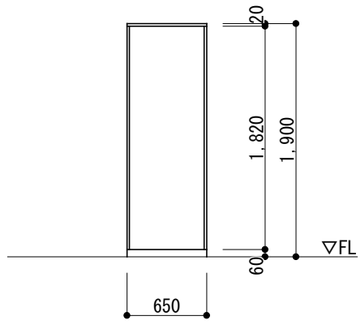
建具詳細図 S＝1/5

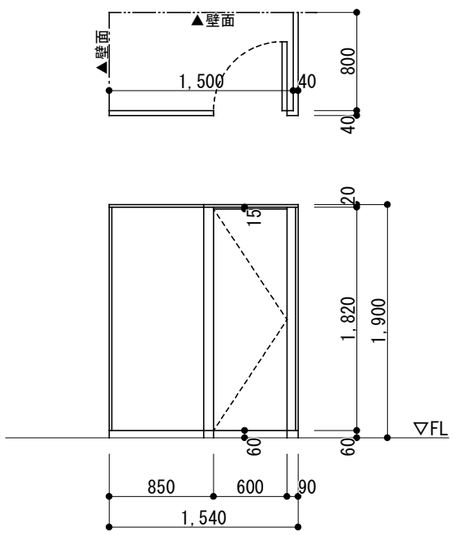


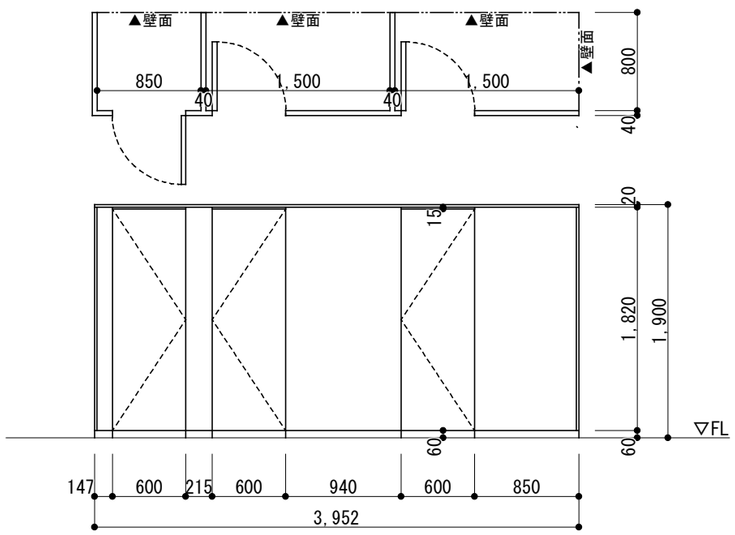
材種・仕上	t4.0 シナ合板張り、ビニールクロス貼り（両面）	t4.0 シナ合板張り、ビニールクロス貼り（両面）
硝子		
金物	丁番、フランス落し、スライディングウォール金物一式（吊りレール含む）	丁番、ケースハンドル錠、戸当り
備考		

記号・型式・数量	1 TB	トイレブース	1ヶ所	2 TB	トイレブース	1ヶ所	3 TB	トイレブース	1ヶ所
部位・見込		ＷＣ(男)	見込み 40mm		ＷＣ(男)	見込み 40mm		ＷＣ(女)	見込み 40mm

形状・寸法







材種・仕上	メラミン化粧板貼	メラミン化粧板貼	メラミン化粧板貼
硝子			
金物	ＳＵＳ巾木、ＳＵＳ笠木、小口金物一式	ラバトリーヒンジ、帽子掛けフック、ＳＵＳ巾木、 ＳＵＳ笠木、表示付スライドラッチ、小口金物一式	ラバトリーヒンジ、帽子掛けフック、ＳＵＳ巾木、 ＳＵＳ笠木、表示付スライドラッチ、小口金物一式
備考			

関内地区地域会館新築工事（建築主体）

株式会社 建築設計工房ロゴス
１級建築士事務所 登録 （渡）第 156号
１級建築士登録 第265505号 前田 健二

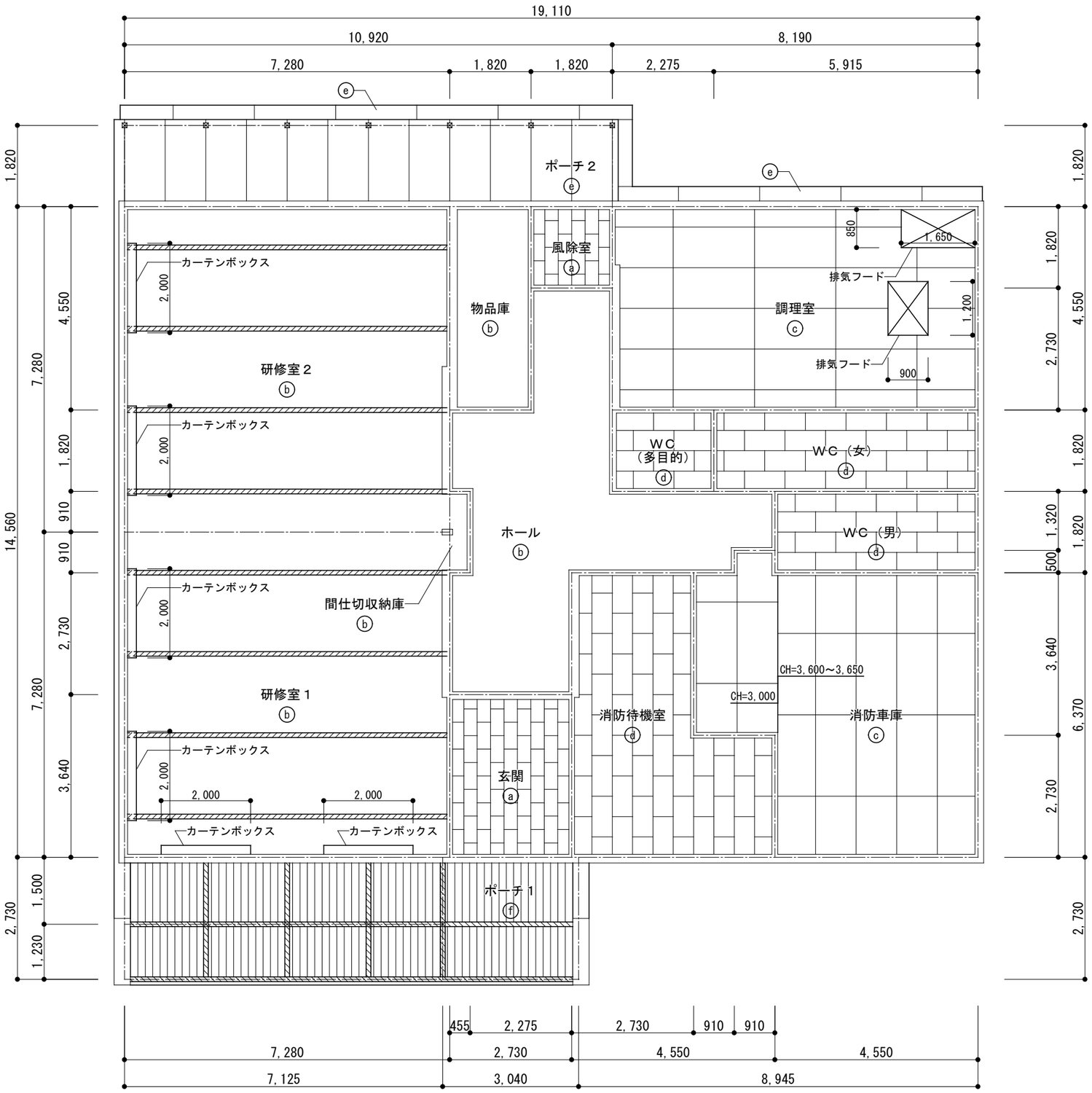
特記事項

訂正事項

検図	担当	作成

建具表（３）

縮尺	図面番号
１：５０	Ａ－３１
１：	
１：	



天井伏図 S=1:100

符号	仕　上
ⓐ	t12ロックウール吸音板
ⓑ	ビニルクロス
ⓒ	t4.0カラーフレキシブルボード
ⓓ	t9.5化粧石膏ボード
ⓔ	t12軒天ボード(塗装品、一部有孔板)
ⓕ	t18木質系サイディング(杉材、木材防腐塗装)
	梁型現し(水性ステイン塗り)
	梁型現し(木材保護塗料塗り)
	※廻縁は塩化ビニル製とする。但し、外部軒天井部はアルミ製とする。
⊠	天井点検口(アルミ製、450角、4箇所(取付位置は現場打合せとする))

関内地区地域会館新築工事（建築主体）

株式会社 建築設計工房ロゴス
１級建築士事務所 登録 （渡）第 156号
１級建築士登録 第265505号 前田 健二

特記事項

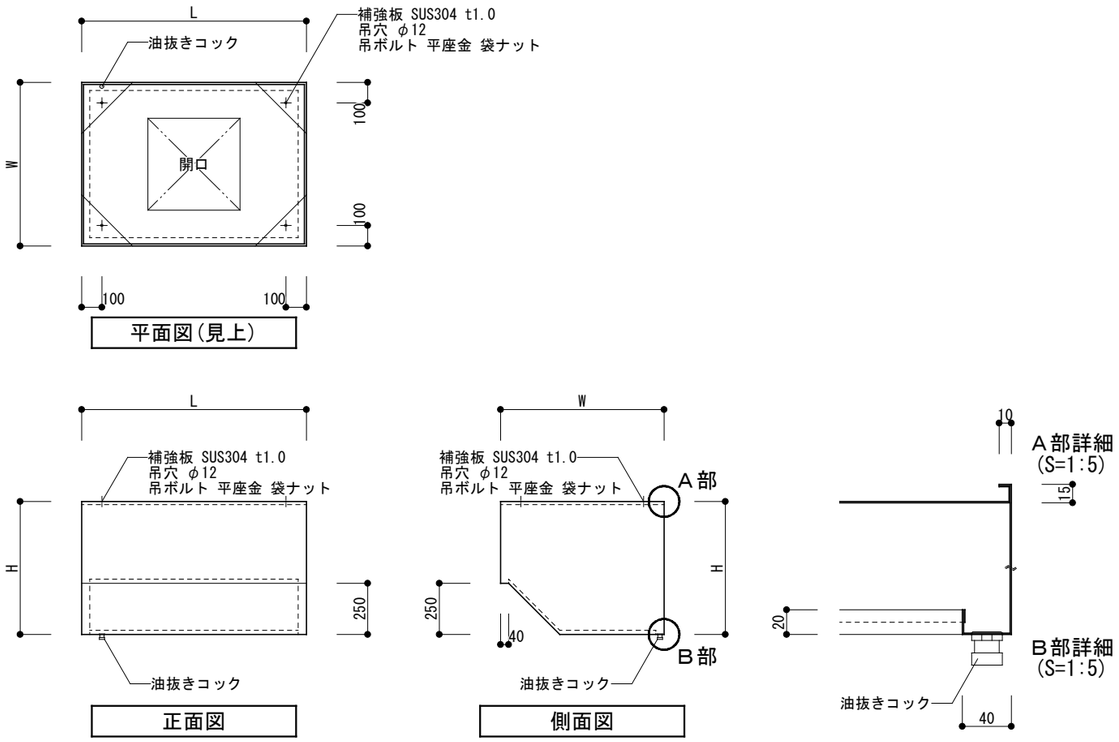
訂正事項

検図	担当	作成

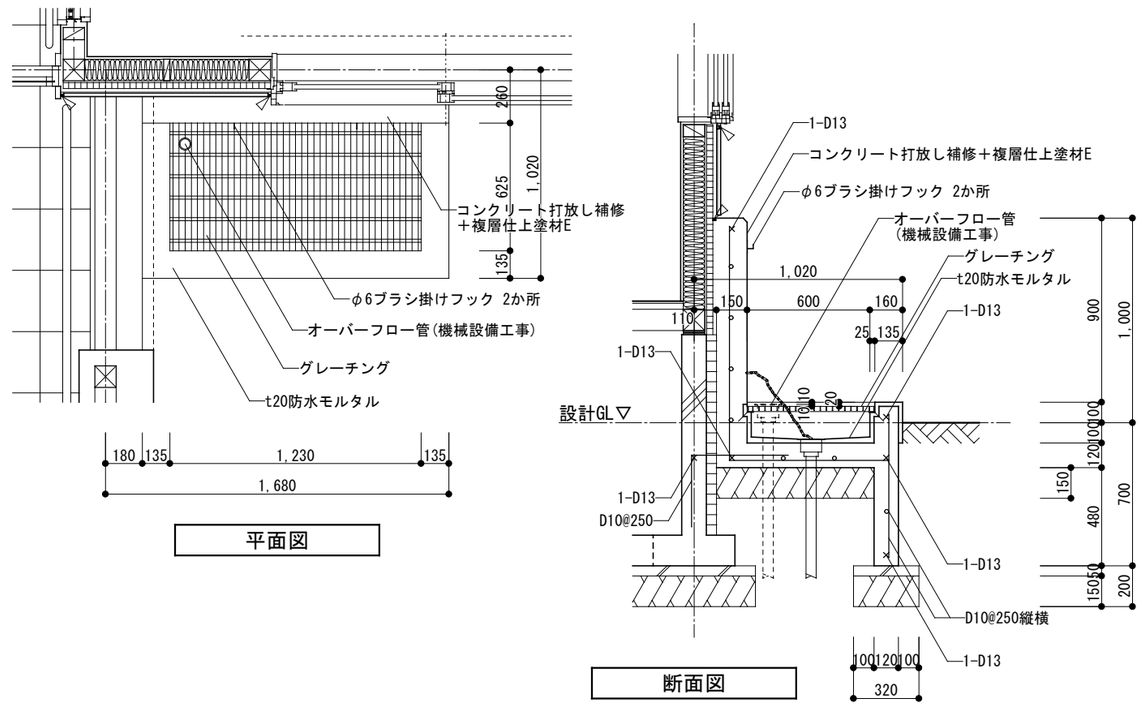
天井伏図

縮尺	図面番号
1：100	A－32
1：	
1：	

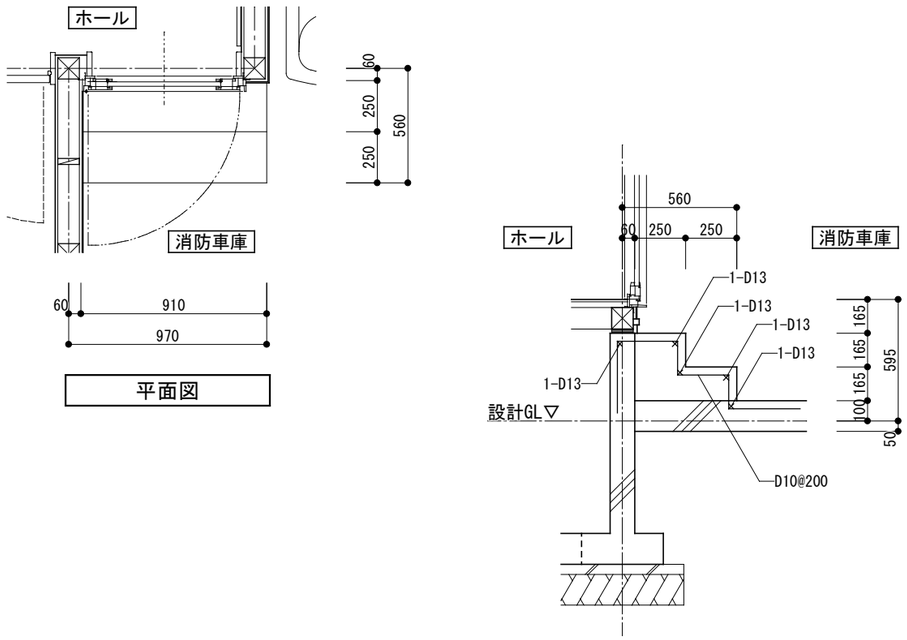
排気フード詳細図　S=1:30



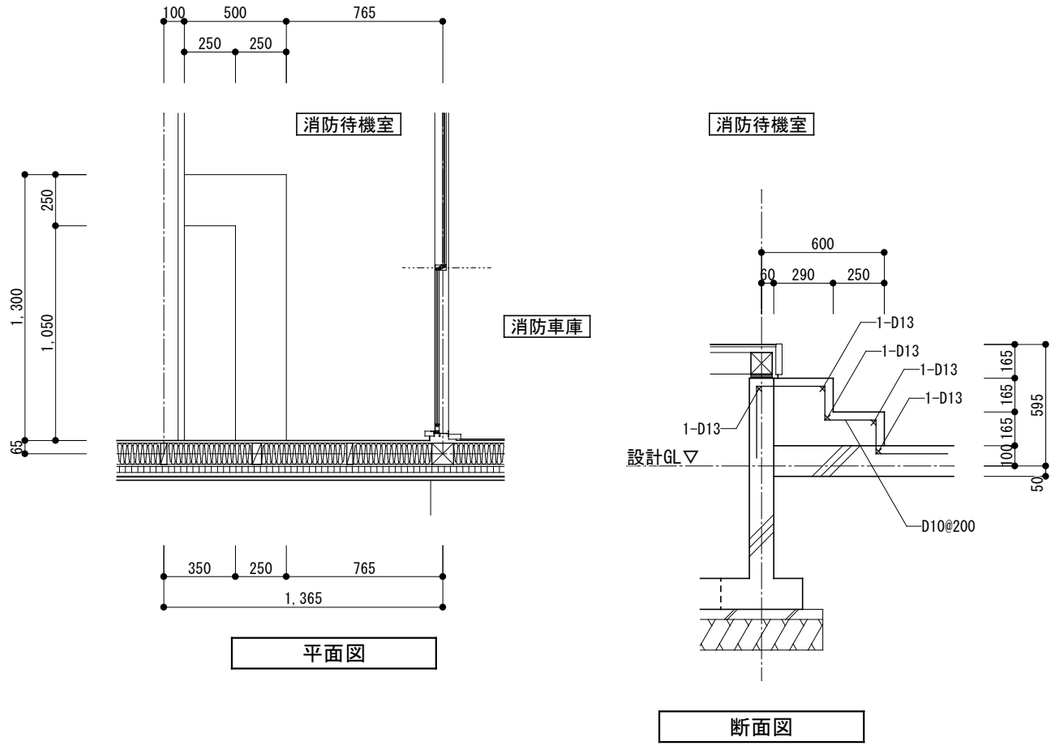
足洗場詳細図　S=1:30



階段（消防車庫）詳細図　S=1:30



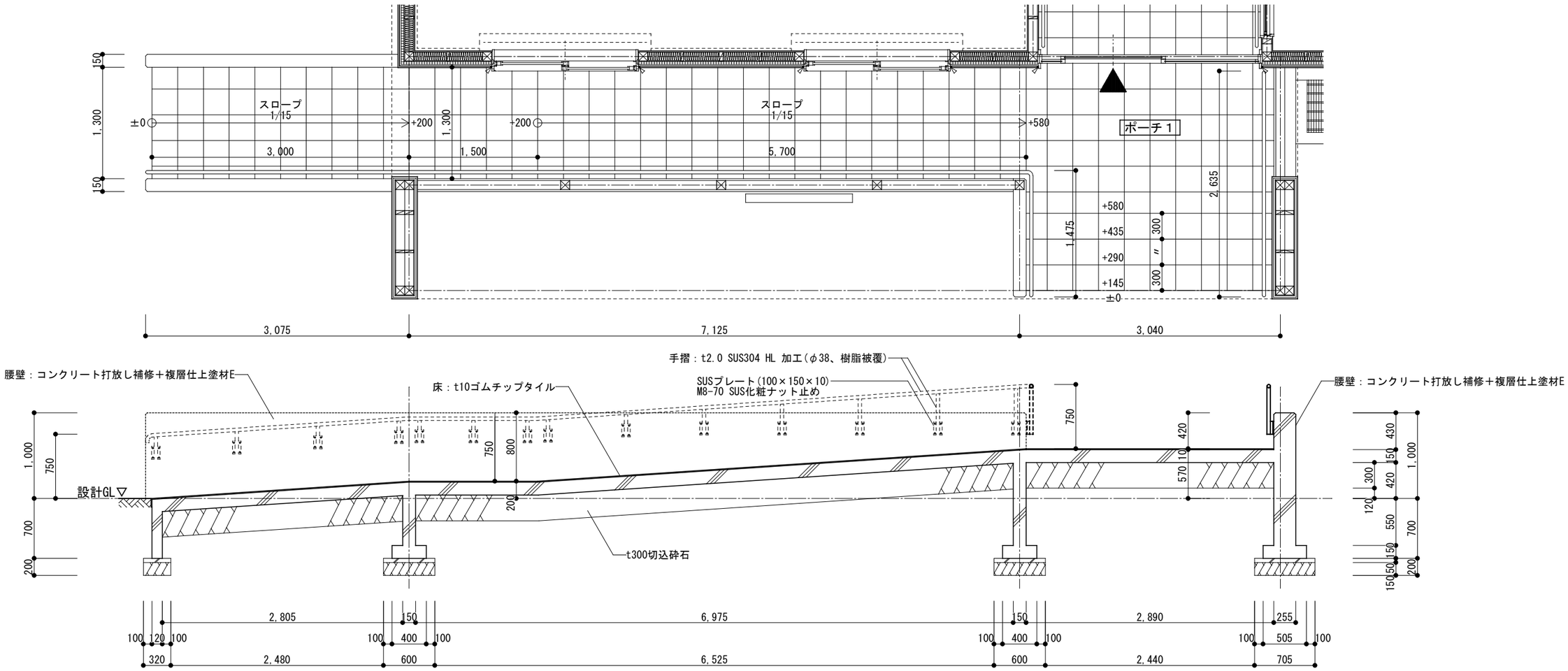
階段（消防待機室）詳細図　S=1:30



関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	部分詳細図（１）	縮尺 １：３０ １： １：	図面番号 Ａ－３３

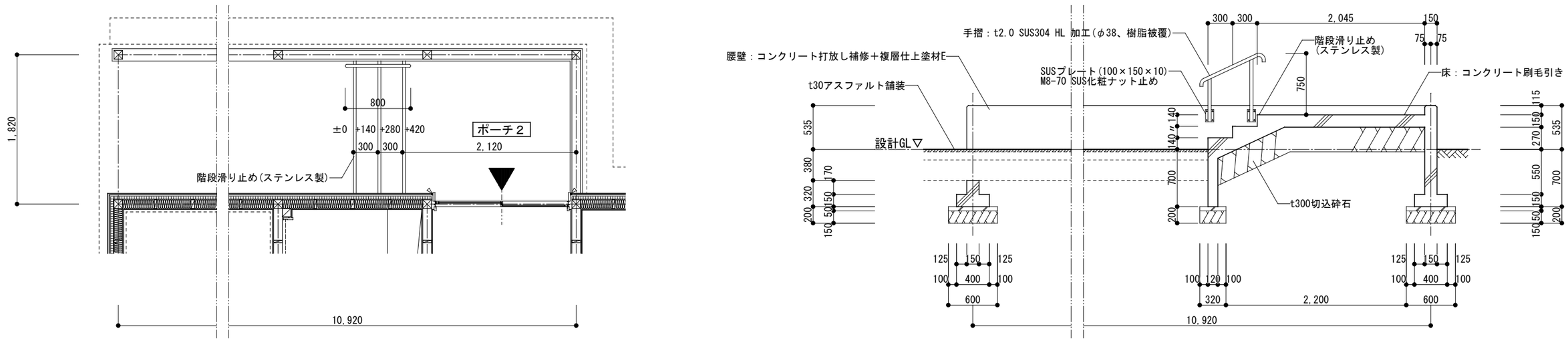
スロープ詳細図

S=1:50

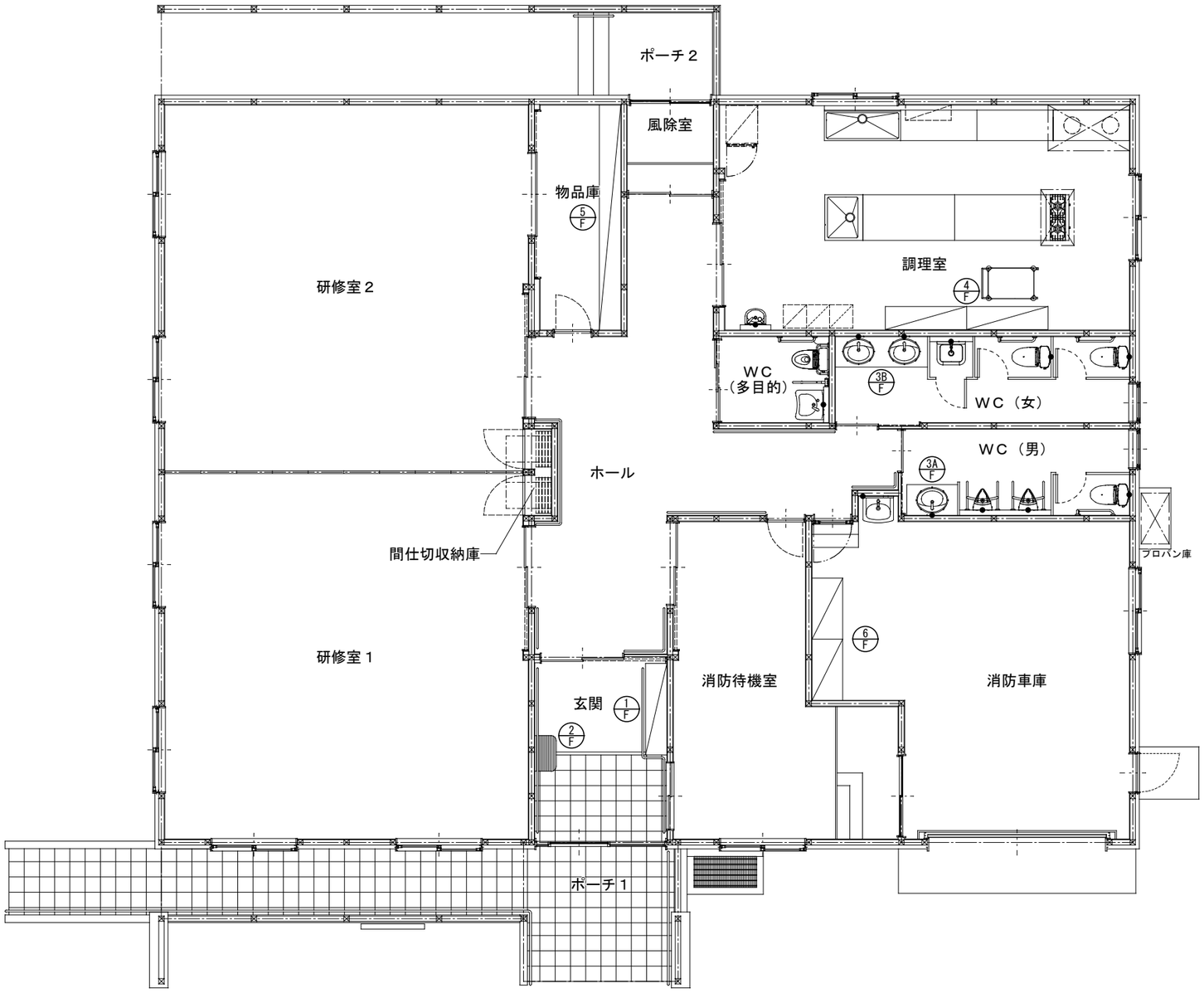


アーチウェイアプローチ詳細図

S=1:50



関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	部分詳細図（２）	縮尺 １：５０ １： １：	図面番号 Ａ－３４

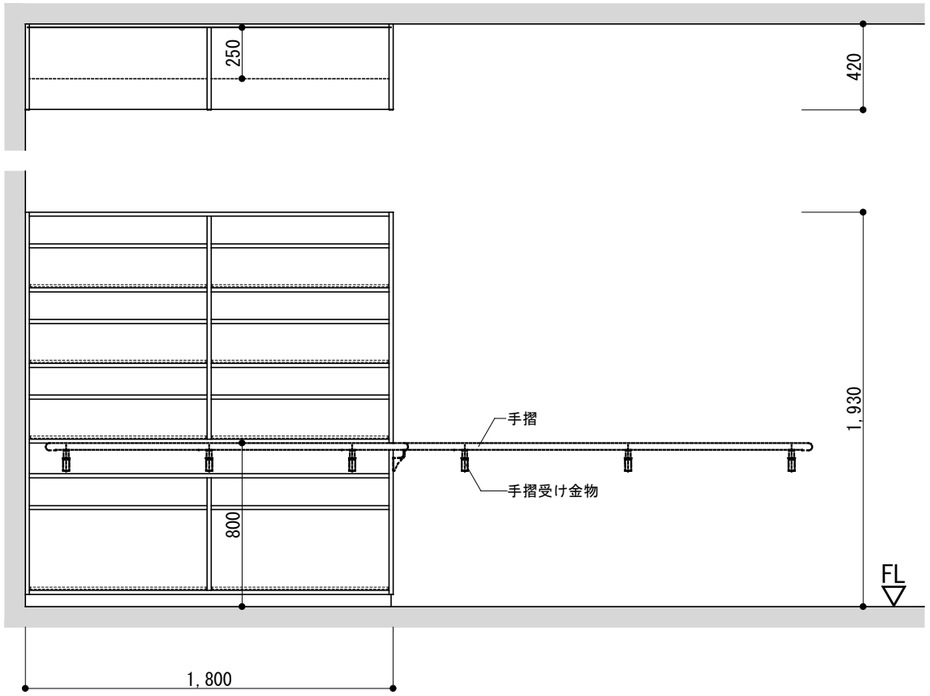


家具配置図　Ｓ＝１：１００

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録　第265505号　前田　健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	家具配置図	縮尺 １：１００ １： １：	図面番号 Ａ－３５

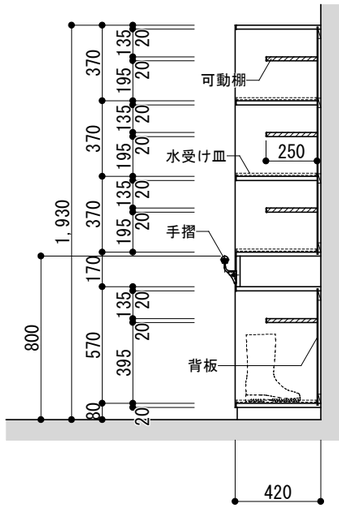
家具符号	Ｆ－１　下足棚（玄関）

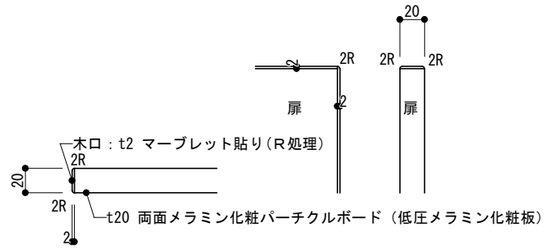
建具姿図



仕様

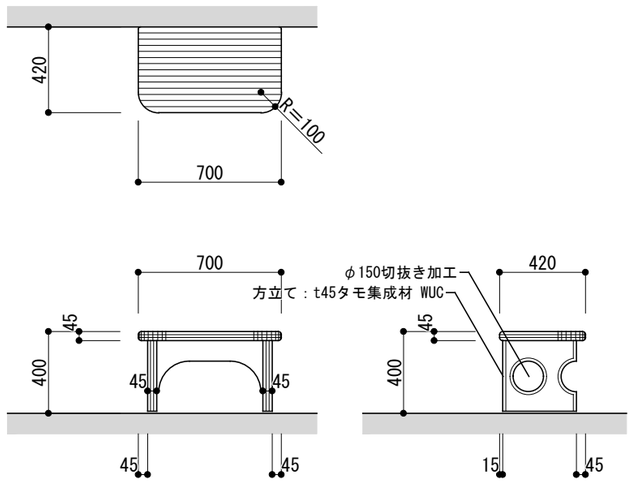
本　　体　：　t20 両面メラミン化粧パーチクルボード（低圧メラミン化粧板）大昭和ユニボード同等品
木　　口　：　t2 マーブレット貼り（Ｒ処理）パネフリ工業同等品
可動棚板　：　脱着式 t20 両面メラミン化粧パーチクルボード（低圧メラミン化粧板）大昭和ユニボード同等品
背　　板　：　t2.7 ポリ合板
巾　　木　：　ランバー下地、同系色メラミン化粧板貼り
手　　摺　：　樹脂被覆 34φ　／　手摺受け金物　：　アルミニウム押出形材
水受け皿　：　H＝15 t0.6 SUS304



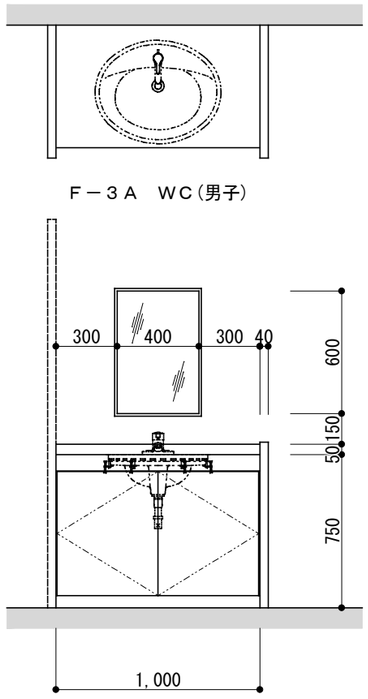


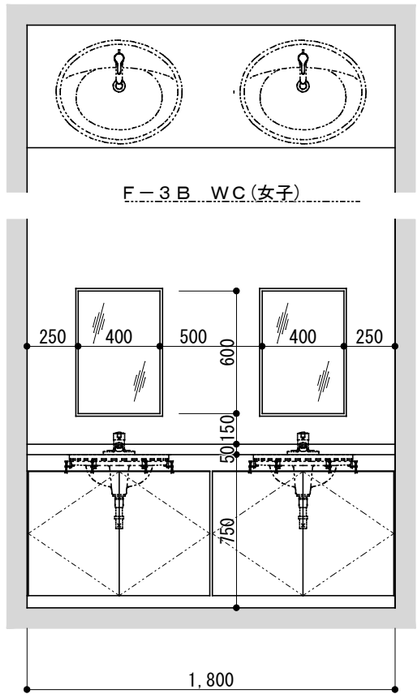
建具符号	Ｆ－２　可動ベンチ（玄関）	Ｆ－３Ａ　手洗いカウンター　ＷＣ（男子）　／　Ｆ－３Ｂ　手洗いカウンター　ＷＣ（女子）

建具姿図



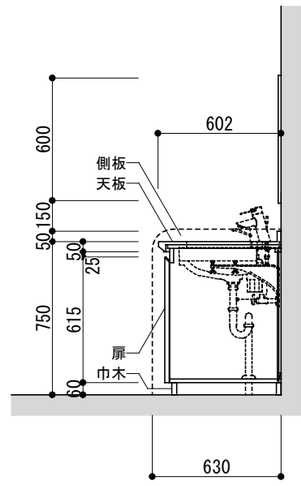
※　出隅部分は全てＲ面取り＝15mm
※　Ｈ寸法は、打合せにて最終確認を行う。
※　置き型家具は不陸調整金物付とする。





仕様

天　板　：　マーベリーナカウンター　CB-601同等品
扉　　：　合板フラッシュ　メラミン化粧板貼り
　　上小口ナラ材ＷＣＬ、他小口メラミン
巾　木　：　メラミン化粧板貼り
側　板　：　メラミン化粧板貼り（Ｆ－３Ａのみ）
金　物　：　スライド丁番、マグネットキャッチ
鏡　　：　t3.0鏡　／　SUSフレーム 10×10 HL
※　陶器ボウル、水栓等（設備工事）



関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社　建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録　第265505号　前田　健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	家具詳細図（１）	縮尺 1：30	図面番号 Ａ－３６

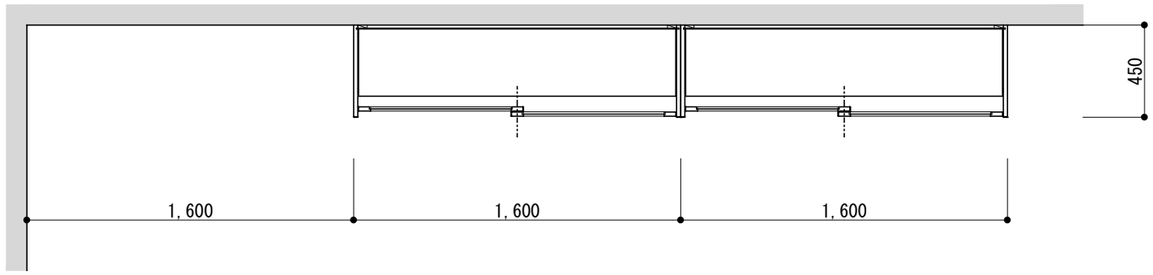
家具符号	Ｆ－４　食器棚（調理室）

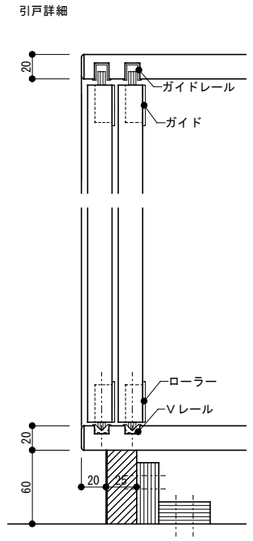
仕様

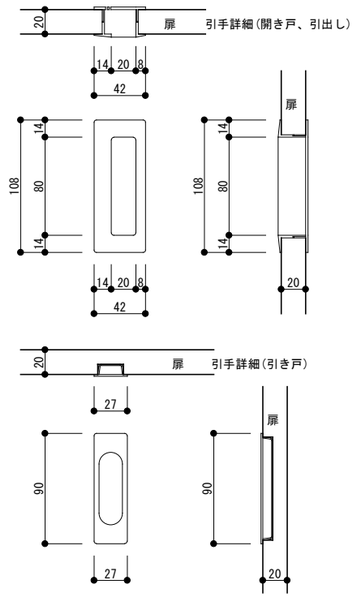
本　体　：　t20 両面メラミン化粧パーチクルボード（低圧メラミン化粧板）大昭和ユニボード同等品
木　口　：　t2 マーブレット貼り(Ｒ処理）パネフリ工業同等品
引違戸　：　メクラ戸　t20 両面メラミン化粧パーチクルボード（低圧メラミン化粧板）大昭和ユニボード同等品
ガラス戸　戸枠　t20 両面メラミン化粧パーチクルボード（低圧メラミン化粧板）大昭和ユニボード同等品
硝子　t3.0 フロートガラス、樹脂成型材押え縁
引出し前板　：　t20 両面メラミン化粧パーチクルボード（低圧メラミン化粧板）大昭和ユニボード同等品
引出し側板　：　t15 シナランバーコア　　底板　：t　4.0 シナ合板
可動棚板　：　t20 両面メラミン化粧パーチクルボード（低圧メラミン化粧板）大昭和ユニボード同等品
背　　板　：　t2.7 ポリ合板
巾木・台輪　：　ランバー下地、同系色メラミン化粧板貼り

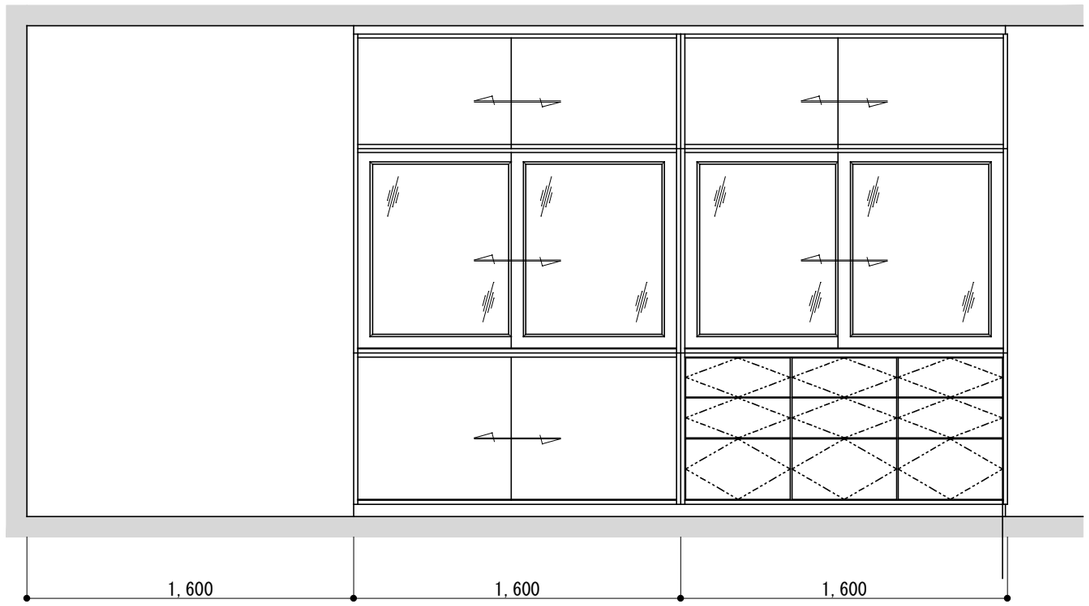
金　　物　：　引出しスライドレール（ベアリングボール付き全だしレール）L＝400
引手、アルミＶ型レール
棚ダボレール、棚ダボ 8φ

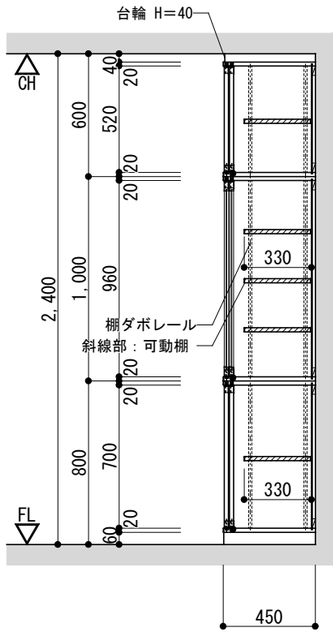
建具姿図

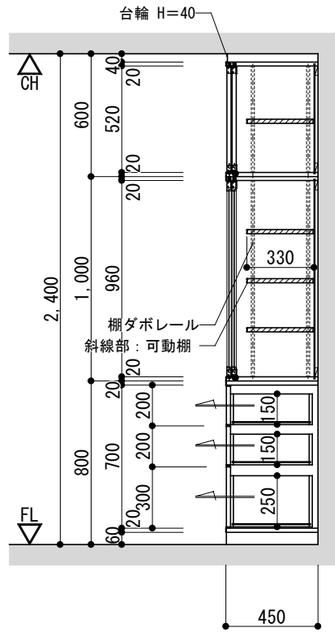












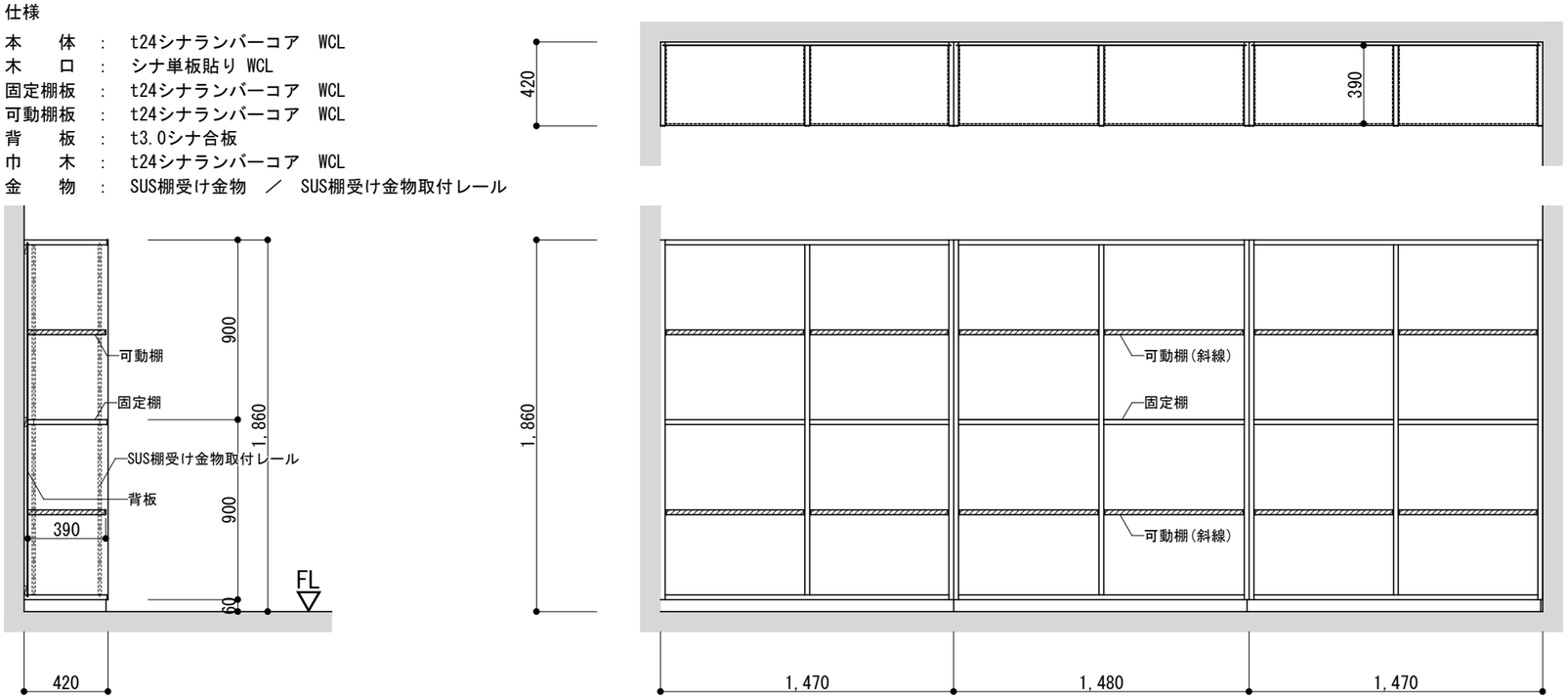
関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録　第265505号　前田　健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	家具詳細図（２）	縮尺 １：３０ １： １：	図面番号 Ａ－３７

家具符号	Ｆ－５　収納棚（物品庫）

建具姿図

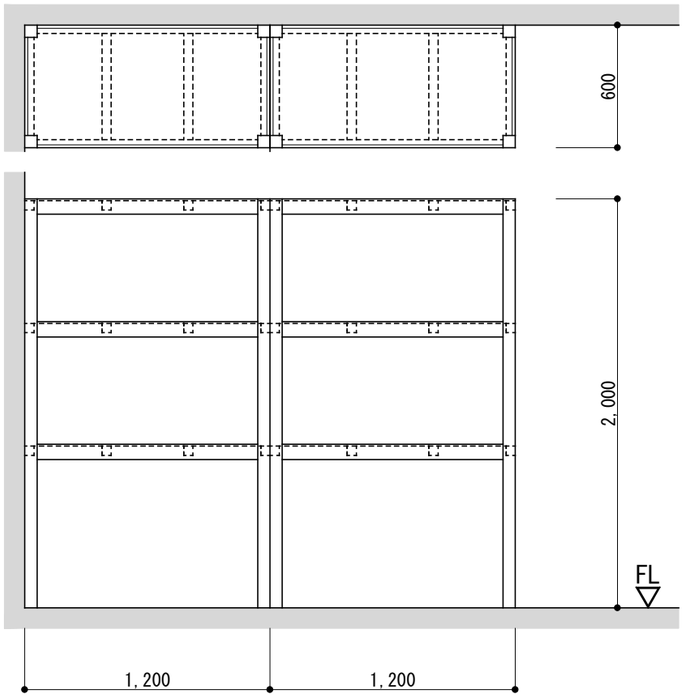
仕様

本　　体	：	t24シナランバーコア　WCL
木　　口	：	シナ単板貼り WCL
固定棚板	：	t24シナランバーコア　WCL
可動棚板	：	t24シナランバーコア　WCL
背　　板	：	t3.0シナ合板
巾　　木	：	t24シナランバーコア　WCL
金　　物	：	SUS棚受け金物　／　SUS棚受け金物取付レール



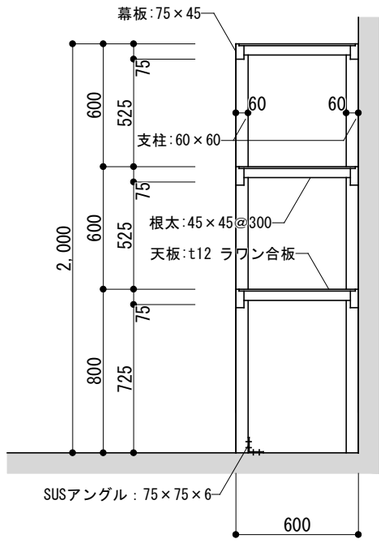
建具符号	Ｆ－６　収納棚（消防車庫）

建具姿図



仕様

支　柱	：	松材（こぶし程度）60×60
幕　板	：	松材（こぶし程度）75×45
根　太	：	松材（こぶし程度）45×45 @450
天　板	：	t12 ラワン合板

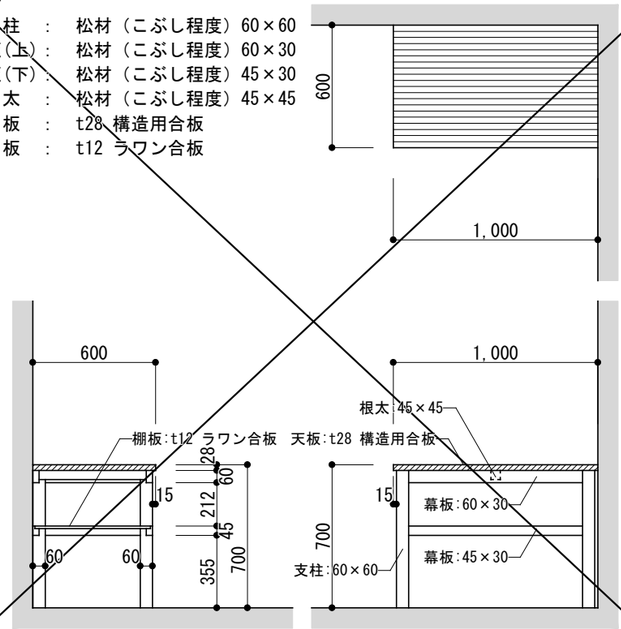


建具符号	Ｆ－７　作業台（消防車庫）

建具姿図

仕様

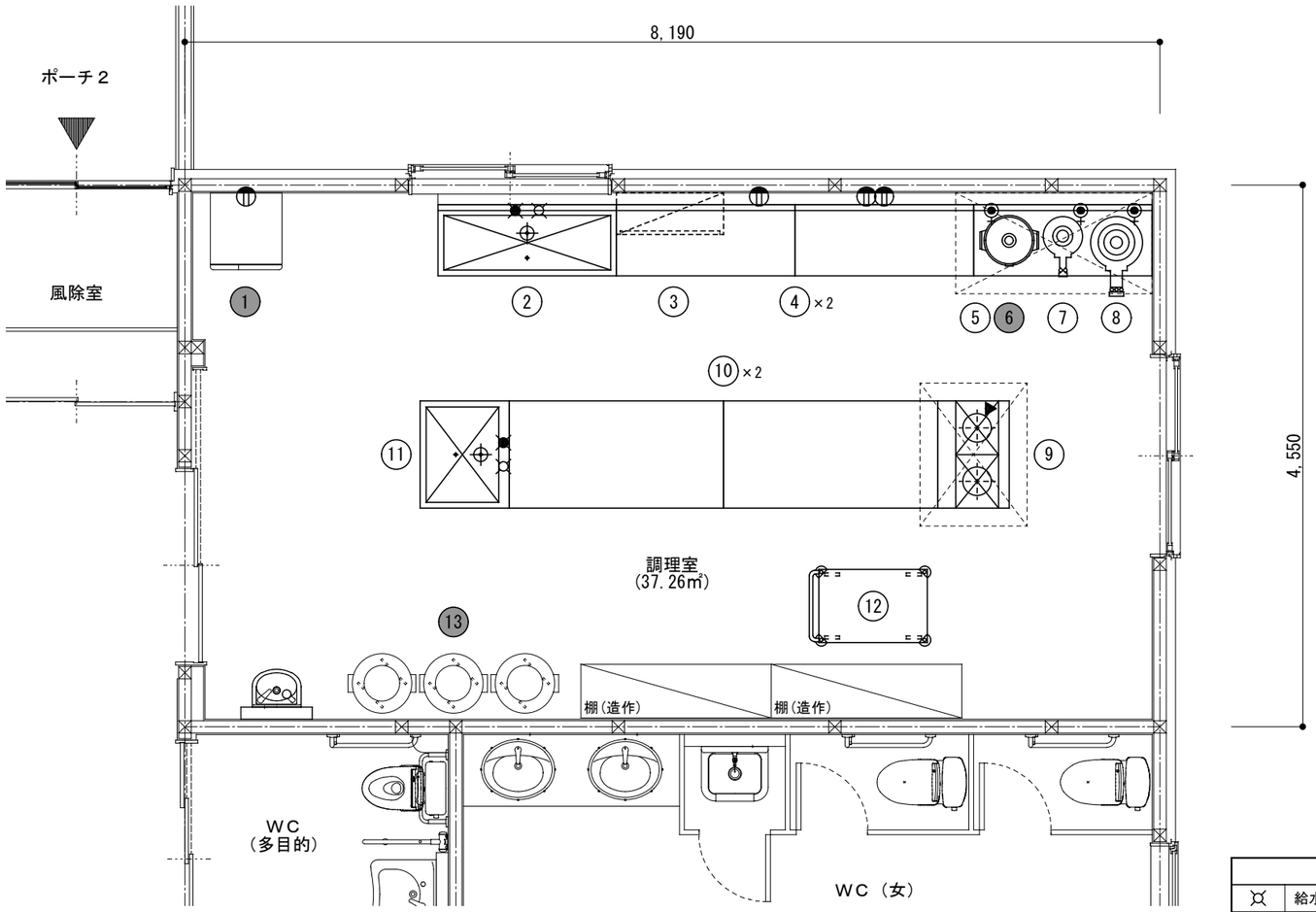
支　柱	：	松材（こぶし程度）60×60
幕板(上)	：	松材（こぶし程度）60×30
幕板(下)	：	松材（こぶし程度）45×30
根　太	：	松材（こぶし程度）45×45
天　板	：	t28 構造用合板
棚　板	：	t12 ラワン合板



関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社　建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録　第265505号　前田　健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	家具詳細図（３）	縮尺 １：３０ １： １：	図面番号 Ａ－３８

厨房機器表

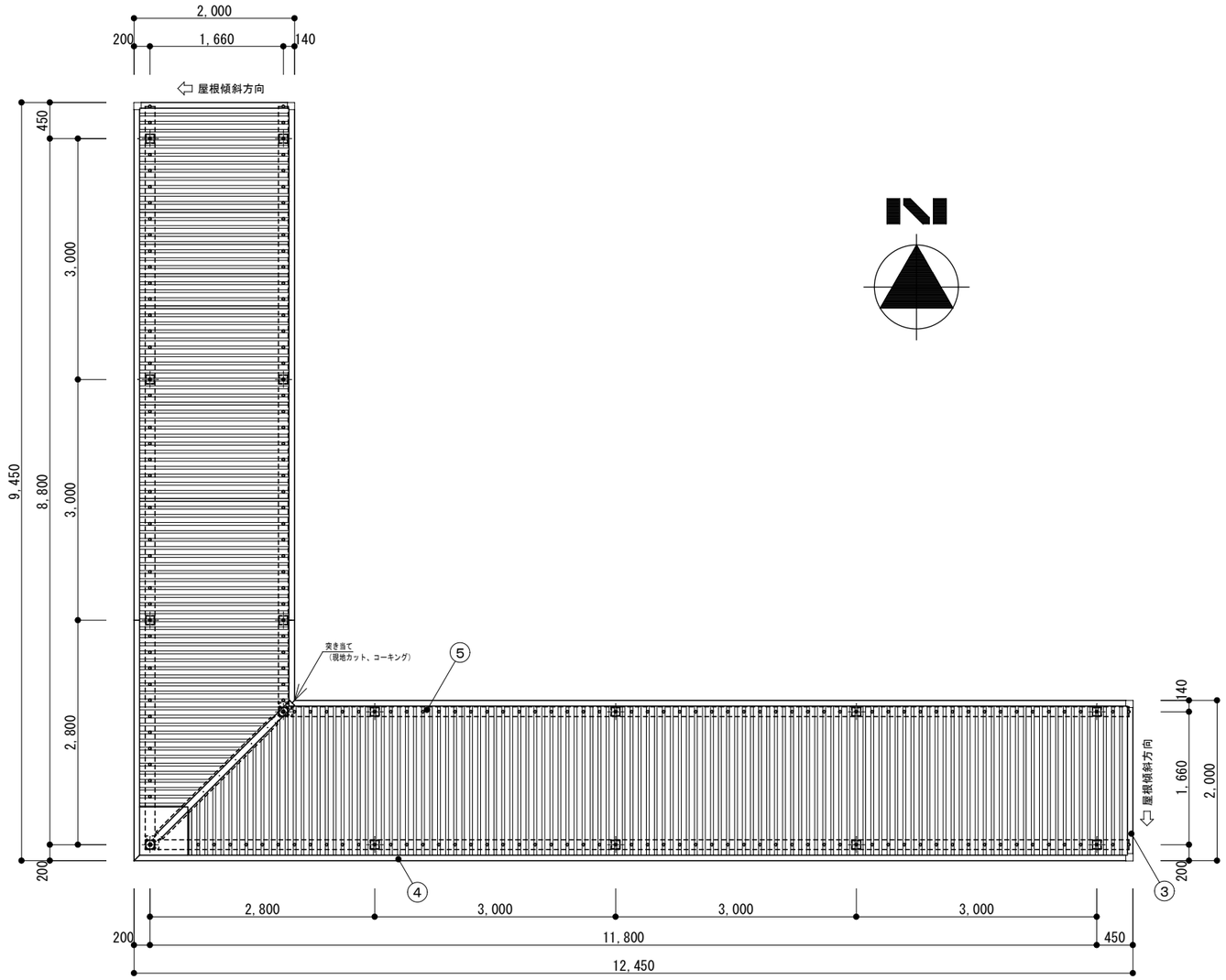
セクション	No.	品名	MODEL	寸法(mm) 間口	寸法(mm) 奥行	寸法(mm) 高さ	台数	配管口径(A) 給水	配管口径(A) 給湯	配管口径(A) 排水	ガス 口径(A)	ガス 消費熱量(kW)(kcal/h)	蒸気 給気(A)	蒸気 排気(A)	蒸気 消費量(Kg/h)	電気 1φ100V(kW)	電気 1φ200V(kW)	電気 3φ200V(kW)	冷却水( ) 入口径(A)	冷却水( ) 出口径(A)	冷却水( ) 消費量(L/h)	フード	備考
	1	家庭用冷蔵庫		(600)	(650)	(1800)	1									0.5							【備品】
	2	一槽シンク	FS1560	1500	600	850	1	15	15	50													
	3	吊戸棚	FHC0935	900	350	620	1																
	4	台	FTP1560	1500	600	850	2																
	5	コンロ台		1500	600	450	1																
	6	ガス炊飯器	RR-300C	492	423	426	1				15	5.52 (4750)										○	【備品】
	7	鋳物コンロ	TS-210	330	505	115	1				15	6.92 (5950)										G	
	8	鋳物コンロ	TS-330	435	670	160	1				15	16.55 (14230)										G	
	9	ガステーブル	(FGTNS096020)	900	600	850	1				20	28.00 (24000)										G	バックガード無し
	10	台	FTPA1890	1800	900	850	2																
	11	一槽シンク	FS0975	900	750	850	1	15	15	50													
	12	移動台	NUTS4	991	614	923	1																
	13	ゴミ箱																					【備品】
		予備容量														1.5×3							
		設備容量合計										56.99 (48930)				5							



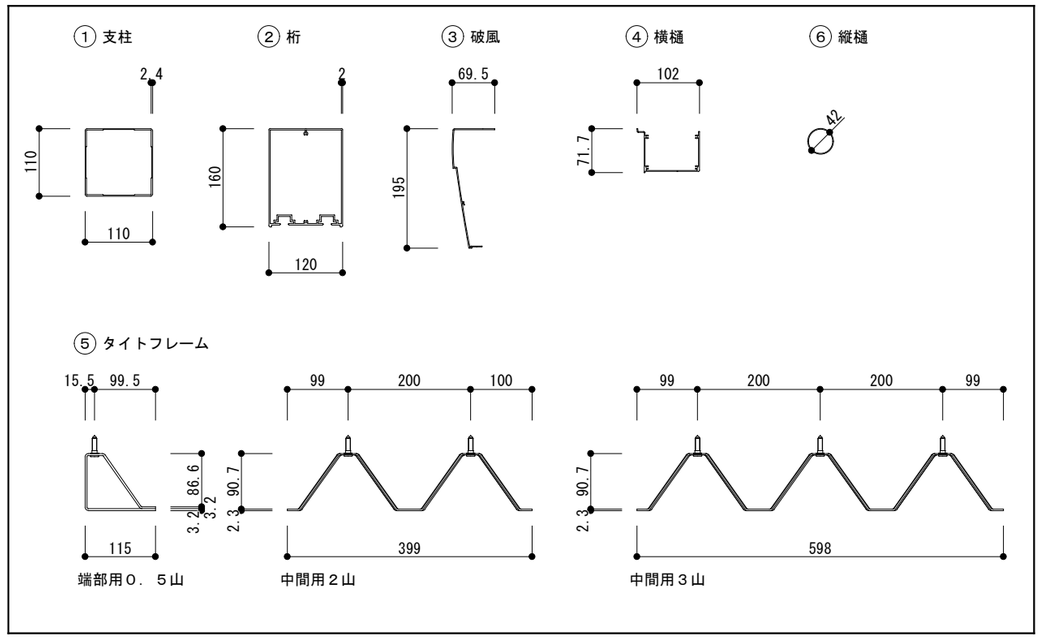
厨房機器配置図 S=1:50

凡例							
	給水		ガス		1φ100V		フード
	給湯		ガス				
	排水						

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	厨房機器配置図・機器表	縮尺 1：50 / 1： / 1：	図面番号 A－39

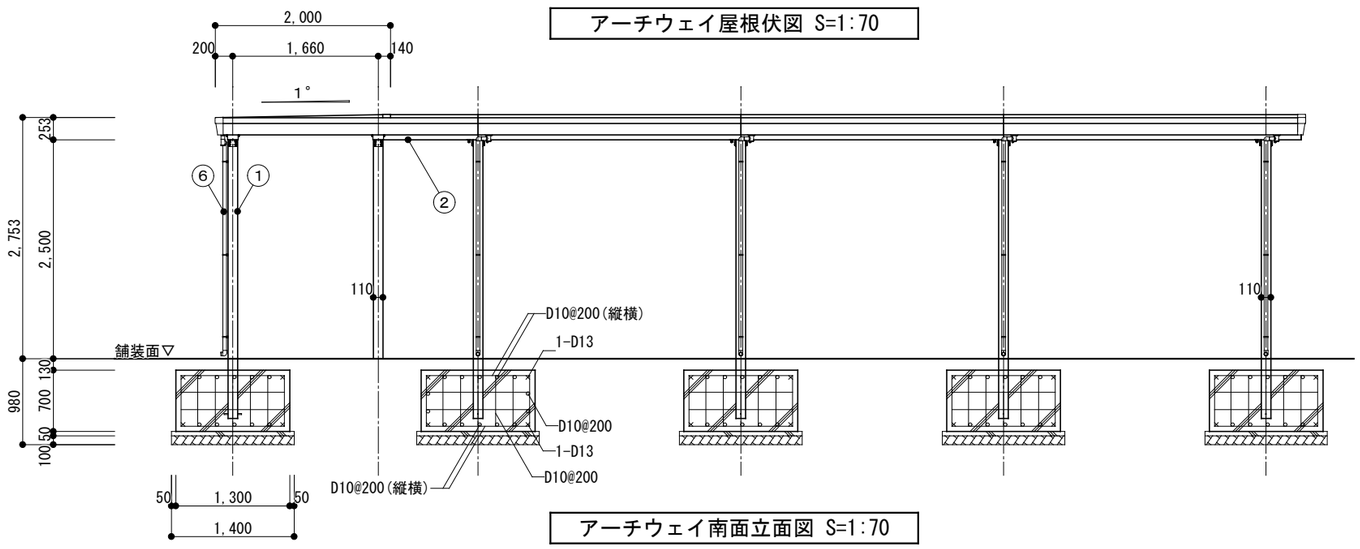


アーチウェイ屋根伏図 S=1:70



主要部材断面図 S=1:10

主要部材	仕様（材質・塗装）	
① 支柱	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜	
② 桁	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜	
③ 破風	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜	
④ 横樋	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜	
⑤ タイトフレーム	ＺＡＭ	端部用０．５山
		中間用２山
		中間用３山
⑥ 縦樋	アルミ押出形材 陽極酸化・塗装複合皮膜	
屋根材	８８折板	
ボルト類	ステンレス	

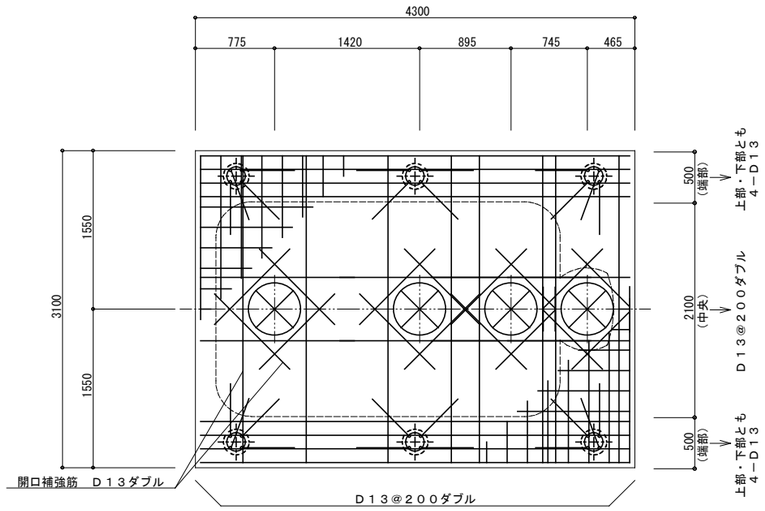


アーチウェイ南面立面図 S=1:70

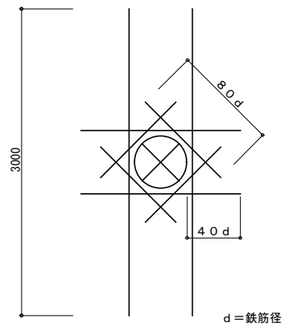
関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	アーチウェイ詳細図	縮尺 １：７０ １：１０ １：	図面番号 Ａ－４０

一　般　事　項	
コンクリート	Ｆｃ＝２１Ｎ／ｍｍ２
鉄　　筋	ＳＤ２９５Ａ
鉄筋かぶり	スラブ　４０
	ベース　６０
定着及継手	４０ｄ
地　　業	砕石又はＲＣ　４０～０

注１）上部はＴ－６荷重とする。
注２）図中の”Ｇ．Ｌ”は浄化槽位置での仕上げレベルを示す。
注３）地耐力は６０ＫＮ／ｍ２以上必要とする。
　　（実際の工事業者が確認後施工の事）
注４）現状嵩上げ高さ：２９０mm、最大嵩上げ高さ：３００mmまで

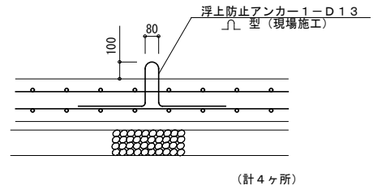


スラブ配筋図　Ｓ＝１：６０

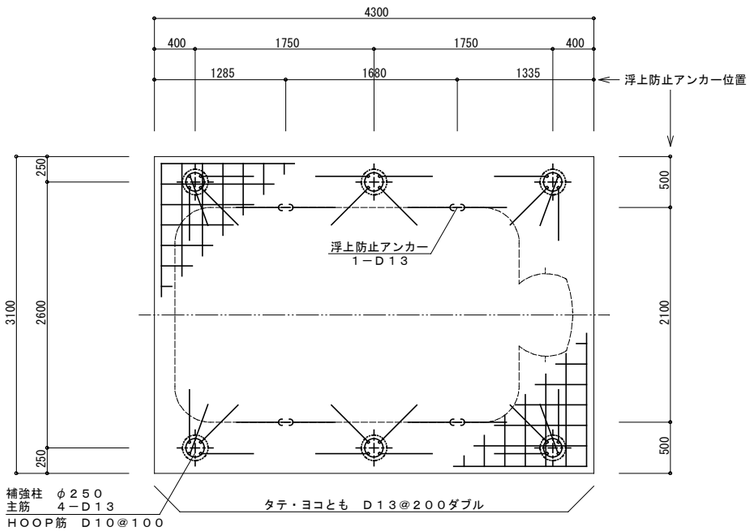


開口補強筋詳細図

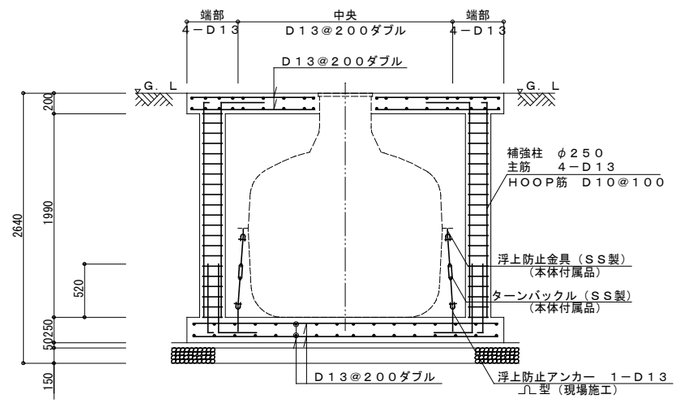
（ダイヤモンド補強：Ｄ１３ダブル）



浮上防止アンカー詳細図　Ｓ＝１：３０



ベース配筋図　Ｓ＝１：６０



断面配筋図　Ｓ＝１：６０

浄化槽詳細図　S=1:60

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社　建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録　第265505号　前田　健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	浄化槽詳細図	縮尺 １：６０ １： １：	図面番号 Ａ－４１

構　造　特　記　仕　様　書

1．適用範囲

（1）図面及びこの特記仕様書に記載されていない事項は、全て建設大臣官房官庁営繕部監修「建築工事共通仕様書」（最新版）による。

（2）以下の表中の取扱については次による。

1）章は ▽、項目は ▷を塗りつぶしたものが該当する。

2）特記事項は○印を塗りつぶしたものが該当し、塗りつぶしのない場合は＊印を付けたものが該当する。

3）特記事項で●印と＊印の両方が付けられている場合は共に該当する。

2．設計用積載荷重

階	用　途	積載荷重〔N／㎡〕 床・小梁	柱・大梁・基礎	地　震	備　考
R					
～					
1					

章	項　目	特　記　事　項
1 一般事項	1．増築予定	●無 ○有 増築予定概要：
	2．監督職員の立会検査及び試験	（1）監督職員の立会検査及び試験等は原則として下表による。

	項　目	該当	備　考
地業	杭芯検査	○	
	試験杭	○	杭先端部土質の確認
	杭鉛直載荷試験	○	極限荷重、沈下量確認
	杭水平載荷試験	○	
	試験堀	○	根切底土質の確認
	砂利地業厚さ寸法の確認	○	
	ラップルコンクリート打設	○	
コンクリート	試練り	○	
	打設時品質確認	●	塩化物量・スランプ・空気量等
	強度試験	●	材令２８日強度の確認
型枠	型枠検査	●	
鉄筋	材料試験	○	
	圧接部超音波探傷試験	○	
	配筋検査	●	
	引張試験	○	鉄筋を溶接する場合
鉄骨	現寸検査	○	注）１
	製品検査	○	
	建入検査	○	
	高力ボルト本締検査	○	
	現場溶接部の超音波探傷試験	○	
木造	伏図・軸組図検査	●	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ・HD金物･その他金物
	建入検査	●	大断面部材の組立
	組立後のレベル検査	○	２階合板張り後

注）１．ＣＡＤにより全ての鉄骨工作図を作成し、そのデータを用いる自動加工装置により全部材を加工する場合には、監督職員との協議により検査を省略することができる。

（2）表中の検査及び試験等については、実施項目、要領等の記載された計画書等を作成し、事前に監督職員へ提出して承諾を得ること。

（3）表中に記載のない検査及び試験項目については、監督職員が必要と判断して施工者との協議により検査及び試験の実施を決定した場合表中に記載されているものと同等の取扱とする。

（4）監督職員の立会検査の実施に際しては、施工者による自主検査が完了していることを原則とする。

（5）検査及び試験結果報告書には記録カラー写真（デジタルカメラ可）を添付すること。

（6）記録写真撮影にデジタルカメラを使用する場合には、添付写真のほかＪＰＧ又はＧＩＦ形式の画像データ（フルカラー）を提出すること。

2 地業工事

1．支持地盤

(3.2.1)(4.2.4)(4.3.4)(4.3.5)(4.4.4)(4.5.5)(4.5.6)

・杭基礎
　支持層の位置及び土質(基礎ぐいの先端の位置含む)
　　・図示による　・
・直接基礎
　支持層の位置及び土質(基礎底部の位置含む)
　　・図示による　・
・地盤の載荷試験(平板載荷試験)
　　・行う
　　試験の方法、位置及び載荷荷重は図示による

2．既製コンクリート杭地業

(4.2.2)(4.3.1)(4.3.3)～(4.3.6)(4.3.8)

杭の種類
・　遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭）
・　プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）
・　外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）
　　SC杭の鋼管材料　・SKK400　・SKK490

杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分(種別)、寸法、継手の箇所数等

		種類 種別	杭径 (mm)	厚さ (mm)	杭長 (mm)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備　考
試験杭	上杭 中杭 下杭								
本　杭	上杭 中杭 下杭								

杭先端部形状
　・開放型　・半開放形　・閉そく形

工法
　・セメントミルク工法
　　・図示による
　・特定埋込杭工法
　　・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で
　　α＝250を採用できる工法　・図示による
　　・上記以外の特定埋込杭工法　・図示による
　　工法
　　・プレボーリング拡大根固め工法
　　・中堀り拡大根固め工法
　　・
　杭の精度
　　水平方向の位置ずれ
　　・杭径の1/4かつ100mm以下　・評定等の評価内容による
　　建込み時の杭の鉛直度
　　・1/100以内　・評定等の評価内容による

杭の継手の工法
　・アーク溶接継手
　　溶接材料
　　・標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・
　・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
　　工法
　　※評定等を受けた工法

杭頭の処理等
　・処理しない
　・処理する
　　処理方法(切断にともなう補強方法含む)
　　・図示による　・

3．鋼杭地業

(4.2.2)(4.4.3)～(4.4.6)

鋼杭の材料
　・図示による
杭の種類、寸法、継手の箇所数等

		種類	杭径 (mm)	厚さ (mm)	杭長 (mm)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備　考
試験杭	上杭 中杭 下杭								
本　杭	上杭 中杭 下杭								

特定埋込杭工法
　・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で
　　α＝250を採用できる工法　・図示による
　・上記以外の特定埋込杭工法　・図示による
　　工法
　　・(　　)
杭の継手の工法
　・アーク溶接継手
　　形状
　　・JIS A 5525による　・
　　溶接材料
　　・標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・
　・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
　　工法
　　※評定等を受けた工法

杭頭の処理等
　・処理しない
　・処理する
　　処理方法(切断にともなう補強方法含む)
　　・図示による　・

2 地業工事

4．場所打ちコンクリート杭地業

(4.5.1)

工法
　・アースドリル工法(安定液　※使用する　・使用しない)
　・リバース工法
　・オールケーシング工法(孔内の水張り　・行う　・行わない)
併用する工法
　・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
　　鋼管巻き材料
　　・SKK400　・SKK490　・
　・拡底杭工法(安定液　・使用する　・使用しない)
　・
寸法等
　・図示による　・
孔壁測定　(4.5.5)
　・行う
　　測定方法、測定箇所は図示による
　・行わない
材料その他　(4.5.4)
　帯筋　・図示による
　鉄筋の最小かぶり厚さ　・図示による
　セメントの種類
　　※高炉セメントB種　・
　コンクリートの種別
　　・A種　・B種　・評定等の評価内容による
　スランプ
　　・18cm　・21cm
　コンクリートの設計基準強度　(　　)N/mm2
　構造体強度補正値(S)
　　・3N/mm2　・評定等の評価内容による　・

⑤ 砂利地業

材料　(4.6.2～3)
　砂利　※　再生クラッシャラン　・
範囲
　・基礎下、基礎梁下、土間スラブ下、土間コンクリート下
　⊙図示による
厚さ
　※60mm　⊙図示による

⑥ 捨コンクリート地業

範囲
　・基礎下、基礎梁下、土間スラブ下　⊙図示による
厚さ
　※50mm　・
設計基準強度
　※18N/mm2　・
スランプ
　※15cm又は18cm　・

⑦ 床下防湿層

材料　(4.6.2)(4.6.5)
　※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　・
範囲
　・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)
　⊙図示による

8．地盤改良工法

種類及び施工方法等
　・図示による　・

9．置換コンクリート地業（ラップルコンクリート地業）

形状等
　・図示による　・
支持地盤
　・図示による　・

3 鉄筋工事

① 鉄筋

(5.2.1)

鉄筋の種類等

種類の記号	呼び径 (mm)	備　考
※　SD295	D10～D16	異形鉄筋
※　SD345	D19以上	異形鉄筋

2．溶接金網

(5.2.2)

鉄線の形状等

種類	種類の記号	形状、網目寸法、径(mm)	使用部位
・溶接金網			
・鉄筋格子			

③ 鉄筋の継手

(5.3.4)

鉄筋の継手の方法等

種類	種類の記号	継手の方法	呼び径 (mm)
柱、梁の主筋		※ガス圧接　・機械式継手 ・溶接継手　・重ね継手	※D19以上
上記以外の鉄筋全般		※重ね継手　・	※D16以下

主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ
　※図示による
継手位置
　※図示による
耐力壁の重ね継手の長さ
　※図示による

④ 鉄筋の定着

鉄筋の定着長さ　(5.3.4)
　※図示による　・

⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）

最小かぶり厚さ　(5.3.5)
　※図示による　・
軽量コンクリートを適用する場合
　・有り(※図示による)　適用箇所(　　)
耐久性上不利な箇所がある場合(塩害等を受けるおそれのある部分等)
　・有り(※図示による)　適用箇所(　　)

6．特殊な鉄筋継手

・機械式継手　(5.5.1～5.5.5)
　適用箇所
　　※図示による　・
　性能(H12建告第１４６３号に適合するもの)
　　・A級　・
　機械式継手の種類(　　)
　鉄筋相互のあき
　　※図示による　・
　施工完了後の試験
　　※図示による　・

・溶接継手　(5.6.1～6.5.5)
　適用箇所
　　※図示による　・
　性能(H12建告第１４６３号に適合するもの)
　　・A級　・
　機械式継手の種類(　　)
　鉄筋相互のあき
　　※図示による　・
　施工完了後の試験
　　※図示による　・

⑦ 各部配筋

各部の配筋は，図示による。図示がなければ，標準仕様書 末尾資料の「各部配筋　参考図」による。　(5.3.7)

8．柱の帯筋

※　Ｈ形　・　Ｗ－Ｉ形　・ＳＰ形　(参考図　図2.2)

⑨ 耐震壁を除く壁の開口部補強

・　Ａ形　※　Ｂ形　(参考図　表4.3～4.4)

10．はり貫通孔の補強

補強形式　※Ｈ３形以上　・Ｍ型　・ＭＨ型　(参考図　表7.1～7.3)

11．圧接完了後の圧接部の試験

外観試験　(5.4.10)
　※　行う(全数)
抜取試験
　※　超音波探傷試験　・　引張試験

4 コンクリート工事

① コンクリートの種類

種　別　※　Ⅰ類　・　Ⅱ類　(6.2.1)(表6.2.1)

② 設計基準強度

普通コンクリート　(6.2.2)

Ｆｃ　(N/mm2)	適　用　箇　所
・　２４	
⊙　２１	布基礎、耐圧版、土間

構造体強度補正値　※標準仕様書表6.3.2による

軽量コンクリート

Ｆｃ　(N/mm2)	適　用　箇　所

構造体強度補正値　※標準仕様書表6.3.2による

③ スランプ

布基礎、耐圧版、土間　※　１５cm　⊙　１８cm　(6.2.4)(表6.2.2)
柱，梁，スラブ，壁　※　１８cm

④ セメントの種類

(6.3.1)

セメントの種類	適用箇所
※ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ、高炉ｾﾒﾝﾄA種、ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種又はﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄA種	建物躯体（下記以外）
・ 高炉ｾﾒﾝﾄB種	基礎、地中梁
・ ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種	基礎、地中梁

⑤ 骨材

アルカリシリカ反応性による区分　(6.3.1)
　※A　・B

6．軽量コンクリート

種類　(6.10.1)(表6.10.1)
　・1種　・2種

⑦ 無筋コンクリート

適用箇所　(6.14.1)
　・標準仕様書6.14.1(4)による箇所
　・標準仕様書6.14.1(4)以外の箇所
　　⊙図示による　・
設計基準強度
　※18N/mm2　・
スランプ
　※15cm又は18cm　・

8．打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

打継ぎの位置　(6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)
　※標準仕様書6.6.4(1)による　・図示による
目地寸法
　※標準仕様書9.7.3(1)(ア)による　・図示による
ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法
　・図示による

9．打増し厚さ（打放し仕上げ部）

・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)　(6.8.1)
　・20mm　・
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
　・10mm　・20mm　・

⑩ 型枠

せき板の材料及び厚さ　(6.8.2)
　⊙合板(※12mm　・　　)
　・断熱材を兼用した型枠材
　　使用箇所　※図示による　・
　・MCR工法用シート
　　適用箇所　※図示による　・
　　打増し厚さ　・20mm　・
　　打増し範囲　※図示による　・
スリーブの材種・規格等
　・図示による　・

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録　第265505号　前田　健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	構造特記仕様書	縮尺 1： 1： 1：	図面番号 S－01

木　造　軸　組　接　合　部　標　準　図（１）

１．一般事項

（１）適用範囲
※本標準図は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる工事に適用する。
木造の構法は、建築基準法施行令第3章3節に規定する木造軸組工法に適用する。

（２）設計図書
設計図書とは本標準図、特記仕様書、設計図、指示書（現場説明書及び質疑回答書を含む）をいう。

（３）準拠する図書
設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。（ ※全て最新版による。）

「木造住宅工事仕様書」（住宅金融支援機構監修）
「公共建築木造工事標準仕様書 平成25年版」（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）
「木造計画・設計基準 平成23年版」（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）
「木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)」（日本住宅・木材技術センター）
「日本工業規格 JIS A3301-2015 木造校舎の構造設計標準」(2015年改訂版)

上記の仕様書に記載無き場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。

（４）設計図書の優先順位
設計図書の優先順位は下記による。
1. 指示書（現場説明書及び質疑回答書）
2. 設計図
3. 特記仕様書
4. 本標準図

（５）疑義
疑義を生じた場合や工法の提案を行いたい場合には監理者に申し出、その処理方法について協議する。

（６）製作要領書及び施工計画書の作成・提出
工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。

（７）施工図及びプレカット図の提出
工事に先立ち各種の施工図を作成し監理者の承諾を受ける。また、必要に応じて接合部のモックアップの作成を行う。プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。

（８）製作工場の選定、承諾
設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し、監理者の承諾を受ける

（９）各種試験・検査報告書の提出
施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。

（10）接合工法
本標準図に示す構造耐力上主要な柱及び梁の接合方法は、下記による。

・継手仕口による在来工法
・梁受け金物、及びホゾパイプ等による金物工法

なお、上記の方法はひとつの建物で混用して構わない。
また、本標準図は在来接合工法のみについて記載しており、金物工法を用いる場合は、金物工法用の標準図を本標準図に追加して用いること。
本標準図で指定していない金物に変更する場合は、監理者の承認を得ること。

（11）加工部材に関する留意事項
本標準図で扱う一般的な在来プレカット工場で加工可能な範囲は以下による。

・梁:部材断面が幅90mm～150mm、梁成が幅と同寸～450mm、及び材長６ｍ以下
・柱:90角～150角の正方形断面、長さ6m以下

これらを超える場合は、一般プレカット工場では加工できない為、任意形状の加工が可能な加工機を有する工場を選定すること。

２．材料

（１）木材及び木質材料
主要構造部に使用する木材・木質材料の品質については特記仕様書で指定する。

（２）接合具
a)くぎ
主要構造部に使用するくぎはJIS A 5508で規定される鉄丸くぎ（N釘）または太め鉄丸くぎ（CN釘）または溶融亜鉛メッキ太め鉄丸くぎ（ZN釘）またはステンレス鋼釘（S釘）またはせっこうボード用くぎ（GN釘）を用いる。

b)木質構造用ビス
主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靭性が確保されるものを選定することとし、造作用のビス（コーススレッド等）を用いてはならない。
使用箇所・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。

c)ボルト・ナット・座金

1) 主要構造部に使用するボルト及びナットについては以下による。
・ボルトはJIS B 1051 ,ナットはJIS B 1052 に規定される機械的性質を満たす炭素鋼
・公益財団法人日本住宅・木材技術センター規格に準じた金物に使用するボルト及びナット
【 Ｚマーク表示金物 】
【 Ｄマーク表示金物 】
【 Ｓマーク表示金物 】
・上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験成績書を取得して、耐力が明示された金物に使用するボルト及びナット

2) 主要構造部に使用するボルト・ナットのねじはJISB0205に示すメートル並目ねじとし、構造上主要な部分にはM12以上を用いる。
3) ボルト及びナットを用いて木材及び接合金物を緊結する場合には適切な寸法と厚みのある座金を用いる。

※ ボルト・ナット及び座金の使用部位、種類、材質、寸法、表面処理については特記仕様書で指定する。

d)ドリフトピン・ラグスクリュー
主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靭性が確保されるものを選定することとする。使用箇所・材質・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。

e)木栓・木ダボ
主要構造部に使用する場合は所定の強度が確保できる樹種を指定する。
樹種・径等については、特記仕様書で指定する。
節・目切れ等の耐力上の欠点のないものとする。

（３）接合金物
a)規格金物
構造材の接合に用いる接合金物の規格は以下による。
・JIS A 5531；木構造用金物
・公益財団法人日本住宅･木材技術センターによる規格に準じた金物；
Ｚマーク表示金物 、又は Ｃマーク表示金物
・同等認定金物；Ｄマーク表示金物
・性能認定金物；Ｓマーク表示金物

上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験評価機関で試験成績書を取得して基準耐力が明示された金物を、規格金物として使用できる。
使用部位と金物の名称、材質、その他については特記仕様書で指定する。

b)製作金物
製作金物の使用部位・材質・形状・寸法・溶接仕様・表面処理等については、特記仕様書及び設計図による。

（４）接着剤
原則として、構造計算による応力の検定に現場接着による接着剤の耐力は算入しない。但し、たわみや振動等に対する剛性確保のために接着剤の効果を見込む場合はこの限りではない。
建築現場で用いる接着剤の名称・材質・使用環境等については特記仕様書による。

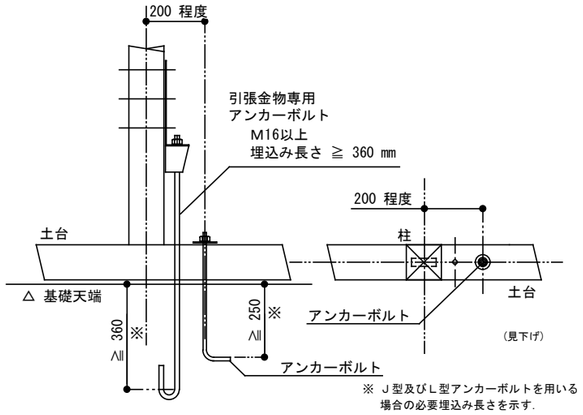
（５）防腐防蟻処理及び耐候処理
防腐防蟻処理及び耐候処理（塗装）は特記仕様書で指定する。
土台及び外壁の地盤面から1m以下の構造材については適切な防腐防蟻処理を行う。
適切な防腐防蟻処理については特記仕様書で指定する。

３．アンカーボルト

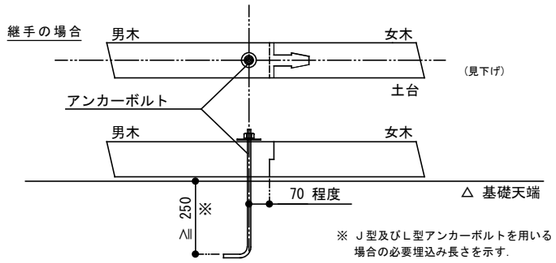
※共通事項
・アンカーボルト及び座金の品質と性能、表面処理等は、特記仕様書による。

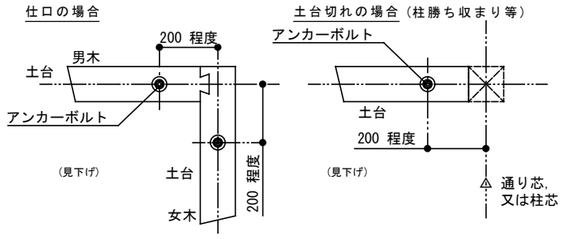
（１）土台固定用アンカーボルト
a).アンカーボルトの埋設位置； アンカーボルトの埋設位置は以下による。

-1.耐力壁(筋交い,合板仕様共通)の下部；
耐力壁(筋交い,合板仕様共通)の下部は、その両端の柱の下部に近接した位置(柱芯より200mm内外)とする。



-2.土台切れの端部及び、土台の継手仕口；
土台切れの端部及び、土台の継手仕口では、男木の端部に設ける。
当該部分が出隅の場合は、出来る限り柱に近接させた位置とする。





-3.その他； 上記以外では、2.0m以内の間隔で設ける。

（２）引張金物専用アンカーボルト

a).引張金物専用アンカーボルトの径
引張金物専用アンカーボルトの呼び径は、M16以上とする。

b).引張金物専用アンカーボルトの基礎への埋込み長さ
引張金物専用のアンカーボルトの基礎コンクリートへの埋込み長さは、Ｊ型アンカーボルトを用いる場合は、360 mm 以上とする。その他のアンカーボルトを用いる場合は、引張金物の耐力を満た埋込み長さとする。

４．接合一般

（１）釘接合
・釘の長さは材厚の2.5倍以上とする。
・面材表面に対し、釘頭がめり込んではならない。
・自動釘打ち機を使用する場合は、圧力を適切に調整するか、弱めの圧力で打込んだうえに手で打込んで仕上げる等により、釘頭のめり込みを防ぐ。
・構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。
・木口面に打たれた釘は、引抜き方向に抵抗させることはできない。

（２）木質構造用ビス接合
・木口面に打たれた木質構造用ビスは、引抜き方向に抵抗させることはできない。
・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。；
比重が 0.5 以上の樹種・・・・呼び径の 60～75 %
上記以外の樹種 ・・・・・・呼び径の 40～70 %
※ 先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの２／３程度とする。

（３）ボルト接合
・締付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。
・ボルトの締め付けは、座金等が木材に軽くめり込む程度とし、過度に締付けない。
・締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから２山以上突き出ていることを確認する。但し、座掘り座金等、ナットと座金が一体になって土台に埋込まれるタイプのものについては、メーカーの使用条件による。
・引張力を負担する構造上主要な箇所のボルトで、設計図書で指定する部位のものについては、ダブルナット等、弛み止め等の適切な処置を行う。

（４）ラグスクリュー接合
・座金の厚さと大きさは、同じ胴径のボルト接合部における規定値を用いる。
・締付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。
・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。；
比重が 0.5 以上の樹種・・・・呼び径の 60～75 %
上記以外の樹種 ・・・・・・・呼び径の 40～70 %
※ 先孔の深さは、ネジ部の長さと同寸以上とする。
・ラグスクリューの挿入は、スパナやインパクトレンチ等を用い、必ず回転させて行う。ハンマー等での叩き込みによる挿入を行ってはならない。
・一度ねじ込んだラグスクリューは、抜き直して再びねじ込むことは避ける。
・鋼板を側材に用いる場合のラグスクリューは、切削ネジタイプとし、転造ネジタイプを用いてはならない。また、鋼板の孔径は以下のとおりとする。
・呼び径 M12以下；＋1.0mm
・呼び径 M16以上；＋1.5mm

（５）ドリフトピン接合
・ドリフトピンは、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。
・ドリフトピンは、原則として、集成材やＬＶＬ等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はＫＤ材とする。
・施工に際しては、孔に対しテーパーのある側を先端にして打込み、無理な打撃を加えてはならない。

（６）木栓接合
・木栓は、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。
・木栓は、原則として、集成材やＬＶＬ等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はＫＤ材とする。
・施工に際しては、木栓を孔に対し打込む時に、折れ曲がりや割れ、頭部の潰れ等が生じないよう注意し、無理な打撃を加えてはならない。
・木栓は湿気の少ない場所で保管し、現場においても水に濡れないよう注意する。

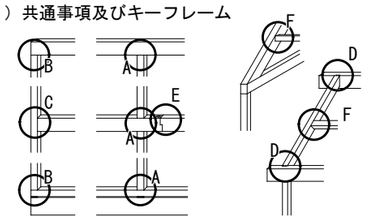
（７）グルードインロッド接合
・グルードインロッド接合とは、軸組部材の木口に先孔を開け、鋼棒等を挿入して、樹脂接着剤等を注入・充填させることにより、接着剤の付着抵抗と鋼棒等の引張によって、応力を伝達する接合をいう。
・グルードインロッド接合は、原則として、集成材やＬＶＬ等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はＫＤ材とする。
・施工に際しては、所定の適用範囲や材料、手順、接着剤の使用環境、養生方法等を遵守して適正に行う。

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	木造軸組接合部標準図（１）	縮尺 1： 1： 1：	図面番号 S－02

木　造　軸　組　接　合　部　標　準　図（２）

５．軸組標準接合部

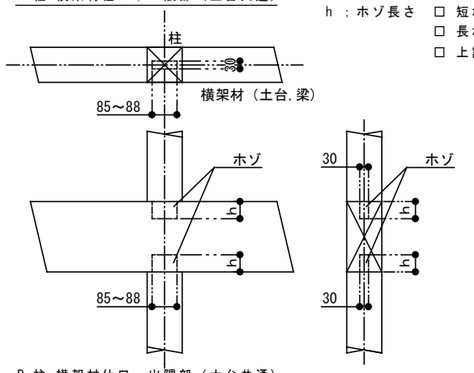
（１）共通事項及びキーフレーム



（２）標準的な継手仕口　(mm)

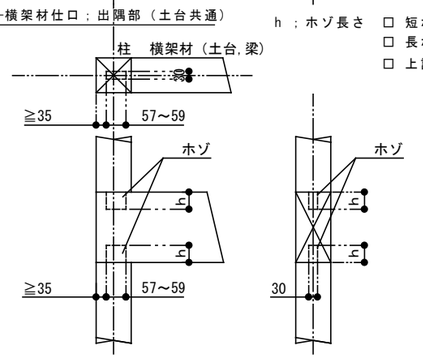
A 柱-横架材仕口；一般部（土台共通）

h ；ホゾ長さ　□ 短ホゾ 45～60 mm　□ 長ホゾ 90 mm　□ 上記以外（　）mm

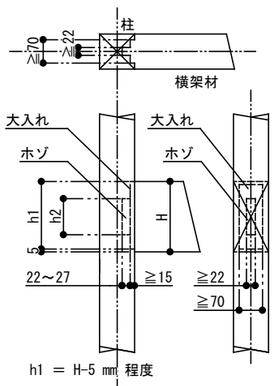


B 柱-横架材仕口；出隅部（土台共通）

h ；ホゾ長さ　□ 短ホゾ 45～60 mm　□ 長ホゾ 90 mm　□ 上記以外（　）mm



C 通柱―横架材仕口；胴差し

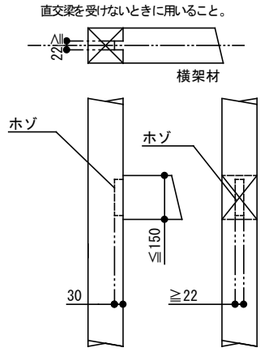


h1 ＝ H-5 mm 程度

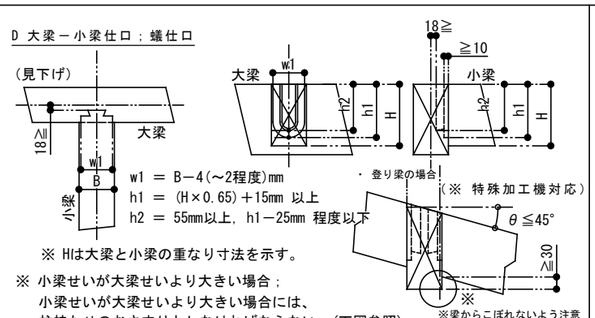
※ 胴差しで通し柱に取り付く方向は、２方向までとする。

C 通柱―横架材仕口；桁差し

※ 材せい150mm以下かつ、上階からの柱や直交梁を受けないときに用いること。



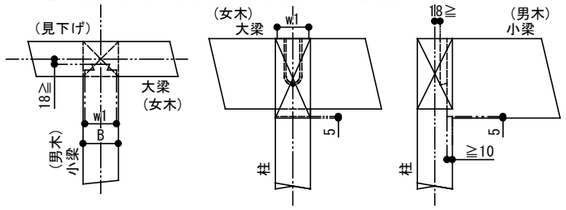
D 大梁－小梁仕口；蟻仕口



w1 ＝ B－4(～2程度)mm
h1 ＝ (H×0.65)＋15mm 以上
h2 ＝ 55mm以上，h1－25mm 程度以下

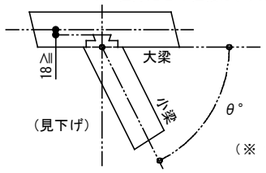
※ Hは大梁と小梁の重なり寸法を示す。

※ 小梁せいが大梁せいより大きい場合；
小梁せいが大梁せいより大きい場合には、
柱持たせのおさまりとしなければならない。（下図参照）



※ 柱持たせの柱幅は、大梁の幅と同寸以上とする。

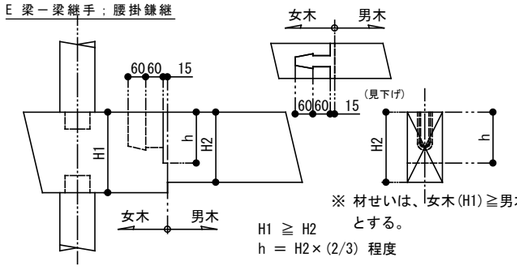
※ 斜め蟻の場合；



※θ° ≧ 26.6

（※ 特殊加工機対応）

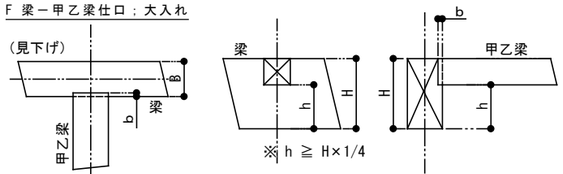
E 梁－梁継手；腰掛鎌継



※ 材せいは、女木(H1)≧男木(H2)とする。

H1 ≧ H2
h ＝ H2×(2/3) 程度

F 梁－甲乙梁仕口；大入れ

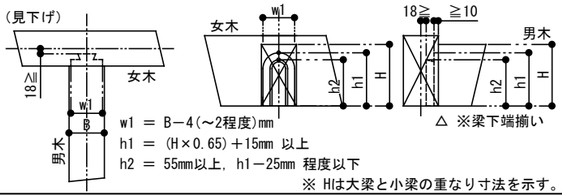


b＝15mm ～ (B×1/4) ※最大

※ 甲乙梁下端～梁下端までの寸法は、梁せいの1/4以上確保すること。　(h≧H×1/4)

G 梁－梁仕口；逆蟻仕口

※ バルコニ等の先端に架ける梁に用いる。



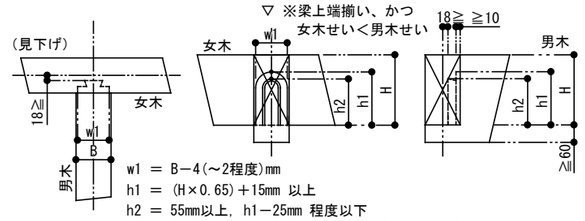
△ ※梁下端揃い

w1 ＝ B－4(～2程度)mm
h1 ＝ (H×0.65)＋15mm 以上
h2 ＝ 55mm以上，h1－25mm 程度以下

※ Hは大梁と小梁の重なり寸法を示す。

H 梁－梁仕口；茶臼仕口

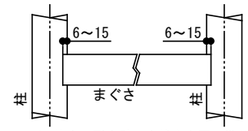
※ バルコニ等の先端に架ける梁に用いる。
▽ ※梁上端揃い、かつ
女木せい＜男木せい



w1 ＝ B－4(～2程度)mm
h1 ＝ (H×0.65)＋15mm 以上
h2 ＝ 55mm以上，h1－25mm 程度以下

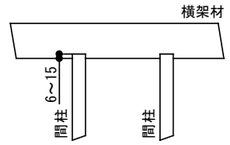
※ Hは大梁と小梁の重なり寸法を示す。

I その他；まぐさ欠き



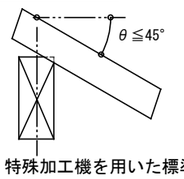
※ 筋交い耐力壁の中桟も上図に準じる。

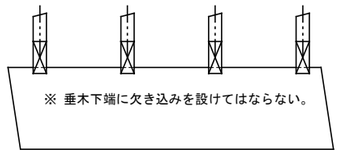
J その他；間柱欠き



※ 開口上部の横架材の間柱欠きは、0～6mm 以下とする。

K その他；垂木欠き



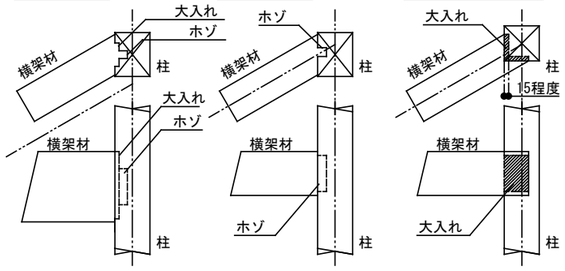


※ 垂木下端に欠き込みを設けてはならない。

（３）特殊加工機を用いた標準的な継手仕口　(mm)

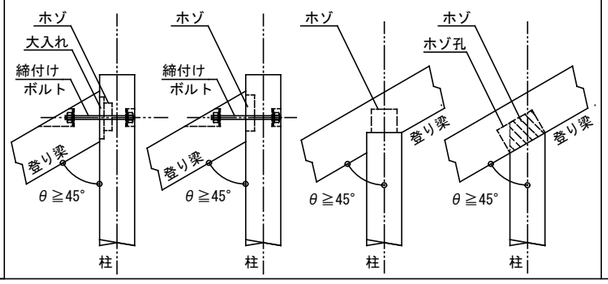
特殊加工機を用いることにより対応が可能な継手仕口の一例を、本節に示す。
特殊加工機を用いた継手仕口は、加工工場が限定されるので注意すること。
特殊加工機を用いた継手仕口は、その形状により加工コストが増すので注意すること。

L 斜め胴差し　　M 斜め桁差し　　N 斜め柱差し大入れ



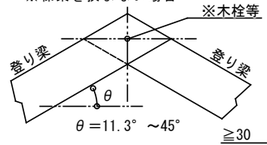
※ L,Mともに、梁幅が柱からこぼれない範囲で用い、柱断面を調整して使用すること。
※ L,Mともに、柱梁の緊結には引きボルトの代わりにコーナー金物を横使いとする。
使用するコーナー金物は、羽子板同等以上の引張耐力を有するものとする。

O 登り胴差し　　P 登り桁差し　　Q 登り斜めホゾ　　R 登り座付きホゾ

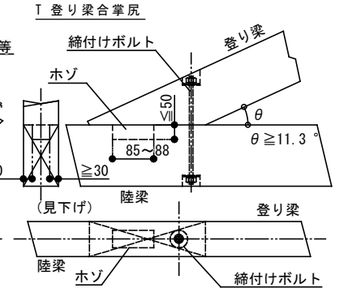


S 登り梁合掌部

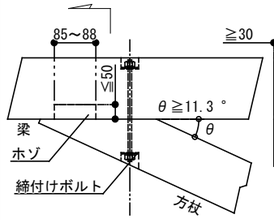
※棟束を挟まない場合



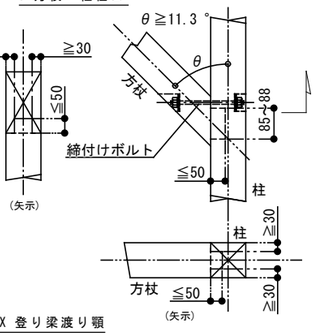
T 登り梁合掌尻



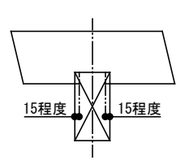
U 方杖－梁仕口



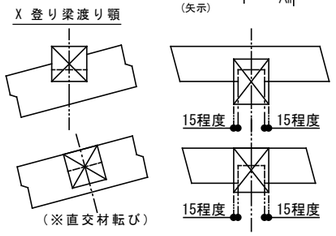
V 方杖－柱仕口



W 渡り顎

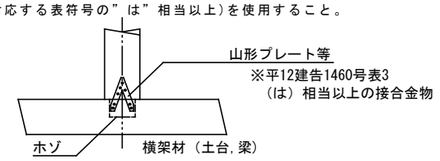


X 登り梁渡り顎

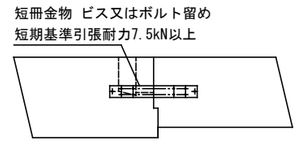


（４）継手・仕口の補強金物

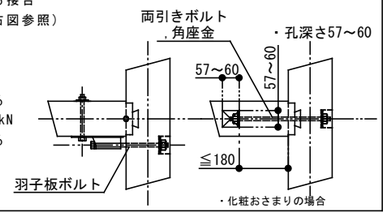
・耐力壁枠柱の柱脚・柱頭においては、耐力壁による引抜力を計算し、引抜力以上の耐力を保有する接合金物を使用すること。
・上記以外の柱脚接合部には、5.1KN以上の引張耐力を保有する接合金物(平12建告1460号表３に対応する表符号の”は”相当以上)を使用すること。



（梁-梁 接合部）
・水平構面の外周部横架材接合部においては、床水平構面による引抜力を計算し、引抜力以上の耐力を保有する接合金物を使用すること。
・上記以外の接合部には、7.5KN以上の引張耐力を保有する接合金物を使用すること。（右図参照）



（小梁端部接合部）
・小梁端部接合においては、地震力によって外れ落ちることのないよう、最低3.0kN以上の引張耐力を保有する接合金物で緊結すること。



関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	木造軸組接合部標準図（２）	縮尺 1： 1： 1：	図面番号 S－03

木 造 軸 組 接 合 部 標 準 図（３）

６. 面材耐力壁

（注）（単位）mm

6.1 共通事項

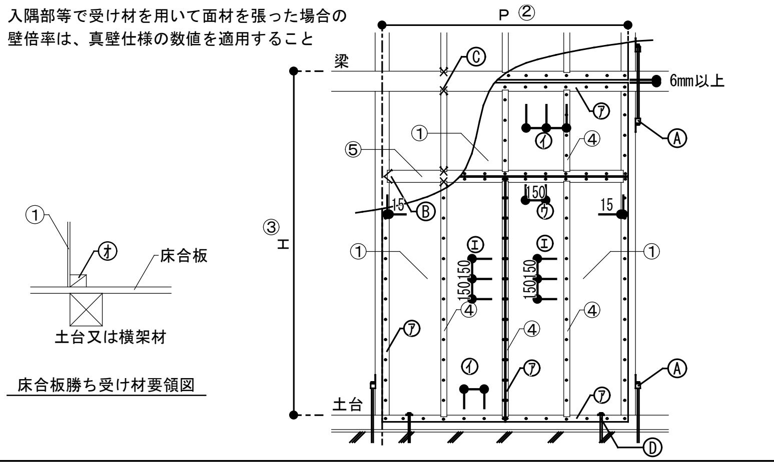
各部仕口形状は、（３）高耐力仕様構造用合板張り耐力壁を除き、木造軸組接合部標準図（２）５.軸組標準接合部に準ずる。
面材張り耐力壁の面材に対する釘頭のめり込みは、面材厚の10%未満かつ1mmを限度とする。左記を超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること。
耐力壁の土台と基礎との間は、無収縮モルタル又は十分な耐久力を持つスペーサー材を挿入し隙間を埋めること。
柱の有効細長比（断面の最小二次率半径に対する座屈長さの比）は、150以下とすること。

6.2 面材耐力壁の仕様

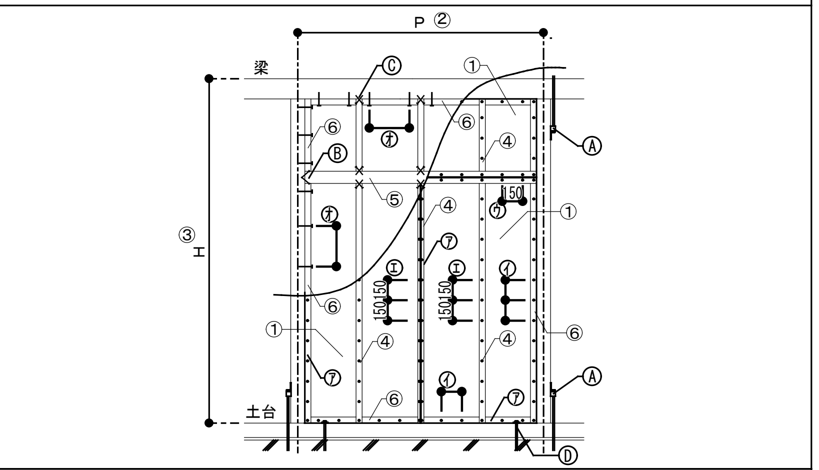
（１）昭56建告1100号に準じた耐力壁　　面材種類：構造用パーティクルボード、構造用MDF、構造用合板、構造用パネル（OSB）

ａ.面材張り大壁仕様耐力壁

※ 入隅部等で受け材を用いて面材を張った場合の壁倍率は、真壁仕様の数値を適用すること



ｂ.受け材付き真壁仕様耐力壁



ａ-1. 高倍率仕様大壁耐力壁　　壁倍率：4.3または3.7

① 面材および壁倍率	構造用パーティクルボード t=9mm、構造用MDF t=9mm ・・・4.3 倍 構造用合板 t=9mm以上、構造用パネル(OSB) t=9mm以上 ・・・3.7 倍	
② 柱間隔	600mm≦P≦2000mm	
③ 高さ	H≦6000mm、　かつ一連の耐力壁の両端柱芯間距離の5倍以下	
④ 間柱	幅45以上、間隔500mm以下	
⑤ 中桟	幅90mm以上	
2)各部仕口形状及び性能		
Ⓐ 各階の柱頭柱脚部	ホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する	
Ⓑ 中桟端部	まぐさ欠きに15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち	
Ⓒ 間柱端部	間柱欠きに6～15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち	
Ⓓ アンカーボルト	耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト： M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置（柱芯から200mm内外）に1本ずつ設ける	
3)面材の釘打ち方法	※ 構造用合板には、CN釘を用いること。	
㋐ 面材の釘打ち	面材の４周を釘打ちする。 金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする。	
	柱及びはりに対するかかり寸法	22.5mm以上
	面材に対するへり空き	10mm以上
	柱はりのへり空き	12.5mm以上
㋑ 横架材・柱	構造用合板：CN50@75mm以下、左記以外の面材：N50@75mm以下	
㋒ 中桟	構造用合板：CN50@150mm以下、左記以外の面材：N50@150mm以下	
㋓ 間柱	構造用合板：CN50@150mm以下、左記以外の面材：N50@150mm以下	
㋔ 受け材 ※ 床合板勝ち仕様の場合	受け材	45×60以上
	受け材と柱梁	釘N90@120mm以下（両面張りの場合は、@60mm以下） ※ 枠材用ホールダウン金物は,45mm用を用いること(30mm用は不可)

ｂ-1. 高倍率仕様真壁耐力壁　　壁倍率：4.0または3.3

① 面材および壁倍率	構造用パーティクルボード t=9mm、構造用MDF t=9mm ・・・4.0 倍 構造用合板 t=9mm以上、構造用パネル(OSB) t=9mm以上 ・・・3.3 倍	
② 柱間隔	600mm≦P≦2000mm	
③ 高さ	H≦6000mm、　かつ一連の耐力壁の両端柱芯間距離の5倍以下	
④ 間柱	幅45以上、間隔500mm以下	
⑤ 中桟	幅90mm以上	⑥ 受け材　幅45mm以上
2)各部仕口形状及び性能		
Ⓐ 各階の柱頭柱脚部	ホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する	
Ⓑ 中桟端部	突き付けの上、2-N75斜め釘打ち	
Ⓒ 間柱端部	突き付けの上、2-N75斜め釘打ち	
Ⓓ アンカーボルト	耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト： M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置（柱芯から200mm内外）に1本ずつ設ける	
3)面材の釘打ち方法	※ 構造用合板には、CN釘を用いること。	
㋐ 面材の釘打ち	面材の４周を釘打ちする。 金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする。	
	受け材に対するかかり寸法	22.5mm以上
	面板に対するへり空き	10mm以上
	受け材のへり空き	12.5mm以上
㋑ 外周受材	構造用合板：CN50@75mm以下、左記以外の面材：N50@75mm以下	
㋒ 中桟	構造用合板：CN50@150mm以下、左記以外の面材：N50@150mm以下	
㋓ 間柱	構造用合板：CN50@150mm以下、左記以外の面材：N50@150mm以下	
㋔ 受け材	受け材	45×60以上
	受け材と柱梁	構造用パーティクルボード、構造用MDF：釘N90@120mm以下（両面張りの場合は、@60mm以下） 構造用合板、構造用パネル：釘N90@200mm以下（両面張りの場合は、@100mm以下）
	※ 床勝ち仕様の場合の受け材及び釘打ち方法はａ-1.に準ずる ※ 枠材用ホールダウン金物は,45mm用を用いること(30mm用は不可)	

ａ-2. 標準仕様大壁耐力壁　　壁倍率：2.5

① 面材および壁倍率	構造用パーティクルボード t=9mm、構造用MDF t=9mm ・・・2.5 倍 構造用合板 t=9mm以上、構造用パネル(OSB) t=9mm以上 ・・・2.5 倍	
②③④⑤	ａ-1.（高倍率仕様）に同じ	
2)各部仕口形状及び性能		
ⒶⒷⒸⒹ	ａ-1.（高倍率仕様）に同じ	
3)面材の釘打ち方法		
㋐ 面材の釘打ち	ａ-1.（高倍率仕様）に同じ	
㋑ 横架材・柱	N50@150mm以下	
㋒ 中桟	N50@150mm以下	
㋓ 間柱	N50@150mm以下	
㋔ 受け材 ※ 床合板勝ち仕様の場合	受け材	45×60以上
	受け材と柱梁	釘N90@200mm以下（両面張りの場合は、@100mm以下）

ｂ-2. 標準仕様真壁耐力壁　　壁倍率：2.5

① 面材および壁倍率	構造用パーティクルボード t=9mm、構造用MDF t=9mm ・・・2.5 倍 構造用合板 t=9mm以上、構造用パネル(OSB) t=9mm以上 ・・・2.5 倍	
②③④⑤⑥	ｂ-1.（高倍率仕様）に同じ	
2)各部仕口形状及び性能		
ⒶⒷⒸⒹ	ｂ-1.（高倍率仕様）に同じ	
3)面材の釘打ち方法		
㋐ 面材の釘打ち	ｂ-1.（高倍率仕様）に同じ	
㋑ 外周受材	N50@150mm以下	
㋒ 中桟	N50@150mm以下	
㋓ 間柱	N50@150mm以下	
㋔ 受け材	受け材	45×60以上
	受け材と柱梁	釘N90@300mm以下（両面張りの場合は、@120mm以下）
	※床勝ち仕様の場合の受け材及び釘打ち方法はａ-2.に準ずる	

（２）高耐力仕様構造用合板張り耐力壁（JIS A 3301標準仕様）：　短期許容せん断力⊿Qa＝29.6kN/m

本耐力壁を採用する場合は、設計図書に試験成績書を添付すること。

ａ.条件及び仕様

1)各部材料

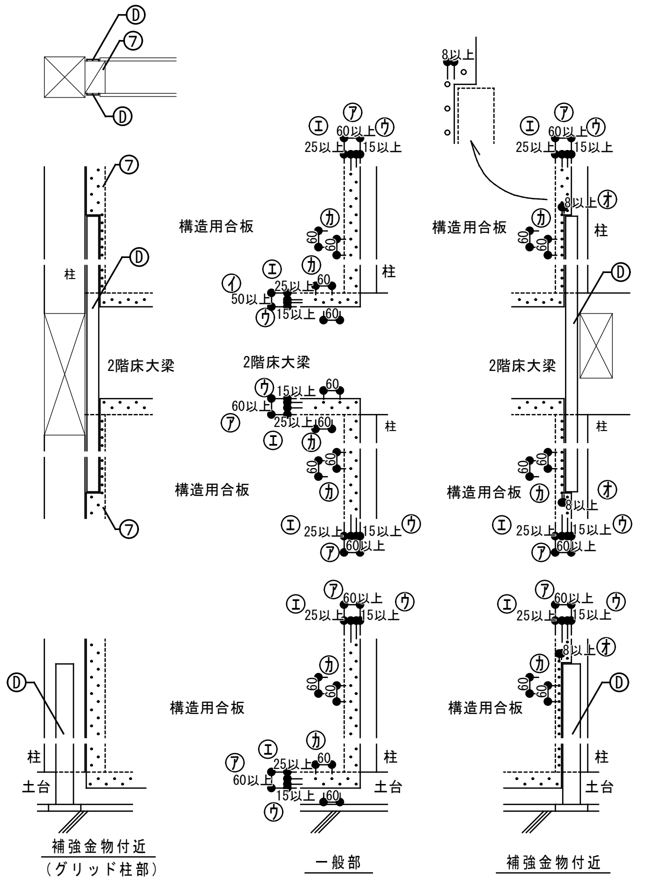
①	面材：構造用合板　t=12mm　両面張り
②	間隔：900mm≦P≦1000mm
③	高さ：1800mm≦H≦3650mm
④	高耐力壁を用いる場合のグリッド柱：150mm×150mm以上 （グリッド柱：Ｘ方向とＹ方向の主要鉛直構面の交点の柱）
⑤	高耐力壁の端部および合板継ぎ目部の柱：120mm×120mm以上
⑥	構造用合板継ぎ目部横つなぎ材：120mm×120mm以上
⑦	グリッド柱に取付く受け材：75mm×120mm以上
⑧	間柱：見付け45mm以上、見込み120mm以上、間隔Ｐ/3以下
⑨	小屋柱：120mm×120mm以上

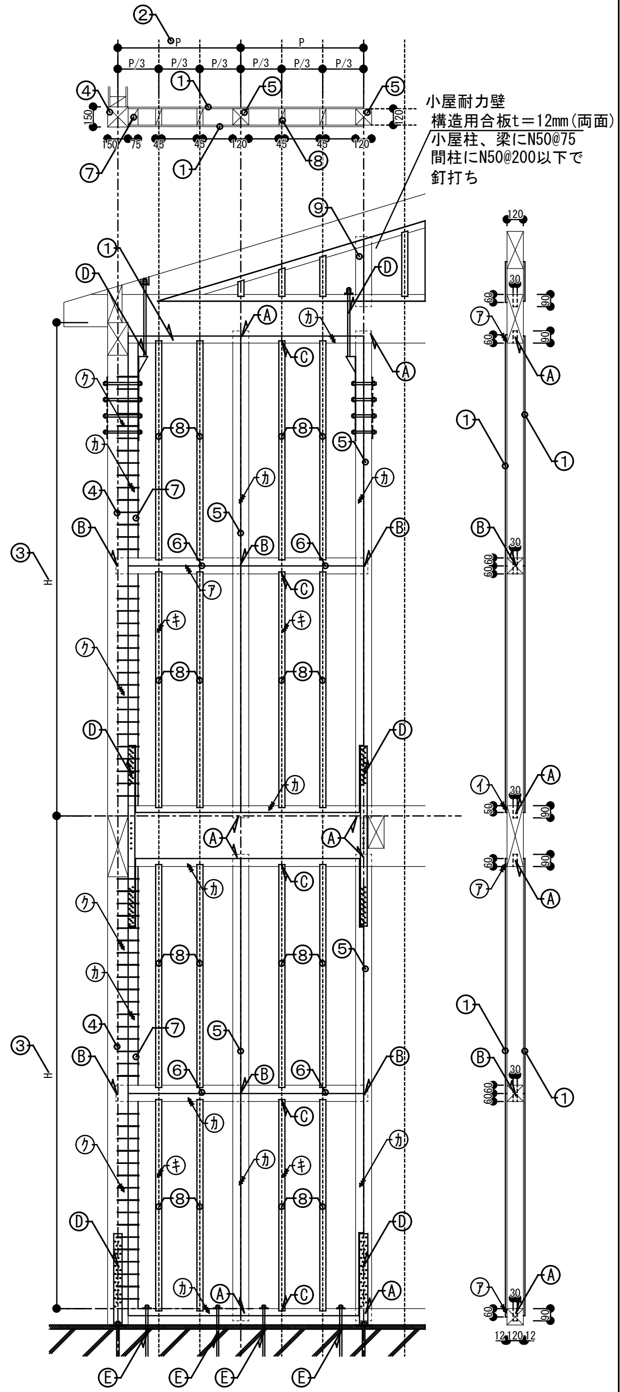
2)各部仕口形状及び性能

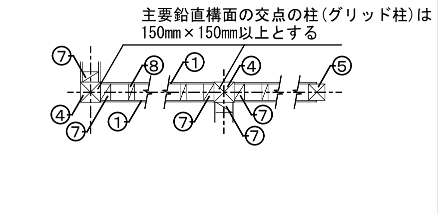
Ⓐ	柱頭柱脚ホゾ：厚さ30mm×深さ90mm以上
Ⓑ	中桟端部ホゾ： 片側から柱に取り付く場合：厚さ30mm×深さ90mmホゾ差し 両側から柱に取り付く場合：厚さ30mm×深さ60mmホゾ差し
Ⓒ	間柱両端：横架材への溝加工及び15mm程度大入れ
Ⓓ	各階の柱頭柱脚部： 水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
Ⓔ	耐力壁のせん断を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト： M16アンカーボルト耐力壁１P当り２本設ける

3)各部への釘打及びビス止め

	構造用合板はたて張り、４周を釘打ちする
㋐	㋑を除き、柱及びはりに対するかかり寸法：60mm以上
㋑	2階耐力壁合板を２階床大梁へ留め付ける場合かかり代：50mm以上
㋒	㋓を除き、合板に対するへり空き：15mm以上
㋓	柱はりのへり空き：25mm以上
㋔	金物が干渉しへり空きが確保できない合板部分のへり空き：8mm以上
㋕	横架材・柱・受け材：N50@60mmチドリ打ち
㋖	間柱：N50@90mm打ち
㋗	⑦の受け材とグリット柱： 木質構造用ビスφ6、L130～150@100(2列)で留め付ける。







6.3 その他の耐力壁

・木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2017年版）の詳細計算法による面材張り耐力壁については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。
・指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された耐力壁については試験成績書の仕様に準拠することとする。
・大臣認定を取得した耐力壁については、認定書に記載された適用範囲及び仕様を守ること。

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社　建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録（渡）第 156号 １級建築士登録　第265505号　前田　健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	木造軸組接合部標準図（３）	縮尺 1： 1： 1：	図面番号 Ｓ－０４

木　造　軸　組　接　合　部　標　準　図（４）

７．水平構面

（注）（単位)mm

7.1共通事項

・各部仕口形状は、（３）高耐力仕様屋根・床水平構面を除き、木造軸組接合部標準図（2）5.軸組標準接合部に準ずる。
・木造軸組み工法住宅の許容応力度設計（2008年）の詳細計算法による水平構面については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。
・指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された水平構面については試験成績書の仕様に準拠することとする。

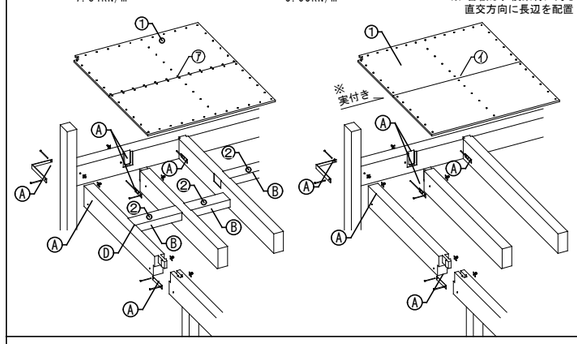
7.2水平構面の仕様

（１）木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた床構面

(a) 日の字釘打ち
短期許容せん断耐力
7.84kN/m

(b) 川の字釘打ち
短期許容せん断耐力
3.53kN/m

※ 合板は、横架材に対し直交方向に長辺を配置



1)各部材料および寸法

①	面材：構造用合板t=24mm～30mm横架材に直貼
②	甲乙梁:幅45mm以上×せい45mm以上・梁及び甲乙梁の間隔1000mm以下

2)各部仕口形状及び性能

Ⓐ	各仕口部分： 水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
Ⓑ	構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
Ⓒ	高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
Ⓓ	甲乙梁端部は小梁に対して深さ15mm程度の大入れ　N75　1本斜め打ち

3)各部への釘打及びビス止め

⑦	構造用合板はN75@150mm目の字釘打ちで横架材,甲乙梁,床受材に留め付ける
④	構造用合板はN75@150mm川の字釘打ちで横架材,甲乙梁,床受材に留め付ける ※ 構造用合板は、実付きとする.

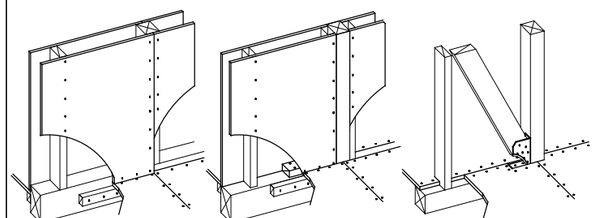
注意事項：構造用合板（又はOSB）に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする
2mmを超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること
川の字釘打ちは構造用合板上に直接フローリングを貼る構成の場合、
撓み等に注意する事

告示耐力壁-床納まり

大壁合板耐力壁-床構面
（壁勝）

真壁合板耐力壁-床構面
（壁勝）

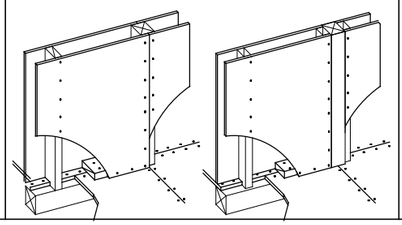
筋違耐力壁-床構面
（筋違勝）



認定仕様例示）日合連（JPMA）仕様耐力壁-床勝納まり

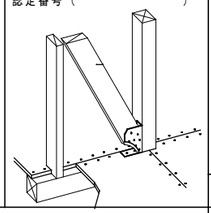
大壁合板耐力壁-床勝
認定番号：FRM-0296

真壁合板耐力壁-床勝
認定番号：FRM-0298



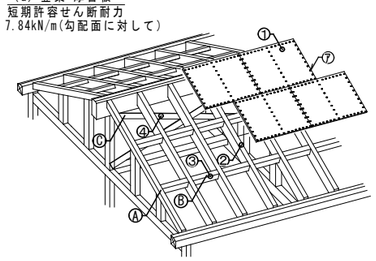
筋違金物による床勝ち納まり

筋違耐力壁-床構面
（床勝:大臣認定仕様）
会社名（　　）
認定番号（　　）



（２）木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた屋根構面

(a) 登梁-厚合板
短期許容せん断耐力
7.84kN/m(勾配面に対して)



1)各部材料および寸法

①	面材：構造用合板t=24mm～30mm横架材に直貼
②	登梁：幅105mm以上×せい105mm以上　間隔1000mm以下
③	甲乙梁：幅45mm以上×せい45mm以上　間隔1000mm以下
④	小屋耐力壁：15mm以上×90mm以上 (端部は平12建告1460号の筋違耐力壁の接合)

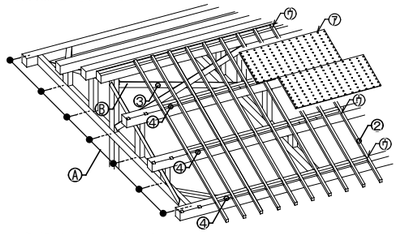
2)各部仕口形状及び性能

Ⓐ	各仕口部分：水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
Ⓑ	構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
Ⓒ	耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁（くも筋違い）を設ける事

3)各部への釘打及びビス止め

⑦	構造用合板はN75@150mmで日の字に垂木に留め付ける

(b) 垂木-合板
短期許容せん断耐力
1.96kN/m(勾配面に対して)



1)各部材料および寸法

①	面材：構造用合板t=9mm～15mm(横置)
②	垂木：幅45mm以上×せい45mm～90mm@500mm以下
③	小屋耐力壁：15mm以上×90mm以上 (端部は平12建告1460号の筋違耐力壁の接合)
④	転び止め：45mm×60mm程度

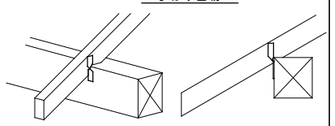
2)各部仕口形状及び性能

Ⓐ	母屋ピッチ:1000mm以下
Ⓑ	耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁（くも筋違い）を設ける事

3)各部への釘打及びビス止め

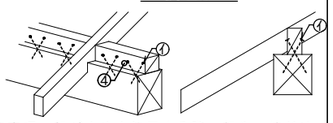
⑦	構造用合板はN50@150mmで川の字に垂木に留め付ける
④	転び止めを梁に2-N75斜め釘止め
⑦	垂木の留め付けは、垂木の側面から軒桁、母屋、棟木の上面に対してN75釘2本打ち

ひねり金物

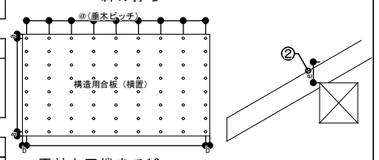


注意事項：ひねり金物を使用する際、軒先・棟だけでなく垂木-母屋の接点全てに使用する

転び止め



注意事項：転び止めを使用する際、軒先・棟だけでなく垂木-母屋の接点全てに使用する
N75釘4本(表2本と裏2本を千鳥配置)
斜め打ち

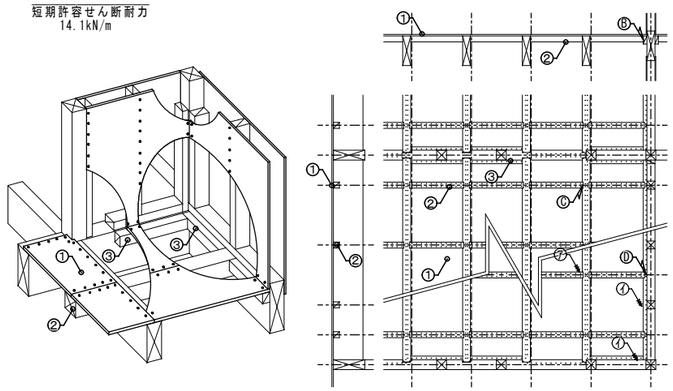


a:面材上下端まで10mm
b:面材左右端まで10mm
c:軸材端まで（最小値）12.5mm

注意事項：構造用合板（又はOSB）に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする

7.3　JISA3301仕様高耐力水平構面

（１）2階床水平構面の条件及び仕様
短期許容せん断耐力
14.1kN/m



立面図

1)各部材料

①	面材：構造用合板t=24mm又は28mm横架材に直張り
②	甲乙梁:90mm×90mmの正角材又は幅75mm×成120mm製材を平使い
③	大梁側面に取り付ける床受材:幅55mm～75mm×成120mmの製材

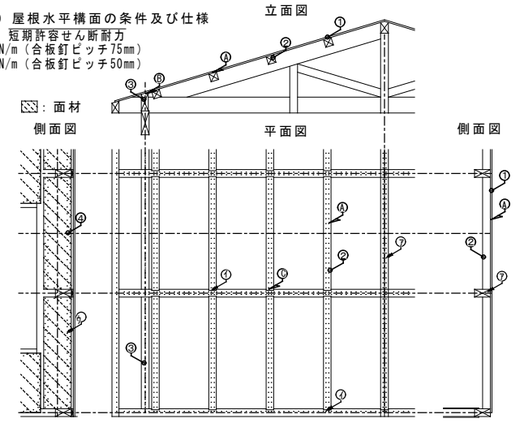
2)各部仕口形状及び性能

Ⓐ	構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
Ⓑ	高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
Ⓒ	甲乙梁端部は小梁に対して深さ15mm程度の大入れ
Ⓓ	甲乙梁端部は床受け材に対して床受け材を深さ15mm×成60mm切り欠き甲乙梁は成60mm分大入れし床受け材勝ちの納まりとする

3)各部への釘打及びビス止め

⑦	構造用合板はN75@75mm目の字釘打ちで横架材,甲乙梁,床受材に留め付ける
④	大梁側面へ取り付ける床受材は木質構造用ビスφ6,L130～150を150 mmピッチの二列打ちとして留め付ける

（２）屋根水平構面の条件及び仕様
短期許容せん断耐力
13.5kN/m（合板釘ピッチ75mm）
19.1kN/m（合板釘ピッチ50mm）



1)各部材料

①	面材：構造用合板t=24mm登梁及び母屋に直張り
②	母屋:幅120mm×成120mmの製材 多雪区域(3級及び4級)の場合は幅120mm×成150mmの製材
③	軒先転び止め:幅105mm×成300mmの製材を用い,天端は屋根面に合わせ切り欠く
④	軒先転び止めの外面に直貼りする構造用合板:t=12mm

2)各部仕口形状及び性能

Ⓐ	構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には母屋を設ける
Ⓑ	屋根の合板レベルに対して低い位置にある軒先の大梁上に転び止めを設け構造用合板を受ける構成
Ⓒ	母屋端部は登梁に対して深さ15mm程度の大入れ

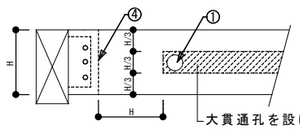
3)各部への釘打及びビス止め

⑦	13.5kN/m仕様:構造用合板はN75@75mm4周(ロの字)釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける 19.1kN/m仕様:構造用合板はN75@50mm4周(ロの字)釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
④	母屋端部に対して吹上対策として木質構造用ビスφ5,L150（頭部径φ12.5以上ねじ部長さ50以上）1本を斜め打ちとする
⑦	軒先大梁と転び止めの外面に直張りする構造用合板は, N50くぎを50 mmピッチの千鳥打ちとして留め付ける

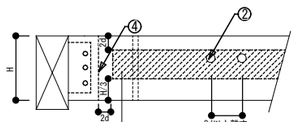
８．貫通孔

8.1　梁貫通孔の条件及び仕様

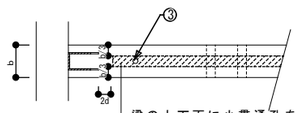
①	大貫通孔:d≦H/4かつ150mm
②	小貫通孔:d≦30mm(隣り合う孔は3d以上離す)
③	縦小貫通孔:d≦b/6かつ30mm
④	接合金物用切り欠きライン



大貫通孔を設けることができる範囲



梁の側面に小貫通孔を設けることのできる範囲

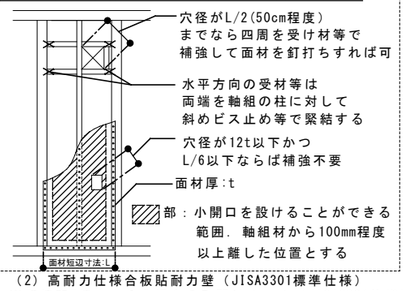


梁の上下面に小貫通孔を設けることのできる範囲
（大貫通孔は不可）

8.2　耐力壁貫通孔

(1)小開口付耐力壁：木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)
※壁倍率7倍までの孔開けルール

剛性・耐力に影響しない面材耐力壁の小開口の設け方



（2）高耐力仕様合板貼耐力壁（JISA3301標準仕様）
※壁倍率7倍を超える場合の孔開けルール（JISA3301仕様）

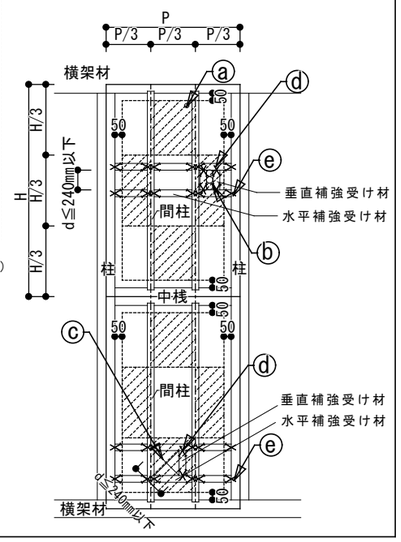
a)貫通孔基準

ⓐ	小貫通孔(d≦30mm) 1区画につき1か所までなら補強不要
ⓑ	小貫通孔×3(外接円の径d≦240mm) 四周を補強受材で補強 面材1枚につき1か所のみ可
ⓒ	大貫通孔(d≦240mm) 四周を補強受材で補強 面材1枚につき1か所のみ可

b)釘打ち及び断面

ⓓ	合板から補強受材へN50@90mmで釘打ち 補強受材は間柱と同寸以上の断面
ⓔ	補強受け材の留め付けは斜めビス2本止め

部：小開口を設けることができる範囲



関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社　建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録　第265505号　前田　健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	木造軸組接合部標準図（４）

縮尺	図面番号
1：	S－05
1：	
1：	

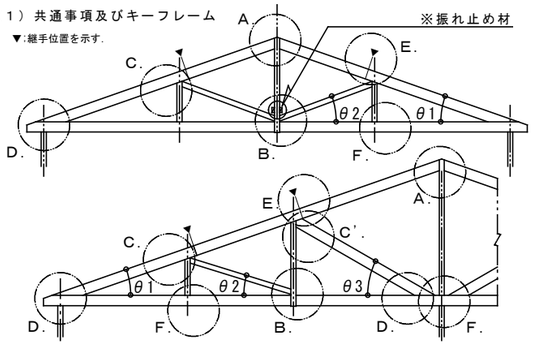
木　造　軸　組　接　合　部　標　準　図（５）

９．小屋組標準トラス　　－Ａ．キングポストトラス および 片流れトラス

JIS A 3301-2015 木造校舎の構造設計標準 に準じた仕様の小屋組トラス

（１）共通事項及びキーフレーム

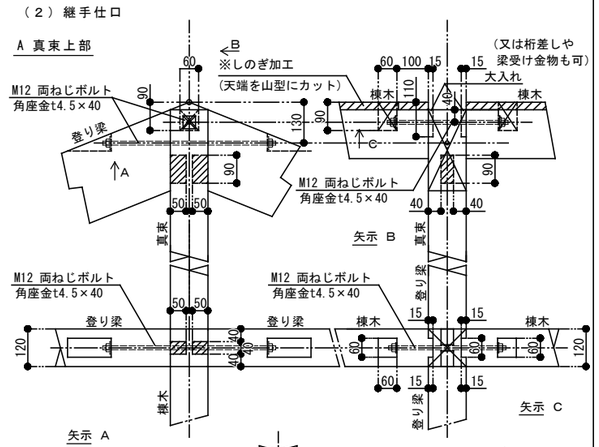
▼:継手位置を示す.



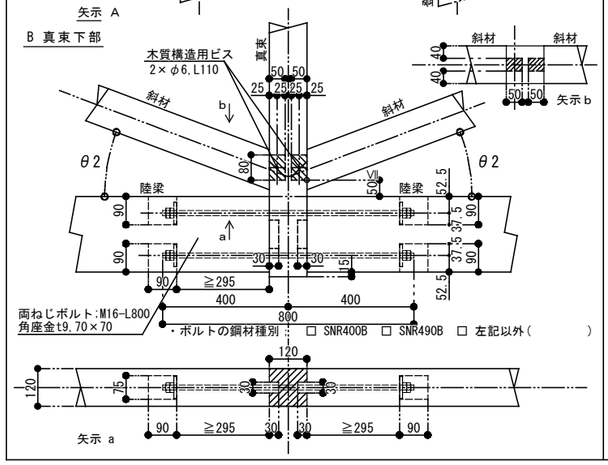
・θ1, θ2は共に3.0～4.5寸勾配(16.7°～24.2°)程度、θ3は3.0寸以上の勾配とする。
・陸梁と側束、又は合掌尻側の束との取合いは、トラスのスパンが12m以内の場合は陸梁勝ち、12mを超える場合は側束、又は合掌尻側の束勝ちとする。
・登り梁は合掌尻から割付け、継手を設ける位置は側束より真束側とする。
（側束側面より、真束側に50～250の範囲に腰掛鎌継ぎの胴付面を設けること。
ただし、屋根水平構面の母屋の仕口の位置と干渉しないように注意。）
・登り梁の横座屈を防止するため、登り梁に対して母屋を15mm程度の大入れによって900～1,000mm 間隔で落とし込み、計算で求めた水平構面の仕様(釘径,長さ,ピッチ)によって厚24mm以上の構造用合板張り、四周釘打ちとする。
・トラスのスパンが12mを超える場合、陸梁の継手位置に振れ止め材を入れること。

（２）継手仕口

A 真束上部

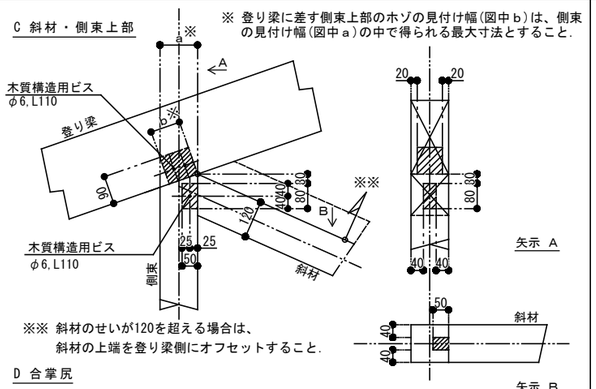


B 真束下部



C 斜材・側束上部

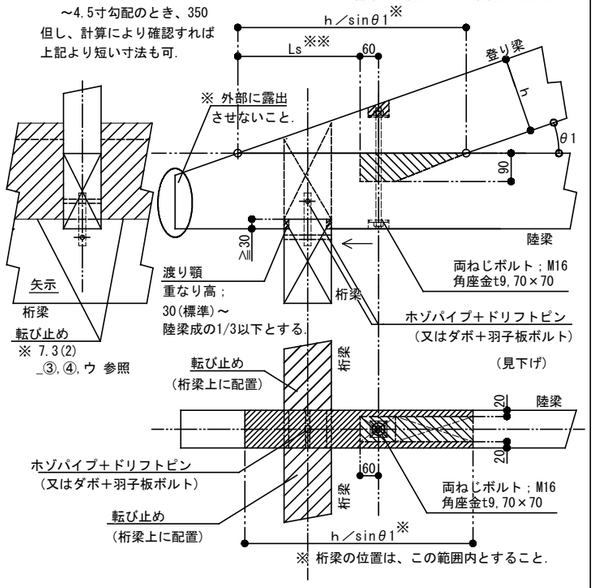
※ 登り梁に差す側束上部のホゾの見付け幅(図中b)は、側束の見付け幅(図中a)の中で得られる最大寸法とすること.



D 合掌尻

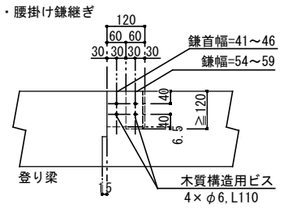
※※ Lsは、以下のとおりとする.
3.0～4.0寸勾配のとき、400
～4.5寸勾配のとき、350
但し、計算により確認すれば
上記より短い寸法も可.

※ 桁梁の位置は、この範囲内とすること.

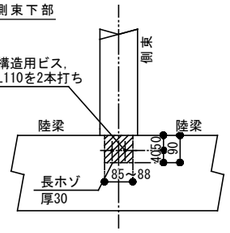


E 登り梁継手

・腰掛け鎌継ぎ



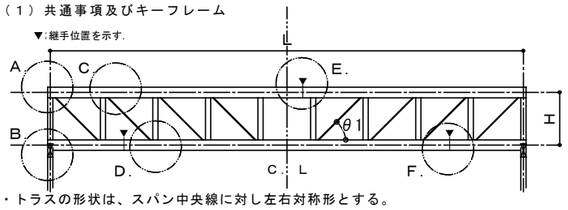
F 側束下部



－Ｂ．平行弦トラス

（１）共通事項及びキーフレーム

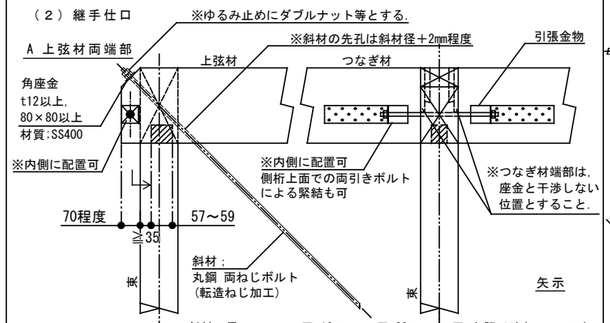
▼:継手位置を示す.



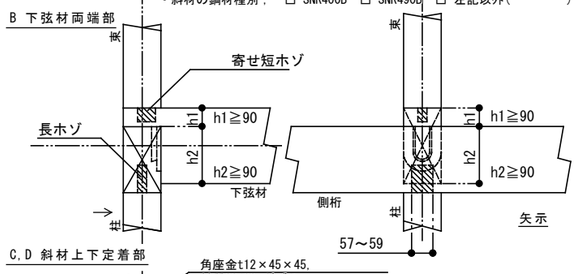
・トラスの形状は、スパン中央線に対し左右対称形とする。
・H≧L/11, θ1＝45°を基本とし、グリッドの縦横の比率は 4:3～3:4の範囲とする。
また、グリッドの数は 7,9,11,13 のいづれかとする。
・束材は、均等にグリッドを割付けた位置とし、スパン中央線を含むグリッドには斜材を配置しないものとする。但し、スパン中央部のグリッドの幅は、適宜、下弦材の斜材定着部どうしが干渉しない程度に縮めることは可とする。
・上下弦材の断面寸法は120×240以上とする。特に、下弦材には長尺の集成材を用い、可能な限り長い材を用いる。
・上弦材の継手は、中央グリッド内に設け、合板受材の仕口と重なる位置を避ける。
下弦材の継手は、スパン中央部に長尺の材を左右対称に配置して決まる位置とする。
・上弦材の横座屈を防止するため、上弦材に対して合板受材を蟻掛け等によって910～1,000mm 間隔で落とし込み、計算で求めた水平構面の仕様(釘径,長さ,ピッチ)によって厚24mm以上の構造用合板張り、四周釘打ちとする。
・桁行方向の鉛直構面は、トラス最外端部の束の両脇に添え材を設けた上でこれを受材として構造用合板張り鉛直構面を設け、小屋組耐力壁とする。
・下弦材の継手の近傍の束の位置には、振れ止め材を設ける。

（２）継手仕口

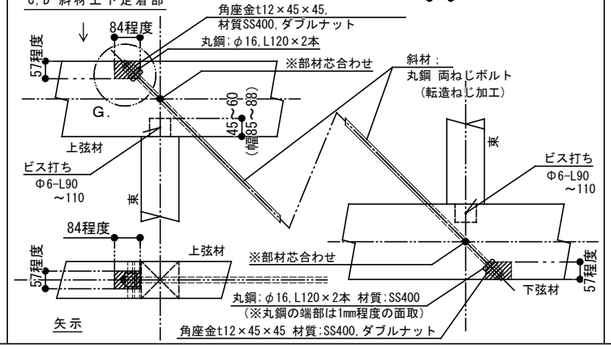
A 上弦材両端部



B 下弦材両端部



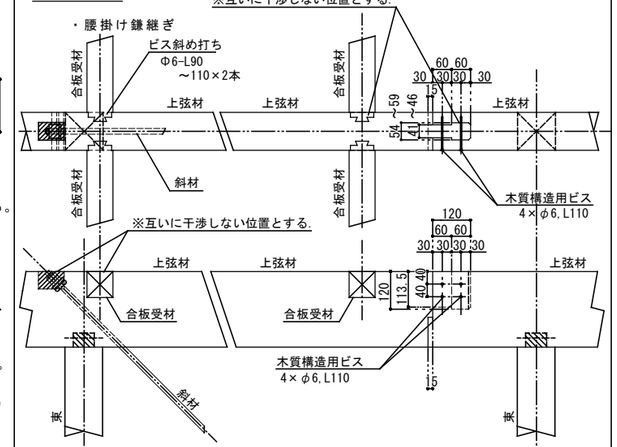
C,D 斜材上下定着部



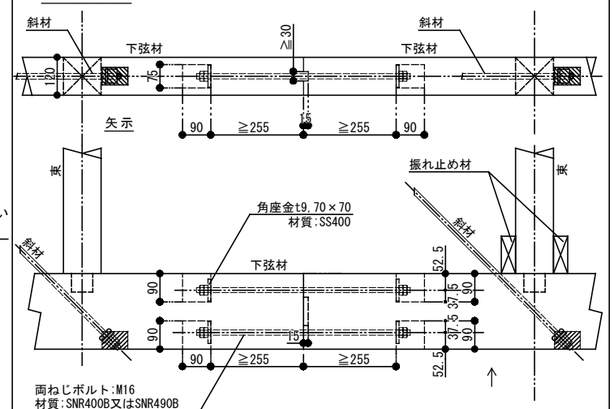
E 上弦材継手

・腰掛け鎌継ぎ

※互いに干渉しない位置とする.



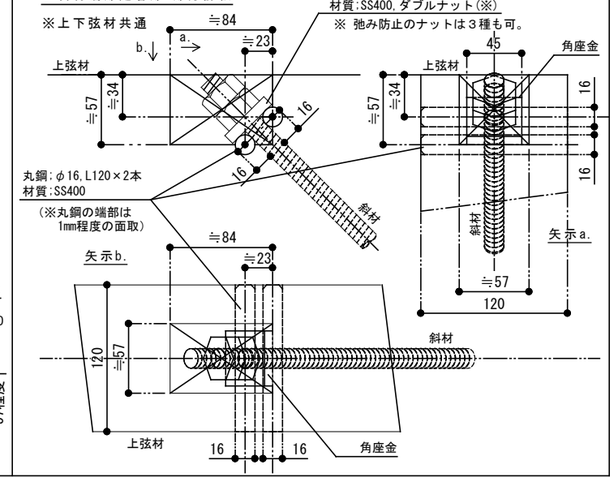
F 下弦材継手



G 斜材端部定着部 部分詳細

※上下弦材共通

角座金 t9×45×45 (Φ16用)
材質:SS400,ダブルナット(※).
※ 弛み防止のナットは３種も可。



関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	木造軸組接合部標準図（５）

縮尺	図面番号
1： 1： 1：	Ｓ－０６

木　造　軸　組　接　合　部　標　準　図（６）

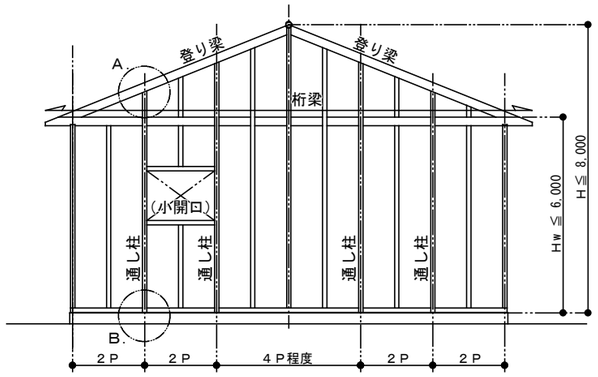
１０．妻構面

平屋建物の妻構面の標準架構（耐風仕様）

（１）共通事項及びキーフレーム

・無開口または小開口（開口幅≦２Ｐ）有の場合

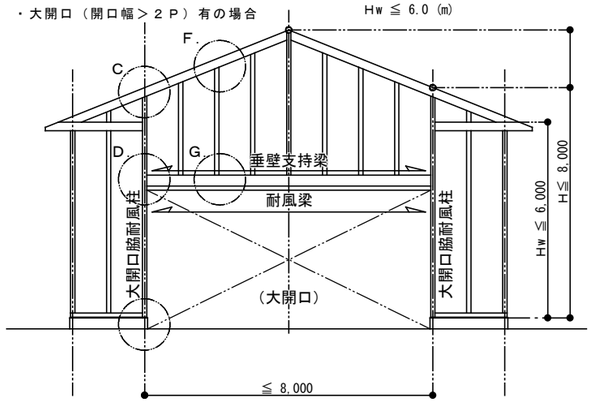
(mm)



※１Ｐは柱-柱間の１モデュール寸法を示し，面材耐力壁に用いる構造用合板の１枚分の短辺幅を標準とする。

但し，　面材耐力壁のとき，Ｐ ≧ Hw／5.0 (m)
筋交耐力壁のとき，Ｐ ≧ Hw／3.5 (m)
Hw ≦ 6.0 (m)

・大開口（開口幅＞２Ｐ）有の場合



・妻構面の耐風柱の最高高さは、基礎立上り天端から、8m以下を標準とする。
・妻構面の柱幅は120以上，柱成は以下の寸法以上とし、構造計算により安全であることを確認する。

柱長さ_Lc≦8,000(mm)；柱せい_Dc≧210(mm)
≦7,000(mm)；　≧180(mm)
≦6,000(mm)；　≧150(mm)
≦5,000(mm)；　≧120(mm)

・妻構面の柱は２Ｐごとに、基礎から登り梁までの通し柱とする。但し、棟を挟んで４Ｐ程度の範囲は、１Ｐごとに通し柱とする。
・妻構面に設けた小開口（幅２Ｐ以内）の両脇の柱は、登り梁下端まで通し柱とする。
・妻構面に設ける大開口（幅２Ｐ超）の長さは、8m以下を標準とする。
・妻構面に設けた大開口の両脇には大開口脇耐風柱を、上部には耐風梁を設ける。
また、垂壁支持梁を耐風梁の上部に設け、耐風梁と構造用ビスにて緊結する。
・大開口脇耐風柱は平角柱として、風圧力による面外方向の曲げ応力に対して、安全であるものとし、構造計算によって求めた断面寸法、樹種、強度等級とする。
・耐風梁は平角材を平使いで用い、風圧力による面外方向の曲げ応力に対して安全であるものとし、構造計算によって求めた断面寸法、樹種、強度等級とする。
但し、計算上、垂れ壁支持梁の断面性能のみでも長期鉛直荷重と風荷重の両方を負担できる場合は、耐風梁を設けなくてもよい。
・垂壁支持梁および耐風梁は、両大開口脇耐風柱の間に１本の通し材を用いなければならない。途中に継手を設けることは、絶対に行ってはならない。
・母屋は登り梁を欠き込み、勝たせたうえで、けらば側に片持ち梁としてはね出すことが出来る。

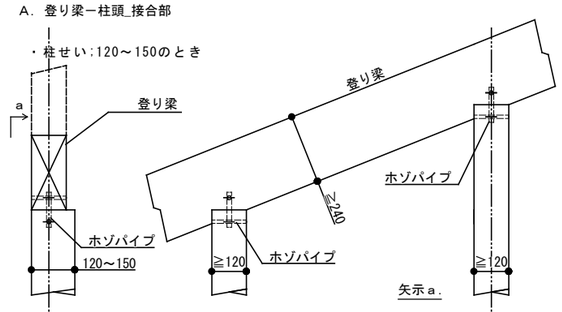
（２）継手仕口

(mm)

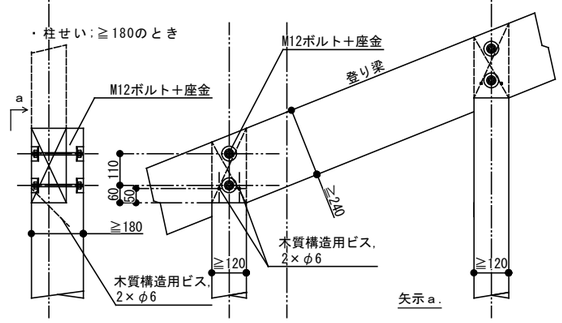
・一般部

Ａ．登り梁ー柱頭_接合部

・柱せい；120～150のとき



・柱せい；≧180のとき

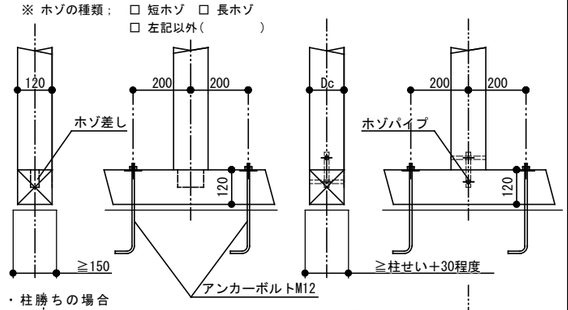


Ｂ．土台ー柱脚_接合部

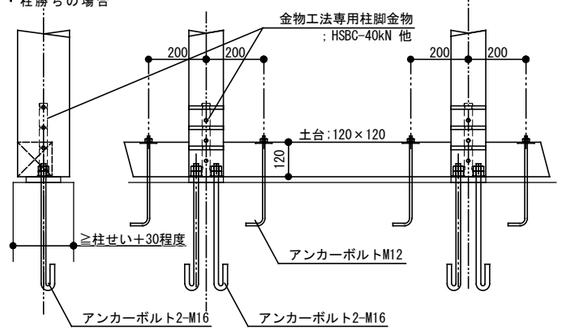
※土台の幅は、柱幅以上とすること。
※アンカーボルトを柱の両脇200mmの位置に設けること。
※柱間隔が１Ｐを超える場合、面外風圧力による負担せん断力を計算の上、決定すること。

・土台勝ち；ホゾ差しの場合　　・土台勝ち；ホゾパイプの場合

※ ホゾの種類；　□ 短ホゾ　□ 長ホゾ
□ 左記以外（　　）



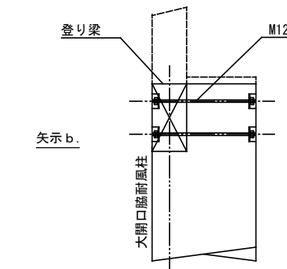
・柱勝ちの場合



・大開口周辺部

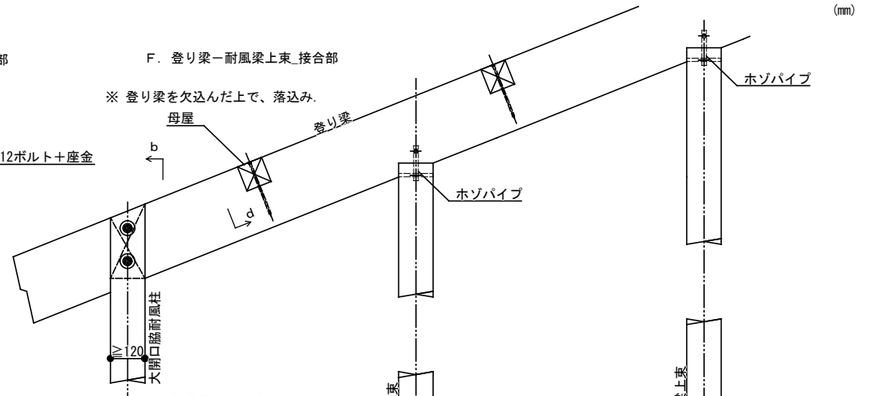
(mm)

Ｃ．登り梁ー大開口脇耐風柱・柱頭_接合部

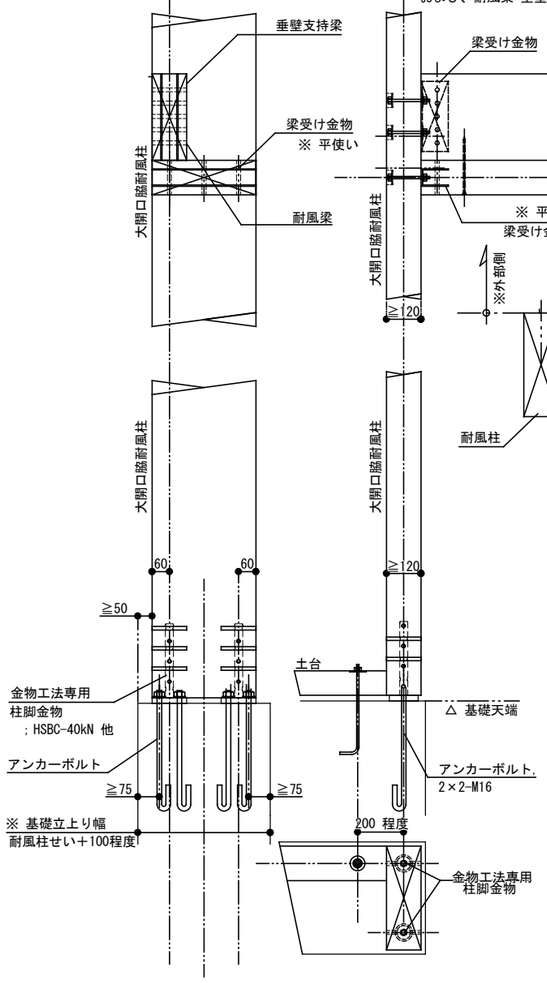


Ｆ．登り梁ー耐風梁上束_接合部

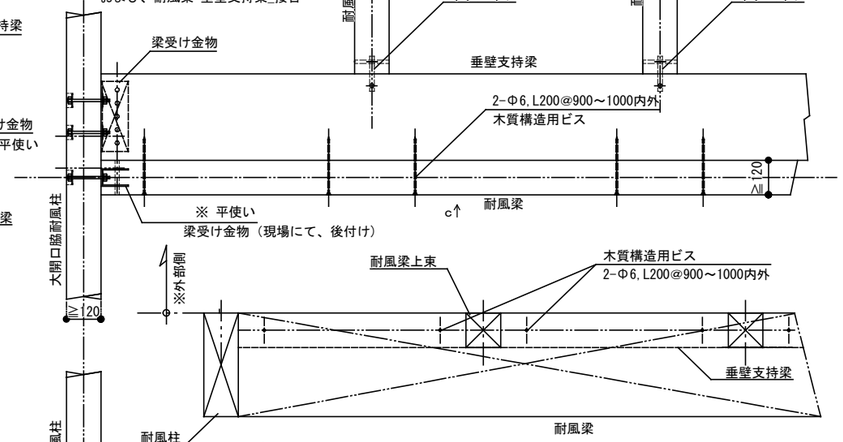
※ 登り梁を欠込んだ上で、落込み．



Ｄ．耐風梁ー大開口脇耐風柱_接合部

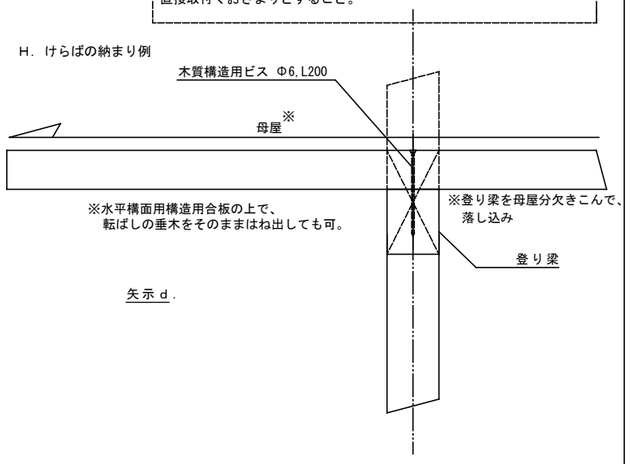


Ｇ．耐風梁ー耐風梁上束_接合部
および、耐風梁-垂壁支持梁_接合



注意；
シャッターや引き戸等の設置に際しては、それらによる常時鉛直荷重を耐風梁に負担させないものとし、垂れ壁支持梁または大開口脇耐風柱に直接取付くおさまりとすること。

Ｈ．けらばの納まり例



関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録　第265505号　前田　健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	木造軸組接合部標準図（６）	縮尺 1： 1： 1：	図面番号 Ｓ－０７

構　造　配　筋　基　準　（　１　）

０１　一般事項

1．この配筋基準は鉄筋コンクリート構造部分について適用する。
（1）普通コンクリート　Ｆｏ＝１８Ｎ／mm²以上、２７Ｎ／mm²以下
（2）鉄　　筋　ＳＤ２９５Ａ・３４５、ＳＤＲ２９５・３４５
2．構造設計図に示す事項の他は本基準による。
3．構造設計図及び本基準などで不明な事項については、下記文献に準じ監督職員と協議のうえ決定する。
＊（社）公共建築協会編　建築工事共通仕様書（最新版）［共仕］
＊（社）日本建築学会編　鉄筋コンクリート構造配筋指針・同解説
＊（社）日本建築学会編　「ＪＡＳＳ５」（最新版）
4．その他
＊設計図書に記載されていない梁貫通孔を設ける場合は、監督職員の承諾を得ること。
＊設備機器の架台及び基礎については監督職員の指示による。
＊床スラブ内に設備配管類を埋込む場合は、外径はスラブ厚さの１／３以下とし、内法間隔を５０mm以上とする。

０２　鉄筋の表示記号

鉄筋の表示記号は下記による。但し、書入れ表示がある場合は書入れによる。

異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
記　号	｜	×	∅	●	○	◉	⊠

０３　鉄筋のかぶり厚さ

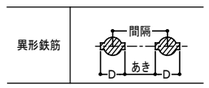
鉄筋（溶接金網を含む）の最小かぶり厚さは３－１表による。
但し、柱及び梁の主筋に異形鉄筋（Ｄ２９以上）を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の１．５倍以上として最小かぶり厚さを定める。

３－１表　　鉄筋の最小かぶり厚さ

構造部分の種別				かぶり厚さ
土に接しない部分	床版、耐力壁以外の壁	仕上げあり		20
		仕上げなし		30
	柱 梁 耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁、耐圧床版			40
土に接する部分	柱、梁、床版、壁			＊40
	基礎、擁壁、耐圧床版			＊60
	煙突などを高熱を受ける部分			60

注）1．＊印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
2．仕上げありとは、モルタル塗りなどの仕上げのあるものとし、仕上塗材吹付け又は塗装などの鉄筋の耐久上有効でない仕上げのものを除く。
3．床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには均しコンクリートの厚さを含まない。
4．杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
5．貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、土に接しない部分のかぶり厚さ以上とする。
6．塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所には３－１表を適用しない。

０４　鉄筋相互の間隔



４－１図

1　鉄筋相互のあきは、下記の値のうち、最大のもの以上とする。
（1）粗骨材の最大寸法の１．２５倍
（2）２５mm
（3）異形鉄筋の径（呼び名の数値）の１．５倍
2　鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは４－１図とする。
3　柱及び梁の二段配筋の場合は、鉄筋の径１．５倍以上、１．７倍以下とする。

０５　鉄筋の折曲げ

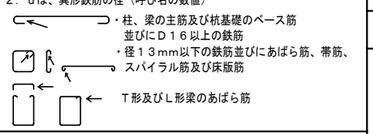
５－１表　　中　間　部

曲げ角度	折曲げ図		SD295A, SD345 SDR295A, SDR345 D16以下	D19−D25	D29−D38	使用箇所
90以下		D	3d以上	4d以上	—	あばら筋、帯筋 スパイラル筋
		D	4d以上	6d以上	8d以上	その他の鉄筋

５－２表　　末　端　部

曲げ角度	折曲げ図		SD295 SDR295 D16以下	SD345 SDR345 D19−D38	使用箇所
180°	4d以上	D	3d以上	4d以上	№1
135°	6d以上	D	3d以上	4d以上	№2
90°	8d以上	D	3d以上	4d以上	№3
135° 90°	4d以上 4d以上	D	3d以上	4d以上	90° 135° 幅止め筋

（注）　1．Ｄは、曲げ内のり直径
　　2．ｄは、異形鉄筋の径（呼び名の数値）

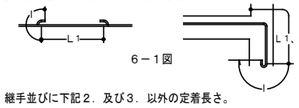


０６　鉄筋の継手および定着長さ

６－１表　　鉄筋の継手及び定着の長さ

鉄筋の種別	設計基準強度 Fo（N／mm²）	フックなし L1	L2	L3 小梁	L3 床版	フックあり L1	L2	L3 小梁	L3 床版
SD295A SDR295 SD 345 SDR345	21以上	40d	35d	25d	10d かつ 150mm以上	30d	25d	15d	—
	27未満	40d	35d	25d	10d かつ 150mm以上	30d	25d	15d	—

（注）　コンクリートの設計基準強度 Fo が１８Ｎ／mm²の場合は、L1 及び L2 は、６－１表の値に５ｄを加えたものとする。



６－１図

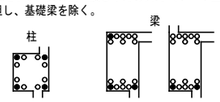
1．L1：継手並びに下記２．及び３．以外の定着長さ。
2．L2：割裂破壊の恐れのない箇所の定着長さ。
3．L3：小梁及び床版の下端筋の定着長さ。但し、基礎耐圧版、これを受ける小梁などは除く。
4．フックのある場合の L1、L2 及び L3には、６－１図に示すようにフック部分ｌを含まない。
5．継手位置は応力の小さい位置に設ける。
6．径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
7．機械的溶接及び圧着等の特殊な継手を採用する場合は、建設大臣の認定を得たものとし、設計施工仕様等を提出して監督職員の承諾を得ること。
8．柱及び梁はフックを付けた場合でも継手長さは４０ｄとする。

直径倍数表　(mm)

	3d	4d	5d	6d	8d	11d	12d	15d	25d	30d	35d	40d
D13	39	52	65	78	104	143	156	195	325	390	455	520
D16	48	64	80	96	128	176	192	240	400	480	560	640
D19	57	76	95	114	152	209	228	285	475	570	665	760
D22	66	88	110	132	176	242	264	330	550	660	770	880
D25	75	100	125	150	200	275	300	375	625	750	875	1000
D29	87	116	145	174	232	319	348	435	725	870	1015	1160
フックあり								L3	L2	L1		
フックなし								L3			L2	L1

０７　フックの必要な箇所

1．柱の四隅にある主筋（７－１図の●印）で、重ね継手及び最上階の柱頭にある場合。
2．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端（７－１図の●印）にある場合。但し、基礎梁を除く。



７－１図

3．煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
4．杭基礎のベース筋
5．帯筋、あばら筋及び幅止め筋
6．設計者の指示した箇所
7．小梁の中央下端筋

０８　隣合う継手の位置

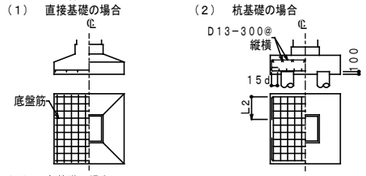
隣合う継手の位置は８－１表による。但し、床版及び壁の場合でＤ１６以下は除く。

８－１表　隣合う継手の位置

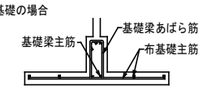
フックのある場合	a＝0．5L	a≧0．5L
フックのない場合	a＝0．5L	a≧0．5L
圧接の場合	e≦0．2d D1≧1．4d D2≧1．1d	a ≧ 400

０９　基　礎

1　基礎の配筋
（1）　直接基礎の場合　　（2）　杭基礎の場合

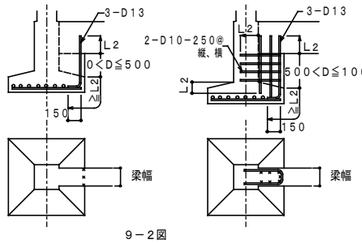


（3）　布基礎の場合



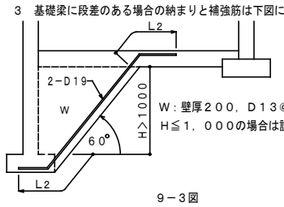
９－１図

2　基礎接合部の補強



９－２図

3　基礎梁に段差のある場合の納まりと補強筋は下図による。

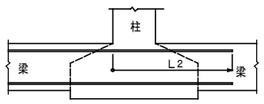


W：壁厚２００，Ｄ１３@２００（縦横共）
Ｈ≦１，０００の場合は設計図書による。

９－３図

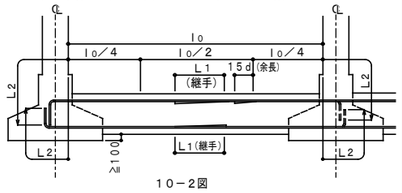
１０　基礎梁

1　基礎梁筋の継手及び定着
（1）　一般事項
（Ⅰ）上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。
（Ⅱ）梁筋は　原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。
　　但し、やむを得ずはり内に定着する場合は、１０－１図による。
（Ⅲ）梁筋を柱内に定着する場合は、柱の中心を越えてから定着させる。



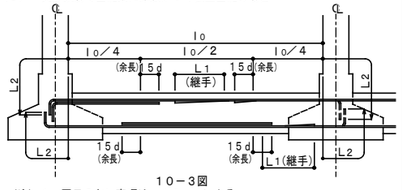
１０－１図

（2）　異形鉄筋で基礎梁に床版がつかない独立基礎の場合



１０－２図

（3）　異形鉄筋で基礎梁に床版がつく独立基礎の場合

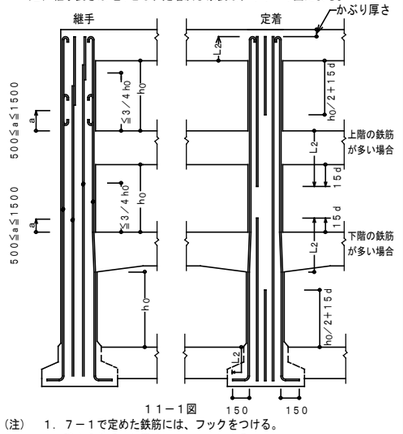


１０－３図

（注）1．図示のない事項は、１２－１による。
　　2．━━━ 印は、継手及び余長位置を示す。
　　3．破線は、柱内定着の場合を示す。
2　あばら筋、腹筋及び幅止め筋
（1）　あばら筋
（Ⅰ）　あばら筋の径及び間隔は特記による。
（Ⅱ）　幅止め筋及び受け用幅止め筋はＤ１０－１０００@とする。
（Ⅲ）　腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、１５０mmとする。
（Ⅳ）　壁ばりの場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは L2とする。
（2）　腹筋及び幅止め筋
腹筋及び幅止め筋は１２－２（１）（Ⅱ）（Ⅲ）及び１２－２（４）による。
但し、梁成が１．５m以上の場合は特記による。
（3）　あばら筋の割付け
あばら筋の割付けは、１２－２（３）による。

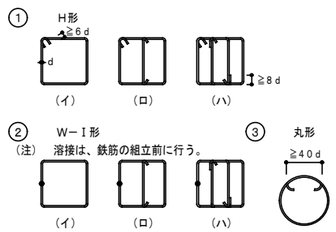
１１　柱

1　柱筋の継手及び定着
（1）一　般　事　項
（Ⅰ）継手及び圧接中心位置は、梁上端から５００mm以上、１５００mm以下かつ、３／４ ho（hoは柱の内のり高さ）以下とする。
（Ⅱ）継手長さは L1とし、定着及び余長は、１１－１図による。



１１－１図

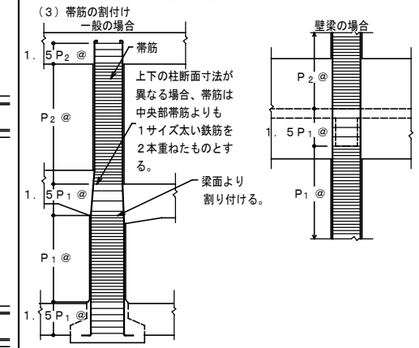
（注）　1．７－１で定めた鉄筋には、フックをつける。
　　2．隣合う継手の位置は、８－１表による。
　　3．継手・定着は全ての階に適用できる。
2　帯　　筋
（1）帯筋組立ての形は、１１－２図とし、下記による。
（Ⅰ）Ｈ形とする。
（Ⅱ）Ｈ形の１３５°曲げのフックが困難な場合は、Ｗ－Ⅰ形とする。
（Ⅲ）溶接する場合は、フラッシュバット溶接又は同等の溶接方法とする。



（注）　溶接は、鉄筋の組立前に行う。

１１－２図

（2）フック及び継手の位置は、交互とする。
（3）帯筋の割付け

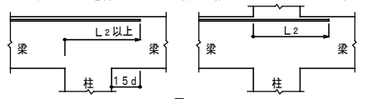


（注）　1．図示のない事項については、一般の場合に同じ。
　　2．柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を１．５P1 @又は、１．５P2 @とする範囲は全ての方向の梁を考慮して適用する。
　　3．柱・大梁仕口部の帯筋は、柱中央部の帯筋と同形状とする。
　　但し、監督職員の承認を受けて、中央部帯筋より１サイズ太い鉄筋で、１１－２図（イ）及び１１－３図（イ）の形状とすることができる。

１１－４図

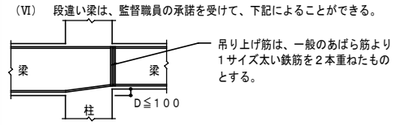
１２　大　梁

1　大梁筋の継手及び定着
（1）一般事項
（Ⅰ）　継手及び圧接中心位置は、下記による。
　　上端筋：中央 lo／２以内
　　下端筋：柱面より梁せい以上離し lo／４以内
（Ⅱ）　継手長さは L1とし、定着長さ及び余長は、１２－３図及び１２－４図による。
（Ⅲ）　梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。
　　但し、やむを得ずはり内に定着する場合は、１２－１図による。



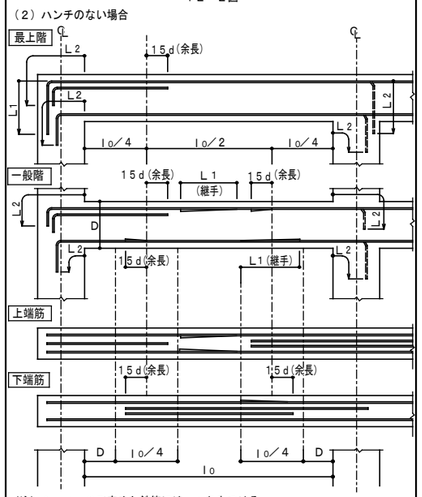
１２－１図

（Ⅳ）　梁筋を柱内に定着する場合は、柱の中心軸を越えてから縦に降ろす。
（Ⅴ）　梁にハンチをつける場合、その傾斜は１：４とする。
（Ⅵ）　段違い梁は、監督職員の承諾を受けて、下記によることができる。



１２－２図

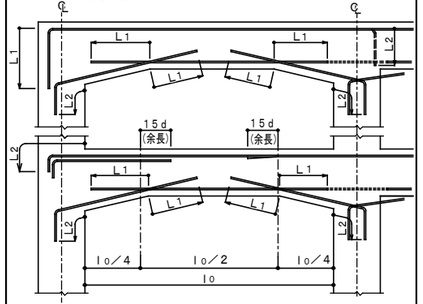
（2）ハンチのない場合



（注）　1．７－２で定めた鉄筋にはフックをつける。
　　2．━━━ は、継手、及び余長を示す。
　　3．破線は、柱内定着を示す。

１２－３図

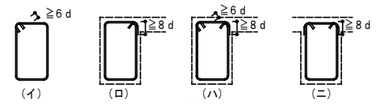
（3）ハンチのある場合



（注）　1．　７－２で定めた鉄筋にはフックをつける。
　　2．　━━━ は、継手、及び余長を示す。
　　3．　梁内定着の端部下端筋が接近するときは、点線のように引通すことができる。
　　4．　破線は、柱内定着を示す。

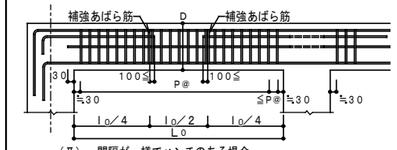
１２－４図

2　あばら筋、腹筋及び幅止め筋
（1）　一般事項
（Ⅰ）　あばら筋の径及び間隔は、特記による。
（Ⅱ）　幅止め筋及び受け用幅止め筋はＤ１０－１０００@とする。
（Ⅲ）　腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、１５０mmとする。
（Ⅳ）　壁ばりの場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは L2とする。
（2）　あばら筋組立ての形及びフック位置
（Ⅰ）　形は、１２－５図（イ）とする。但し、Ｌ形梁の場合は（ロ）又は（ハ）とすることができ、Ｔ形梁の場合は（ロ）～（ニ）を適用できる。

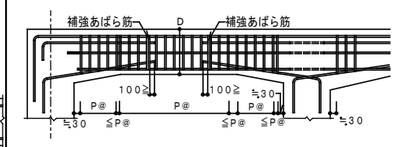


１２－５図

（Ⅱ）　フックの位置は、（イ）の場合は交互とし、（ロ）の場合は、Ｌ形では床版のつく側、Ｔ形では交互とする。
　　尚、（ハ）の場合は床版のつく側を９０°折曲げとする。
（3）　あばら筋の割付け
（Ⅰ）　間隔が一様でハンチのない場合



（Ⅱ）　間隔が一様でハンチのある場合

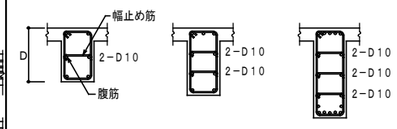


（注）1．あばら筋は、柱面の位置から約３０mm寄った位置から割付ける。
　　2．補強あばら筋は梁中央部あばら筋と同径とし、形状は１２－５図（イ）とする。

１２－６図

（4）　腹筋及び幅止め筋
（Ⅰ）　一般の梁

600≦D＜900　　900≦D＜1，200　　1，200≦D＜1，500



１２－７図

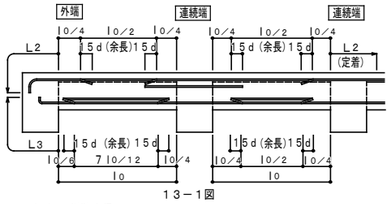
関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社　建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録　第265505号　前田　健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	構造配筋基準（１）	縮尺 1： 1： 1：	図面番号 S－08

構　造　配　筋　基　準　（　２　）

１３　小梁

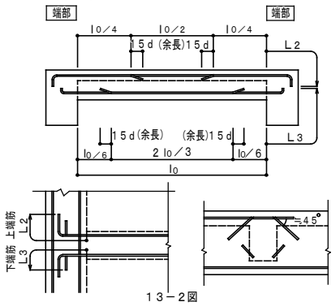
１　小梁筋の継手及び定着

（１）　連続小梁



１３－１図

（２）　単独小梁



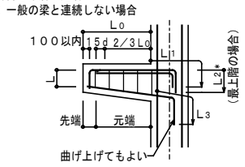
１３－２図

（注）１．　図示のない事項は、１０．基礎梁及び１２．大梁による。
　　２．　━━━　印は、継手及び余長位置を示す。

１４　片持ち梁

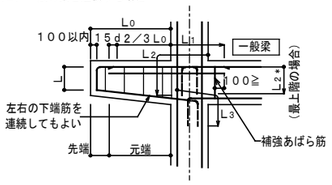
１　片持ち梁筋の定着

（１）一般の梁と連続しない場合



１４－１図

（２）一般の梁と連続する場合

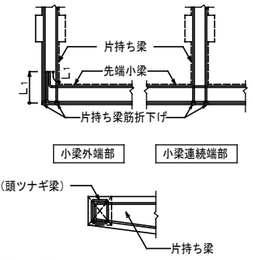


（注）１．図示のない事項は、共仕５．６．１による。
　　２．先端の折曲げ長さＬは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
　　３．梁筋を引き通さない場合は、取合い部材に定着する。
　　ただし、柱に取合う場合は、全数引き通せる場合でも上端筋は２本以上を柱に定着する。

１４－２図

（３）先端に小梁がある場合

水平断面



（注）１．図示のない事項は、（１）による。
　　２．先端小梁終端部の主筋は、片持ち梁内に水平定着する。
　　３．先端小梁の連続端は、片持ち梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

１４－３図

１５　壁

１　一般事項

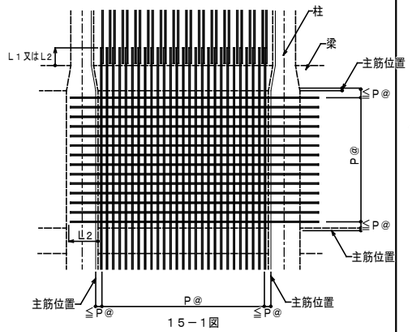
（１）壁配筋の継手及び定着の長さは、L_2とする。

（２）土圧などを受ける壁及び耐震壁として特記されたものは、継手長さをL_1、定着長さをL_2とする。

（３）継手及び定着の長さがとれない場合は、監督職員の承諾を受けて、両面フレア溶接の場合は５ｄ以上、片面フレア溶接の場合は１０ｄ以上とすることができる。

（４）幅止め筋は、縦、横共Ｄ１０－１０００@とする。

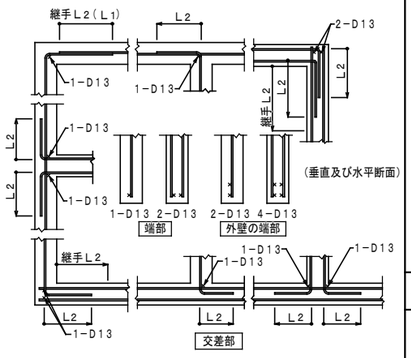
（５）一般部壁筋の配筋は１５－１図による。



１５－１図

（６）上記ａの範囲内の鉄筋は直交する鉄筋とすべて結束する。

２　交差部及び端部の配筋



（注）１．（　）内は、１５．１．（２）による継手長さを示す。

１５－２図

３　壁開口部の補強

（１）壁開口部の補強筋は、１５－４表のＡ形及び１５－５表のＢ形とし、特記がなければＡ形とする。但し、耐震壁を除く。

１５－４表　　Ａ　　形

壁の種別	補強筋	
	縦、横	斜め
W12、W15	1－D13	＊ 1－D13
W18、W20	2－D13	2－D13

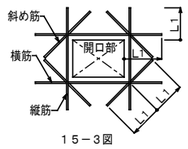
（注）　＊ダブル配筋の場合は、各２－Ｄ１３とする。

１５－５表　　Ｂ　　形

壁の種別	補強筋	
	縦、横	斜め
W12、W15	2－D13	＊ 1－D13
W18、W20	4－D13	2－D13

（注）　＊ダブル配筋の場合は２－Ｄ１３とする。

（２）壁開口部補強筋の定着長さ

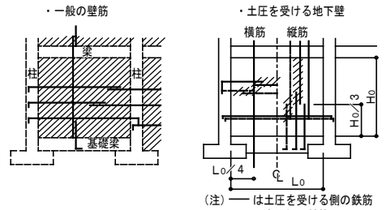


１５－３図

（３）開口部が柱及び梁に接する部分又は最大径が３００mm以下で、鉄筋を穏やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

（４）継手位置

▨　は継手を設けるのに好ましい位置を示す。

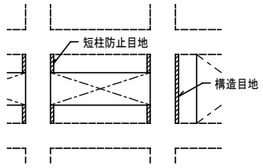


（注）━━　は土圧を受ける側の鉄筋
　　┅┅　は室内側の鉄筋

１５－４図

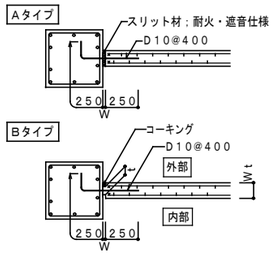
４　壁スリット（短柱防止　構造目地）

（１）　腰壁、たれ壁の耐震スリットの位置は設計図によるものとする。



１５－５図

（２）　断面形状及び補強筋の配筋は下図による。

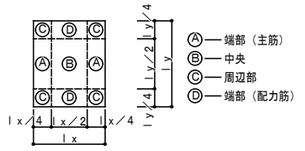


注）１．ｔは７０mmかつ$W/2$　以下とする。
　　２．Ｗは壁内法高さの$1/100$以上とする。
　　３．壁端部縦筋はＤ１３かつ縦筋以上とする。

１６　床　版

１　一般事項

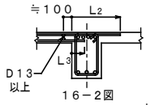
（１）床版の基準配筋は、設計図による。
　　配筋は中央から割付け、端部は定められた間隔の$1/2$以下とする。



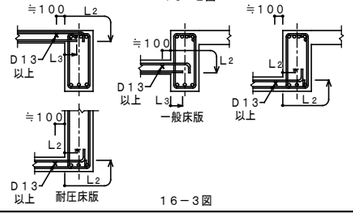
１６－１図

（２）鉄筋の継手長さは、L_1とする。

（３）定着長さ及び受け筋
　　定着長さ及び受け筋は、１６－２図による。但し、引通すことができない場合、１６－３図により梁内に定着する。



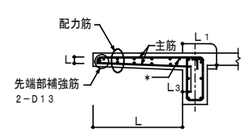
１６－２図



１６－３図

１７　片持ち床版

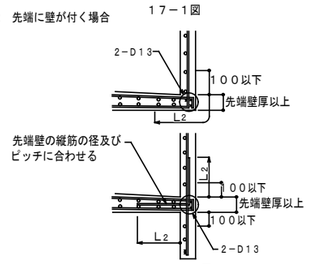
１　一般部



（注）１．先端の折曲げ長さＬは、床版厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
　　２．床版に段差のない場合は、主筋を引き通して床版に定着してもよい。
　　３．＊印の鉄筋は、Ｌ＞１０００　１－Ｄ１６，Ｌ≦１０００　１－Ｄ１３とする。

２　先端に壁が付く場合

１７－１図

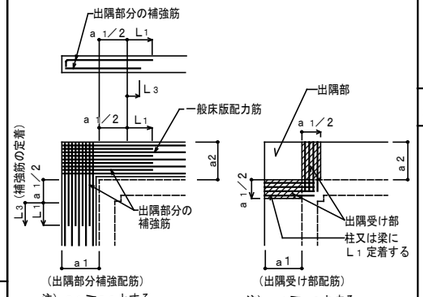


１７－２図

３　出隅部

（１）補強の配筋は特記による。
　　特記がなければＤ１０－１００@ダブルとする。
　　配筋方法は、１７－３図による。

（２）出隅受け部（１７－３図のハッチ部分）の配筋はＤ１３@１５０ダブルとする。

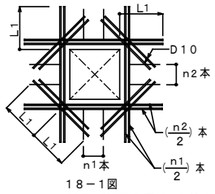


１７－３図

１８　床版開口部の補強

１　床版開口部の補強
　　床版開口部の補強は特記による。特記がなければ下記による。

（１）床版開口の最大径が７００mm以下の場合は、１８－１図により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に２－Ｄ１０（ｌ＝２Ｌ１）シングルを上下筋の内側に配筋する。

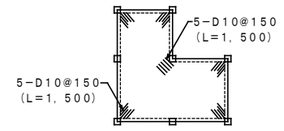


１８－１図

２　床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を穏やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

１９　屋根床版及び大型床版の補強

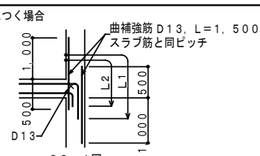
１　屋根床版及び大型床版（２０㎡≦）
　　床版の出隅及び入隅部分には１９－１図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



１９－１図

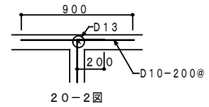
２０　床版と壁

１　床版が壁につく場合



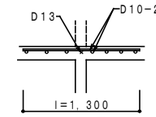
２０－１図

２　床版の下に間仕切壁がつく場合



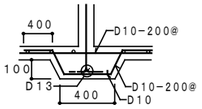
２０－２図

３　壁つき床版
　　床版に上端筋がなく、壁がついている場合には、図の補強筋を入れる。



２０－３図

４　壁つき土間コンクリート

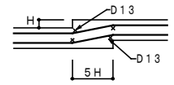


２０－４図

２１　段差のある床版

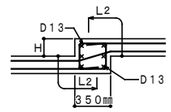
１　段差のあるスラブの補強
　　１５０mm以下の段差のあるスラブの補強は、２１－１図による。

（ａ）段差が７０mm以下の場合



２１－１図

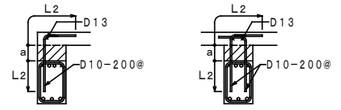
（ｂ）段差が７０mmを超え、１５０mm以下の場合



２１－２図

２２　土間コンクリート・土間スラブ

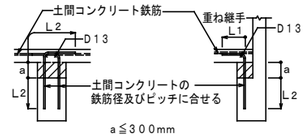
１　土間スラブの打継ぎ補強筋
　　基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は特記による。特記がなければ２２－１図による。



a≦３００mm

２２－１図

２　土間コンクリートの補強筋
　　土間コンクリートの鉄筋は特記による。
　　尚、基礎梁との接合部は２２－２図による。



a≦３００mm

２２－２図

２３　梁貫通孔の補強

１　梁貫通孔の補強は特記による。特記がなければ下記による。

（１）梁貫通孔補強筋の名称などは、２３－１図による。

（２）孔の径は、梁成の$1/3$以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。

（３）孔の上・下方向の位置は、２３－２図による。

（４）孔の中心位置の限度は、柱及び直交する梁（小梁）の面から原則として１．２Ｄ（Ｄは、梁成）以上離す。

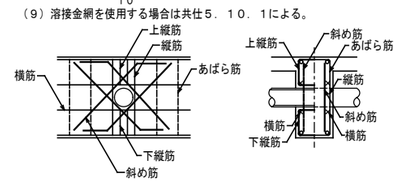
（５）孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の３倍以上とする。

（６）縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。

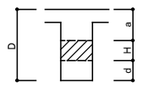
（７）補強筋は主筋の内側とする。やむを得ない場合は監督職員の承諾を受けて外側とすることができる。又、鉄筋の定着長さは２３－３図による。

（８）貫通孔の径が$D/10$以下かつ１５０mm未満の場合は補強を省略してよい。

（９）溶接金網を使用する場合は共仕５．１０．１による。

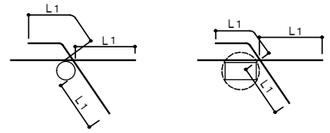


２３－１図



５００≦Ｄ＜７００　　ｄ　１７５
７００≦Ｄ＜９００　　ｄ　２００
９００≦Ｄ　　ｄ　２５０

２３－２図

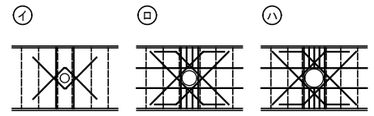


２３－３図

（９）補強形式及び配筋種別は、下表による。

（Ｉ）　Ｈ型配筋

適用範囲（φ	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
$\frac{D}{10}$＜H≦100	2－2－D13	2－2－D13	なし	なし	イ
100＜H≦200	4－2－D13	2－2－D13	2－2－D13	2－2－D13	ロ
200＜H≦300	4－2－D16	2－2－D13		2－2－D13	
300＜H≦400	4－2－D16 4－2－D19 4－2－D22	4－2－D13	2－2－D13	3－2－D13	ハ



２．リング型補強筋

（１）監督職員の承諾を得て使用することができる。（全数同一メーカーの製品を使用すること。）

（２）鉄筋型と同等以上の耐力があることを確認した検討書及び建設省技術評定書又は、（財）日本建築センター評定書を提出し監督職員の承諾を得ること。

（３）孔の径が$\frac{D}{10}$以下かつ１５０未満の場合は、補強筋を省略してよい。

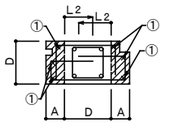
３．梁貫通孔補強筋数量

Ｈ＝１００　────　４７ヶ所
Ｈ＝１５０　────　５５ヶ所
Ｈ＝２００　────　４９ヶ所
Ｈ＝２５０　────　４１ヶ所
Ｈ＝３００　────　７ヶ所

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社　建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録　第265505号　前田　健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	構造配筋基準（２）	縮尺 1： 1： 1：	図面番号 S－０９

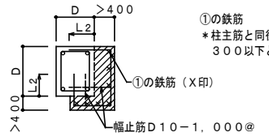
構　造　配　筋　基　準　（　３　）

２４　柱の打増し



①の鉄筋
＊７０≦Ａ≦２００ではＤ１６@≦３００とする。
＊２００＜Ａ≦４００では柱主筋の一段落しピッチは３００以下とする。

２４－１図



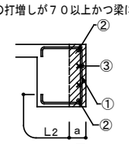
①の鉄筋
＊柱主筋と同径とし、ピッチは３００以下とする。

２４－２図

1．横筋は帯筋と同一径で、同間隔とする。
2．打増し寸法が７０未満の場合、補強筋はなくてもよい。
3．梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。

２５　梁の打増し

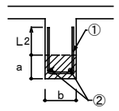
1　梁の打増しが７０以上かつ梁に接合する壁厚の $2/3$ 以上の場合



＊①の鉄筋は梁中央のあばら筋と同径及び同ピッチとする。
＊②の鉄筋は７０≦ａ≦２００ではＤ１６、ａ＞２００では梁主筋の一段落しとし柱への定着はＬ１とする。
＊③の鉄筋は１２－４による。

２５－１図

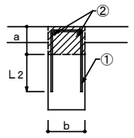
2　梁下端の打増し成が７０以上の場合



＊①の鉄筋は梁中央のあばら筋と同径及び同ピッチとする。
＊②の鉄筋は７０≦ａ≦２００ではＤ１６、ａ＞２００では梁主筋の一段落しで、ｂ≦３５０では2本、ｂ＞３５０では3本とし、柱への定着はＬ１とする。

２５－２図

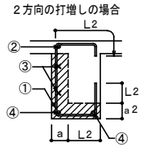
3　梁上端の打増し成が７０以上の場合



＊①の鉄筋は梁中央のあばら筋と同径及び同ピッチとする。
＊②の鉄筋は７０≦ａ≦２００ではＤ１６、ａ＞２００では梁主筋の一段落しで、ｂ≦３５０では2本、ｂ＞３５０では3本とし、柱への定着はＬ１とする。

２５－３図

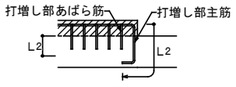
4　２方向の打増しの場合



＊①の鉄筋は梁中央のあばら筋と同径及び同ピッチとする。
＊②の鉄筋は７０≦ａ≦２００ではＤ１６、ａ＞２００では梁主筋の一段落しとし柱への定着はＬ１とする。
＊③の鉄筋は１２－４による。
＊④の鉄筋は７０≦ａ≦２００ではＤ１６、ａ＞２００では梁主筋の一段落しで、ｂ≦３５０では2本、ｂ＞３５０では3本とし、柱への定着はＬ１とする。

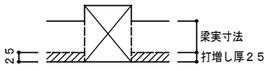
２５－４図

5　梁の途中で打増しが終わる場合



２５－５図

6　梁面と柱面が同一となる場合は、配筋を考慮して、下記の通り打増しする。

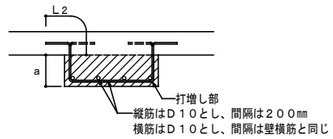


２５－６図

7　小梁・耐力壁及び床版の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。

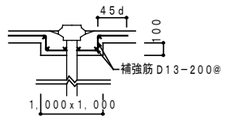
２６　壁の打増し補強筋

1　壁の打増し補強筋は２６－１図により、打増し厚さが５０㎜以上２００㎜以下に適用する。



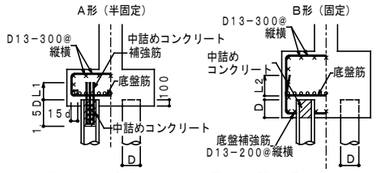
２６－１図

２７　ルーフドレン部補強



２８　杭頭補強

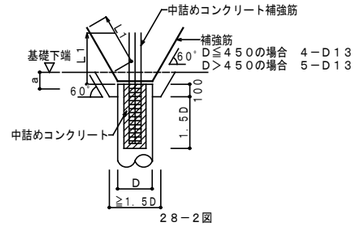
1　杭頭補強の方法は２８－１図のＡ形又はＢ形とし、特記がなければＡ形とする。尚、中詰めコンクリートは基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。



（注）　1．中詰めコンクリート補強筋は下記による。
・　杭径３００φ以下　　4－D13
・　杭径３５０φ－４００φ以下　　6－D13
・　杭径４５０φ－６００φ以下　　8－D13
・　帯筋はＤ１０－１００@
2．Ｌ１ には、フックをつけない。

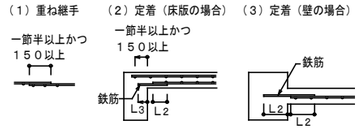
２８－１図

2　杭頭が所定の位置より深く止った場合。
（1）　ａ＝１，０００以内の場合。



２８－２図

２９　溶接金網の継手及び定着



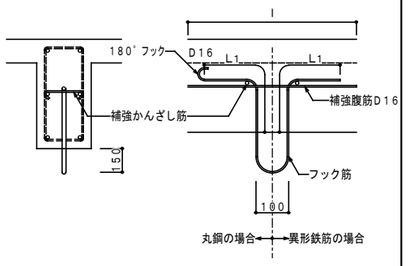
２９－１図

３０　機械吊上げ用フック

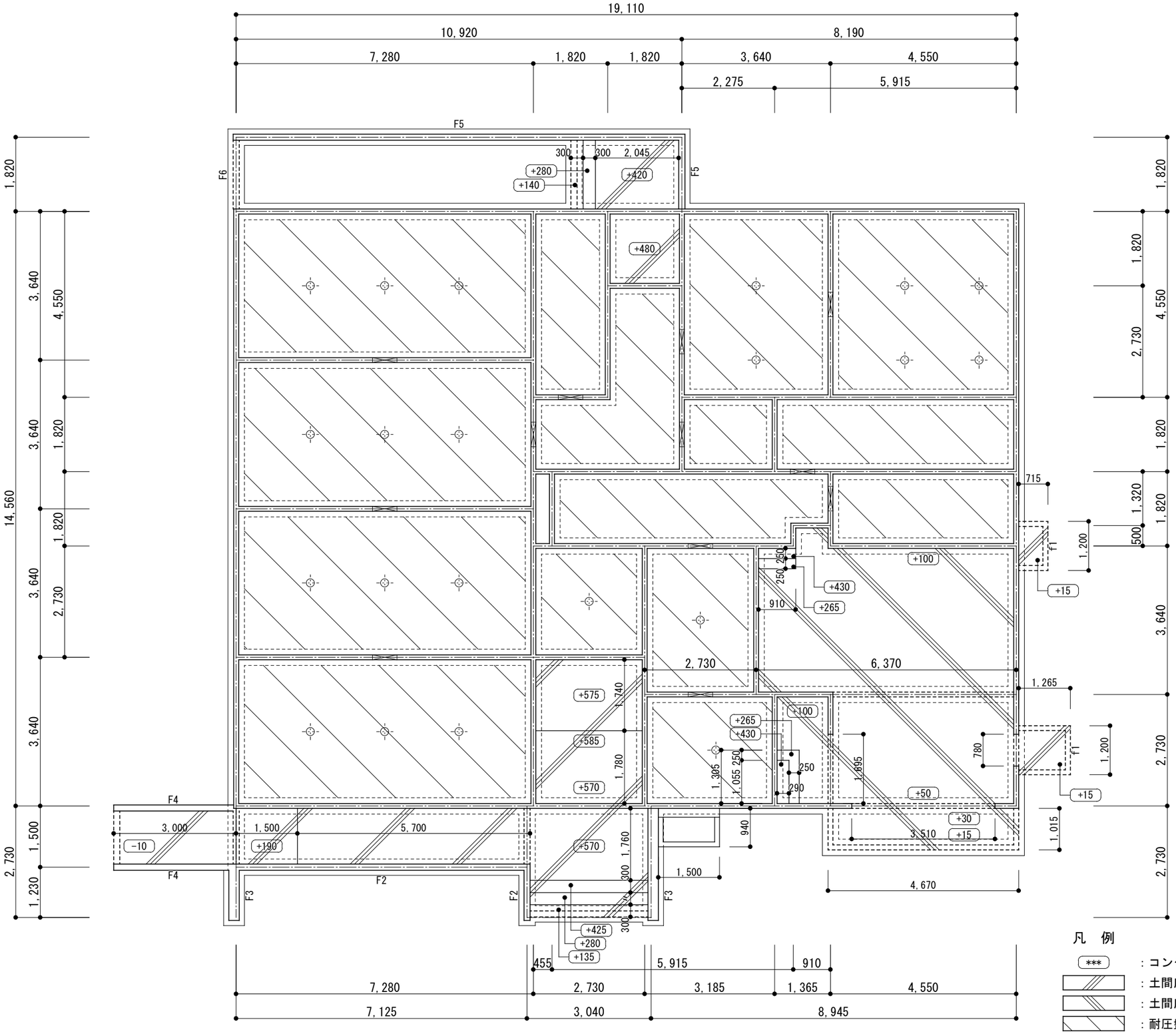
1　梁に設ける機械吊上げ用フックは３０－１表，３０－１図により、種別は特記による。

３０－１表　機械吊上げ用フック

種　　別	Ａ　種	Ｂ　種	Ｃ　種
フック筋	φ２５又はＤ２５	φ２２又はＤ２２	φ１９又はＤ１９
曲げ内のり直径（㎜）	１００		
補強かんざし筋	２－Ｄ１６		
補強腹筋（㎜）	D16，L=900	D16，L=750	D16，L=600
吊上げ荷重（ＫＮ）	５０≧W＞３０	３０≧W＞１０	１０≧W



３０－１図



基礎伏図 S=1:100

※特記無き基礎はF1とする

凡 例

***	：コンクリート天端レベルを示す(設計GLからの高低差)
	：土間床 … t150 D10@200 シングル
	：土間床 … t150 D13@200 シングル
	：耐圧盤 … t150 D10@200 シングル
	：人通口 … W600×H450 補強筋1-D13(縦・横・斜)
	：鋼製束 … H1,000程度

関内地区地域会館新築工事（建築主体）

株式会社 建築設計工房ロゴス
１級建築士事務所 登録 （渡）第 156号
１級建築士登録 第265505号 前田 健二

特記事項

訂正事項

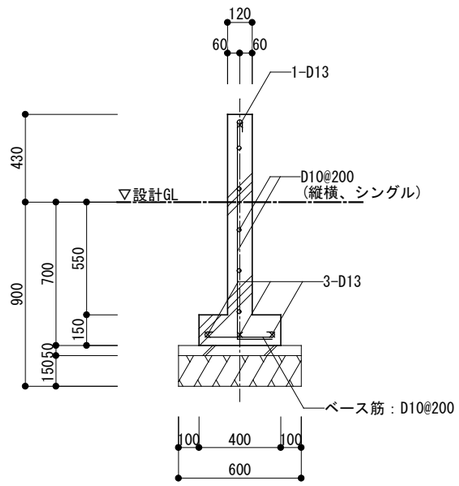
検図	担当	作成

基礎伏図

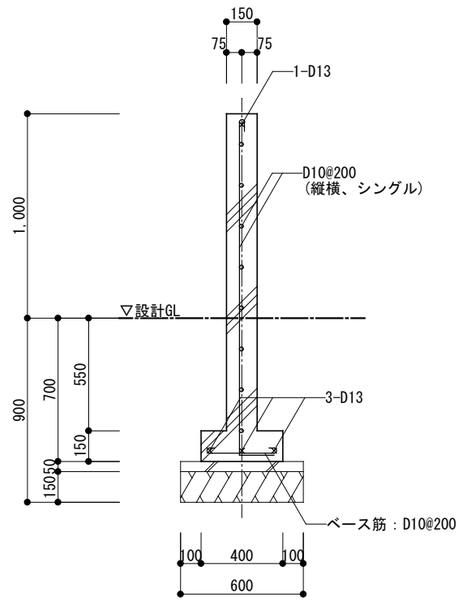
縮尺	図面番号
1：100 1： 1：	S－11

基礎詳細図 S=1:30

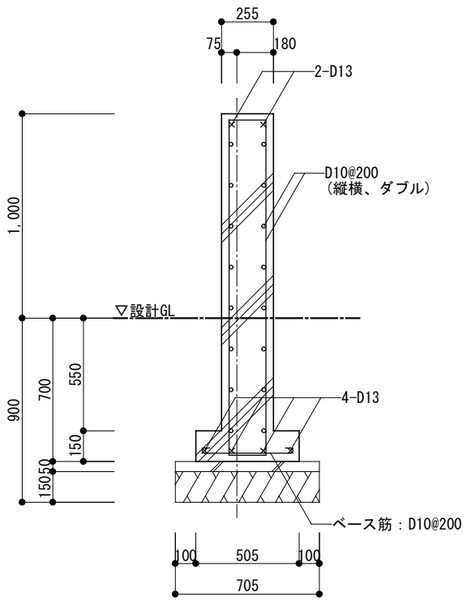
F1



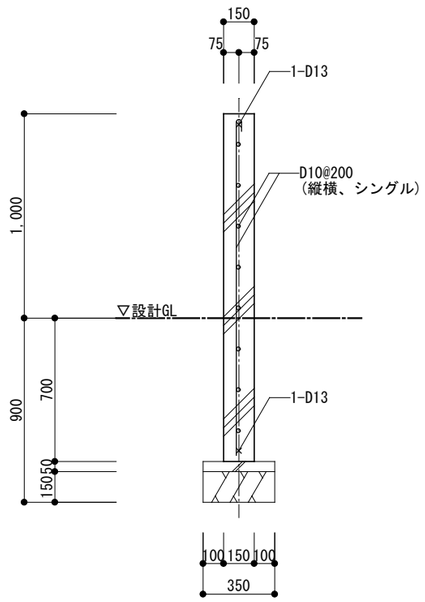
F2



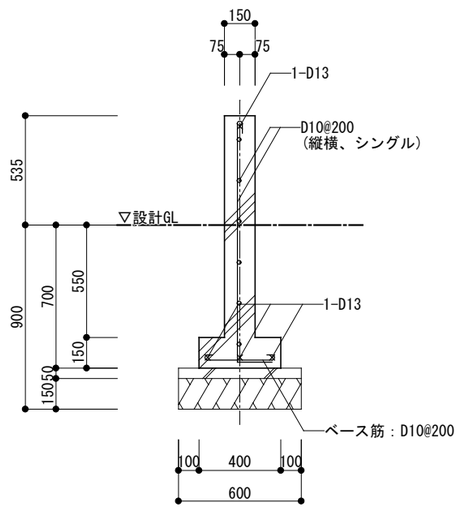
F3



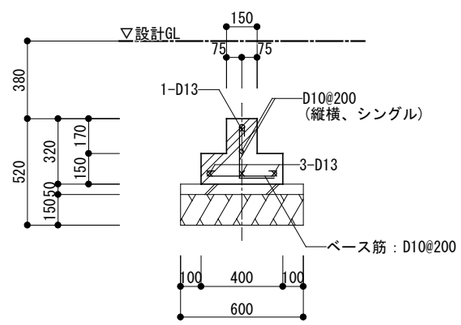
F4



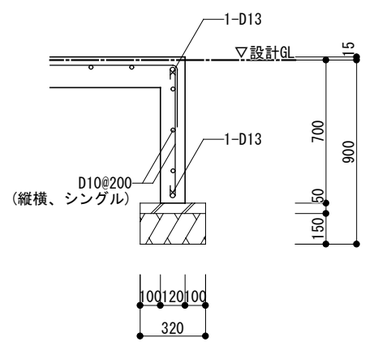
F5



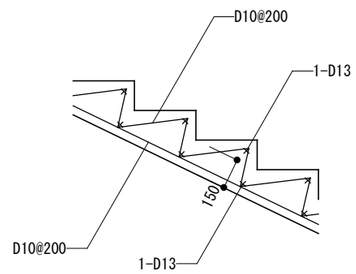
F6



f1



階段



関内地区地域会館新築工事（建築主体）

株式会社 建築設計工房ロゴス
１級建築士事務所 登録 （渡）第 156号
１級建築士登録 第265505号 前田 健二

特記事項

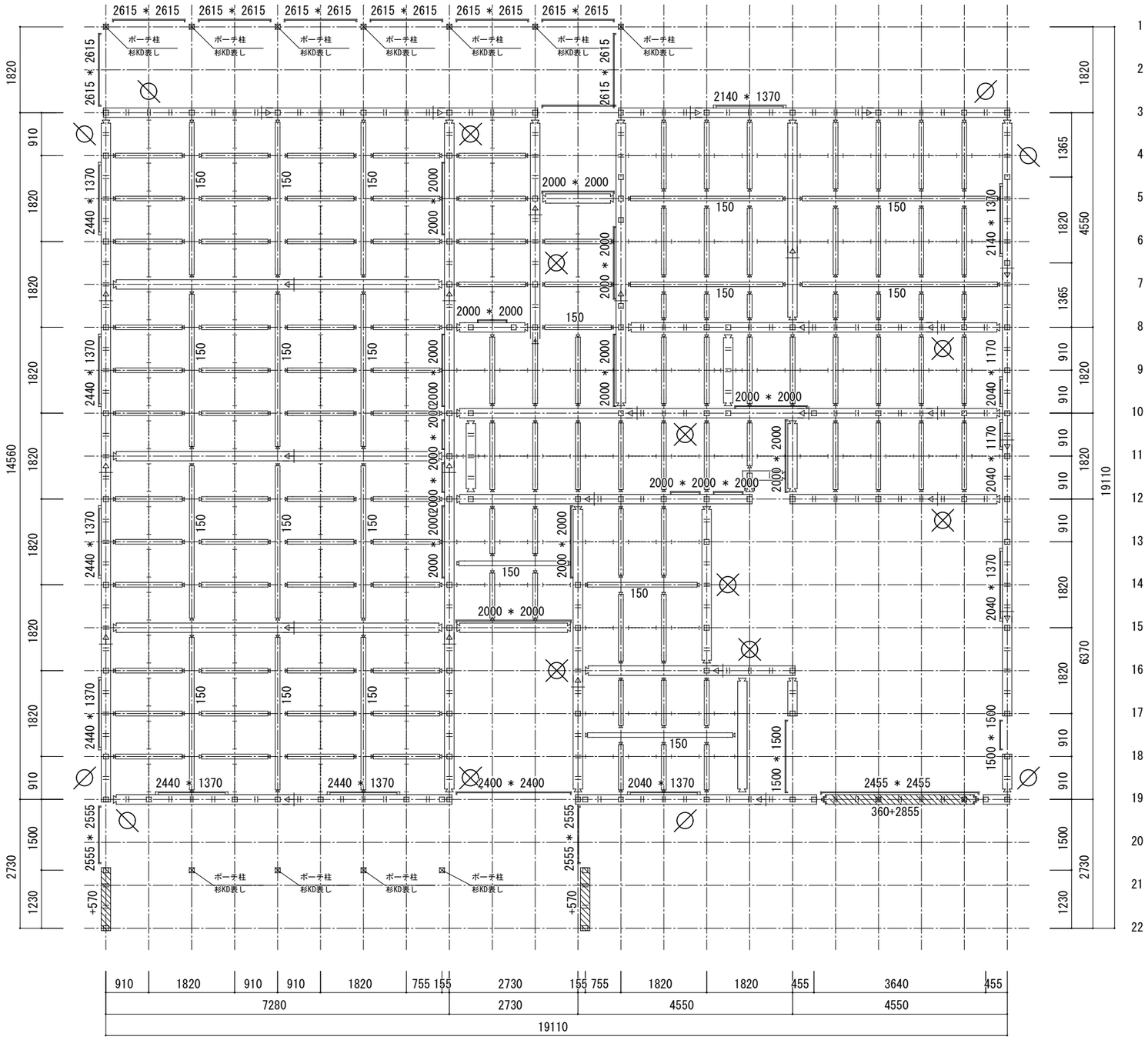
訂正事項

検図	担当	作成

基礎詳細図

縮尺	図面番号
１：３０	Ｓ－１２
１：	
１：	

ら　な　ね　つ　そ　れ　た　よ　か　わ　を　る　ぬ　り　ち　と　へ　ほ　に　は　ろ　い

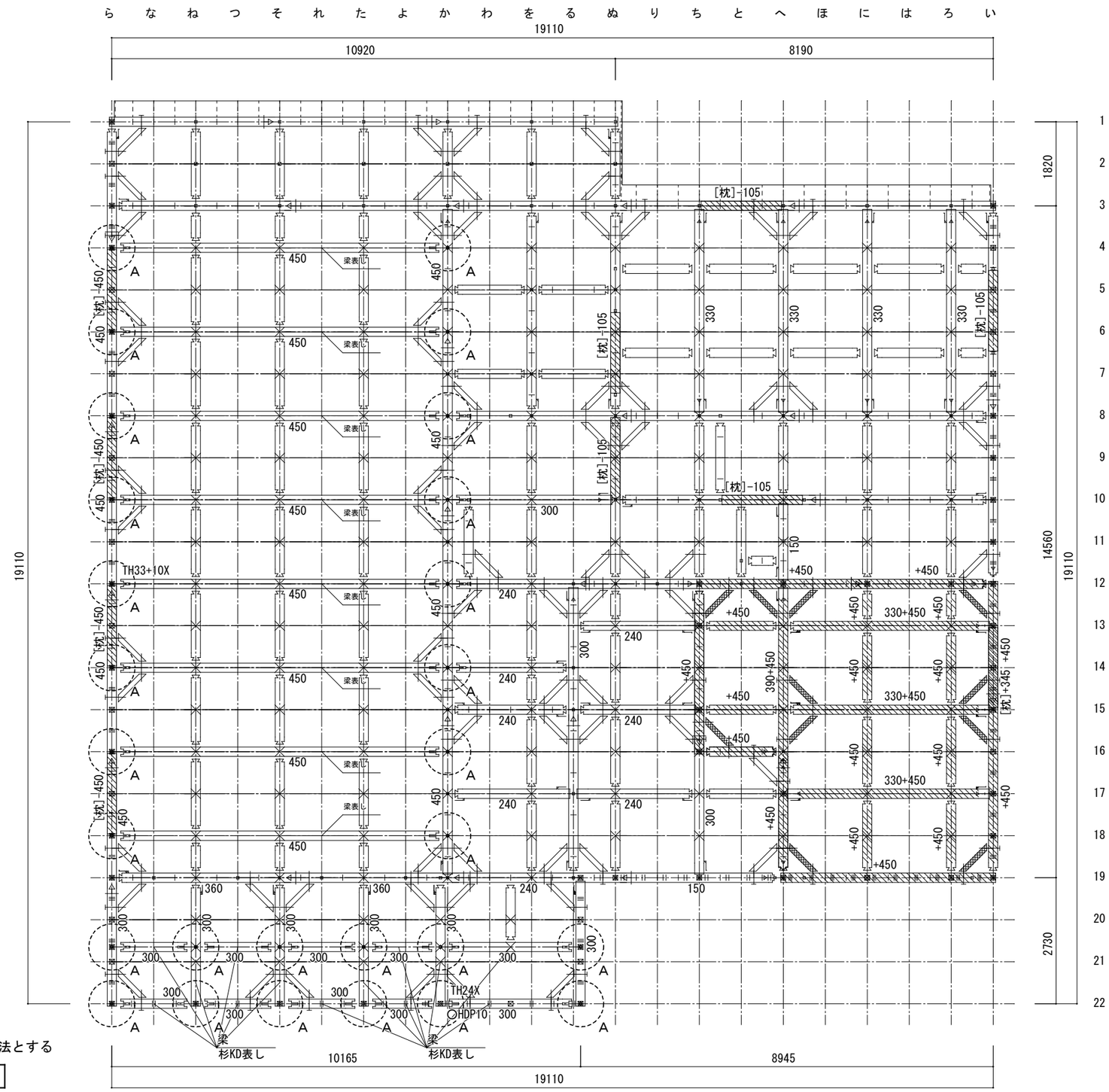


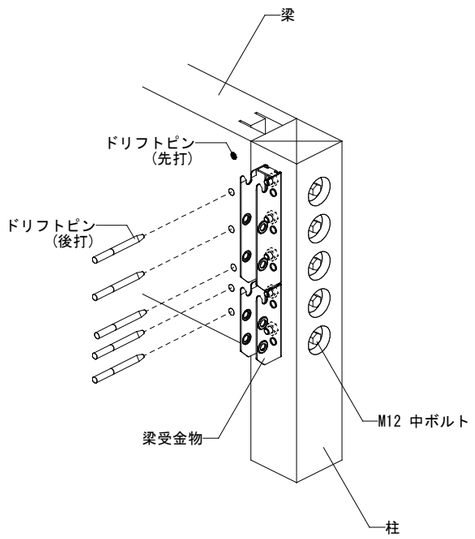
床伏図 S=1:100

※特記無き横架材は 105*105 とする

継手・仕口	
	鎌継
	蟻継
	乗継
	追掛
	蟻掛
	蟻大入掛け
	逆さ蟻大入
	桁差し
	兜蟻大入
	茶臼蟻大入
	胴差し
	横差し
柱	
	通し柱
	管柱
	半柱
	特殊柱
	小屋束
	吊束
	束立
	床束
	下部軸組柱
筋違	
	90*30 ダブル
	90*30 シングル

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	床伏図	縮尺 1：100	図面番号 S－13





※Ａ部の柱ー梁接合部は、梁受金物を用いた金物工法とする

Ａ部 柱ー梁 納まり参考図

梁伏図 S=1:100

※特記無き横架材は 105*105 とする

継手・仕口	
	鎌継
	蟻継
	乗継
	追掛
	蟻掛
	蟻大入掛け
	逆さ蟻大入
	桁差し
	兜蟻大入
	茶臼蟻大入
	胴差し
	横差し
柱	
	通し柱
	管柱
	半柱
	特殊柱
	小屋束
	吊束
	束立
	床束
	下部軸組柱
筋違	
	90*30 ダブル
	90*30 シングル

関内地区地域会館新築工事（建築主体）

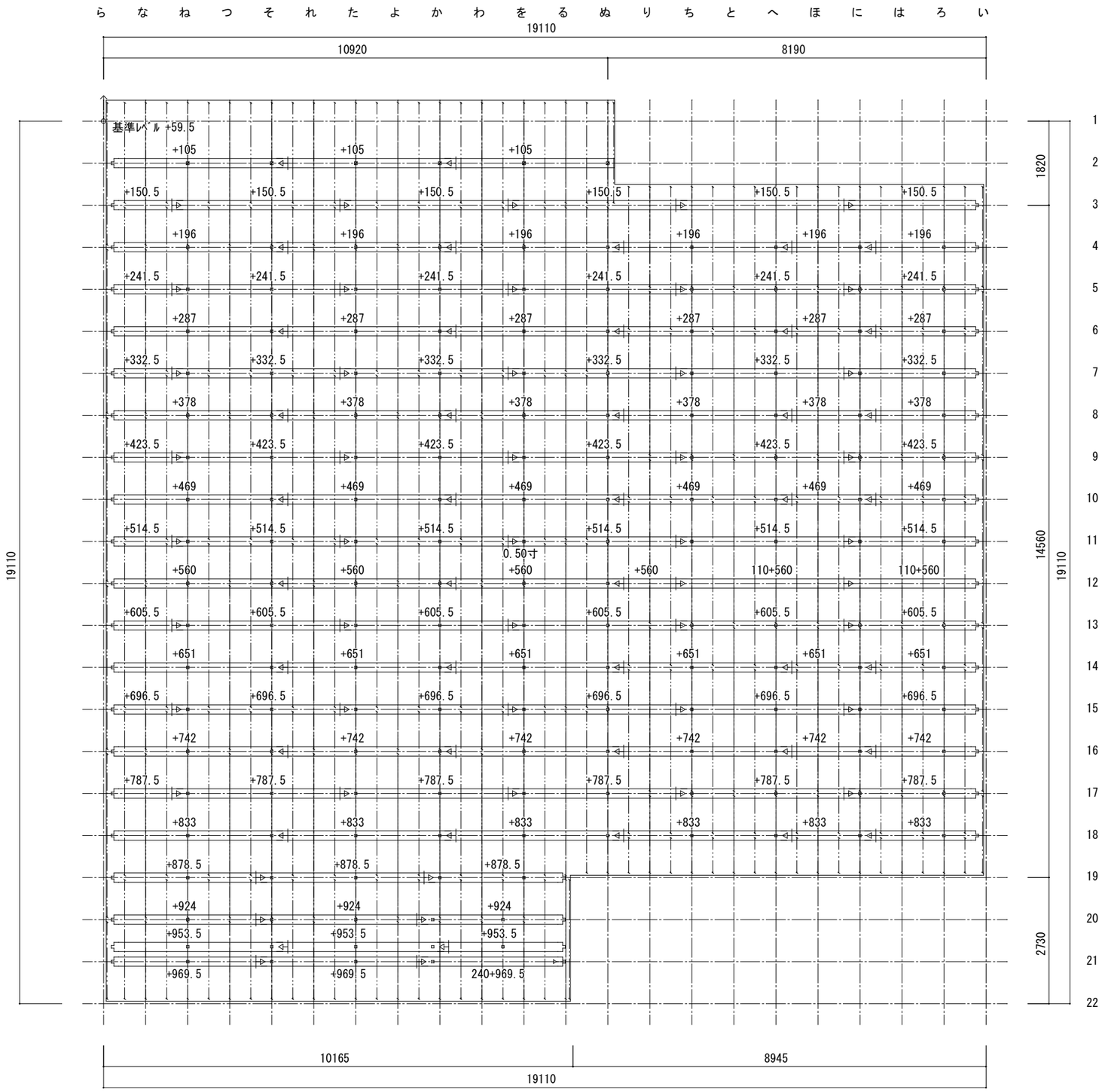
株式会社 建築設計工房ロゴス
１級建築士事務所 登録 （渡）第 156号
１級建築士登録 第265505号 前田 健二

特記事項
訂正事項

検図	担当	作成

梁伏図

縮尺	図面番号
１：１００	Ｓ－１４
１：	
１：	



小屋伏図 S=1:100

※特記無き横架材は 105*105 とする

継手・仕口	
	鎌継
	蟻継
	乗継
	追掛
	蟻掛
	蟻大入掛け
	逆さ蟻大入
	桁差し
	兜蟻大入
	茶臼蟻大入
	胴差し
	横差し
柱	
	通し柱
	管柱
	半柱
	特殊柱
	小屋束
	吊束
	束立
	床束
	下部軸組柱
筋違	
	90*30 ダブル
	90*30 シングル

関内地区地域会館新築工事（建築主体）

株式会社 建築設計工房ロゴス
１級建築士事務所 登録 （渡）第 156号
１級建築士登録 第265505号 前田 健二

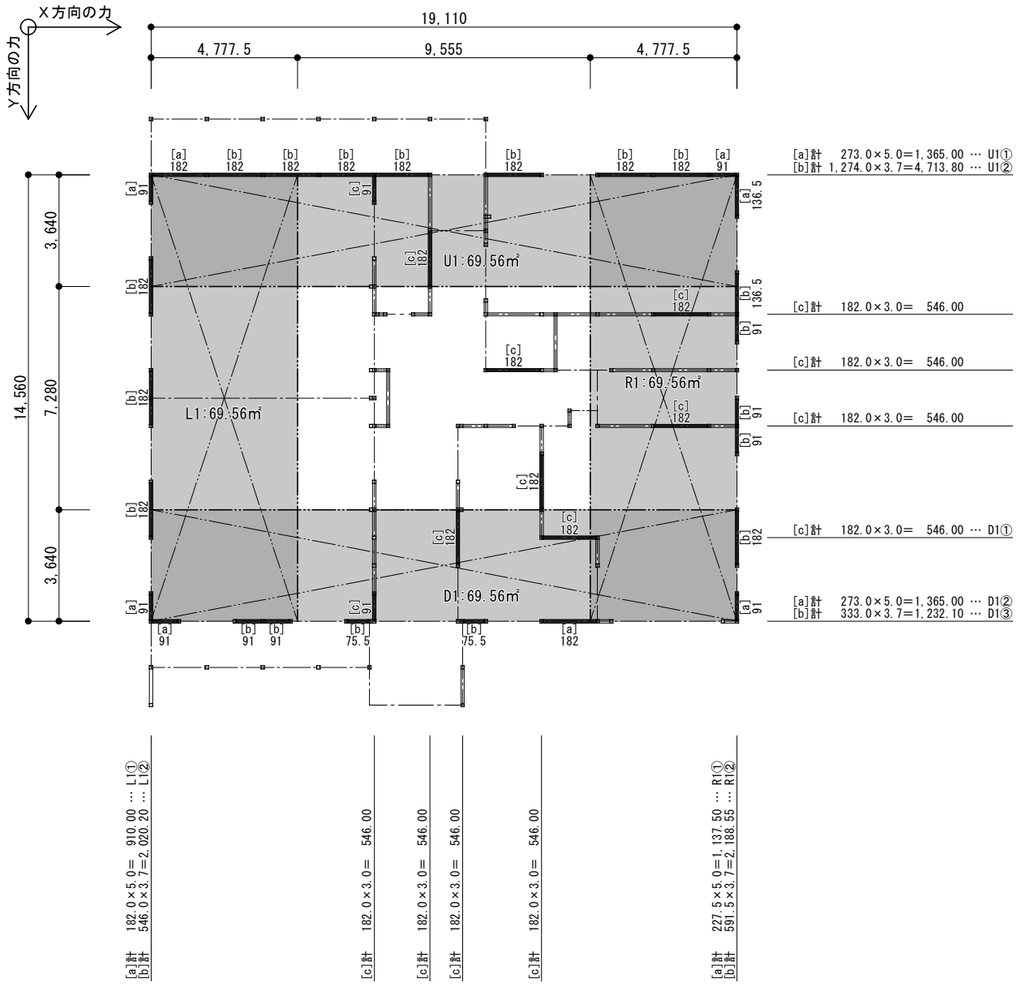
特記事項

訂正事項

検図		担当	作成

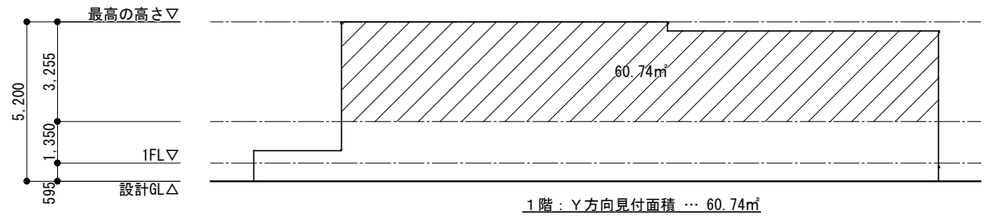
小屋伏図

縮尺	図面番号
１：１００	Ｓ－１５
１：	
１：	



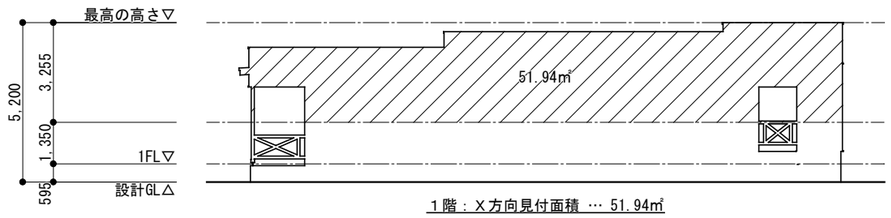
1階：壁量計算対象床面積 … 278.23㎡

耐力壁配置図 S=1:200



1階：Y方向見付面積 … 60.74㎡

Y方向見付図 S=1:200



1階：X方向見付面積 … 51.94㎡

X方向見付図 S=1:200

■壁倍率

[a]：1.5(30×90筋かいシングル) ＋ 3.7(t9.0構造用合板) ＝ 5.2 ⇒ 5.0倍
[b]：3.7(t9.0構造用合板) ＝ 3.7倍
[c]：3.0(30×90筋かいダブル) ＝ 3.0倍

■必要壁量

階数	地震力による必要壁量(㎡×cm/㎡=cm)	風圧力による必要壁量(㎡×cm/㎡=cm) X	風圧力による必要壁量(㎡×cm/㎡=cm) Y	設計壁量 X	設計壁量 Y	判定 X	判定 Y
1	278.23 × 11 ＝ 3,060.53	51.94 × 50 ＝ 2,597.00	60.74 × 50 ＝ 3,037.00	[a] 2,730.00 [b] 5,945.90 [c] 2,184.00 合計 ＝ 10,859.90	[a] 2,047.50 [b] 4,208.75 [c] 2,184.00 合計 ＝ 8,440.25	必要壁量 3,060.53 ＜ 設計壁量 10,859.90 ＯＫ	必要壁量 3,060.53 ＜ 設計壁量 8,440.25 ＯＫ

■耐力壁の配置

※充足率がいずれも１を超えているためＯＫ

階数	X U	X D	Y L	Y R
1	必要壁量 69.56 × 11 ＝ 765.16 設計壁量 U1① ＝ 1,365.00 U1② ＝ 4,713.80 合計 ＝ 6,078.80 壁量充足率 6,078.80／765.16＝7.94	必要壁量 69.56 × 11 ＝ 765.16 設計壁量 D1① ＝ 546.00 D1② ＝ 1,365.00 D1③ ＝ 1,232.10 合計 ＝ 3,143.10 壁量充足率 3,143.10／765.16＝4.11	必要壁量 69.56 × 11 ＝ 765.16 設計壁量 L1① ＝ 910.00 L1② ＝ 2,020.20 合計 ＝ 2,930.20 壁量充足率 2,930.20／765.16＝3.83	必要壁量 69.56 × 11 ＝ 765.16 設計壁量 R1① ＝ 1,137.50 R1② ＝ 2,188.55 合計 ＝ 3,326.05 壁量充足率 3,326.05／765.16＝4.35

関内地区地域会館新築工事（建築主体）	株式会社 建築設計工房ロゴス １級建築士事務所 登録 （渡）第 156号 １級建築士登録 第265505号 前田 健二	特記事項	訂正事項	検図	担当	作成	壁量計算図	縮尺 1：200 / 1： / 1：	図面番号 S－16